

大 紀 町

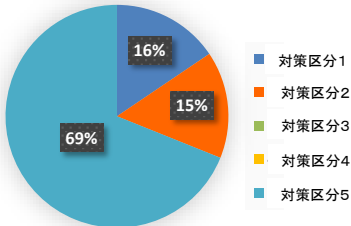
令和６年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和６年度版三重県市町要覧及び令和５年度版森林・林業統計書による）

市町名	大紀町	三重県
人口（人）	6,970	1,716,617
年少人口割合（％）＊１	6.5%	11.4%
森林面積(ha)	21,133.44	371,680.22
民有林面積(ha)＊２	20,407.78	348,212.01
森林率(%)	91%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊３	13.9	10.7

＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合



2. 令和６年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	1	溪流倒木等処理事業	4,000,700	4,000,400	4,000,400				
2	2	生活環境林整備事業	3,999,600	3,999,600		3,999,600			
3	5	大平つつじ山整備事業	18,612,770	17,755,163					17,755,163
計			26,613,070	25,755,163	4,000,400	3,999,600	0	0	17,755,163

3. 令和６年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	11.93	6,200,700	6,200,000	間伐等（災害緩衝林一体型）
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	大紀町は、大台山系に連なる山岳地帯に属しており急峻な地形で、本町面積23,332haのうち森林面積が21,132haとなっており、91%を占めている。そのうち人工林が13,900haと人工林率は68%に達している人工林地帯である。本町では、基本方針１の「災害に強い森林づくり」を強力に進めるため、生活環境林整備事業と溪流倒木等処理事業を実施し、町民生活の安全安心を向上させていくと共に、大雨時における森林内の危険木流出による被害拡大を軽減させるため、河川上流部に位置する大紀町としての役割を果たすことで、県民全体の安全安心に繋げていく。また、三重県の景勝地に指定されている『大平つつじ山』において、イベントや森林環境教育を行う場として整備を促進していく。
事業実施により期待される効果	溪流内倒木等の危険木や土砂を溪流外へ搬出及び流出対策を実施し、危険木が下流域へ流出すること及び、溪流外への越水等の影響を防ぐことで、災害の発生や増幅の可能性を低下させることにより、下流域住民の安全を図ると共に、倒木等の恐れがある危険木を除去することにより、地域住民や道路等施設利用者の安全を確保し、安全安心な住民生活の向上が期待できる。また、大平つつじ山の環境整備により、ツツジの開花状況が良くなり、利用者数が増加する。
情報発信への取組	事業実施については、森林所有者や地区代表者に税事業での実施を説明したい。 事業実施中は、県民税のばりを事業箇所を立て、県民税での事業実施をPRしている。 事業完了、当年行った事業においてPRポスターを作成し、庁舎掲示及び大紀町HPにアップ、町広報紙に掲載し税事業のPRを行う。

令和6年度 森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税(千円)
1	③ 私有林整備	56,041	46,041
2	④ 公有林整備（財産区有林含む）	775	775
3	⑦ その他（森林整備）	277	277
4	⑧ 担い手確保	660	660
5	⑨ 林業就業者の育成	470	470
6	⑩ 専門員の雇用	2,066	2,066
7	⑫ その他（人材育成等）	255	255
8	⑲ 基金積立（木材利用等）	30,000	30,000
	合計	90,544	80,544

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	渓流倒木等処理事業				
事 業 費	4,000,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,000,400	0	300

1. 事業の目的

過去の台風や豪雨により発生した山間部渓流添いの倒木や流木は今後豪雨が発生した際には、下流へ流出する可能性があり、自然災害を増幅させることが予想される。そのため、継続して倒木、流木の伐採・除去及び、小規模な渓流内への異常堆積土砂の流出対策を行うことにより、自然災害の拡大を抑制させる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

山間部渓流添いの危険倒木、流木等を伐採・除去（渓流外に搬出及び流出対策を実施）する。（県事業以外の小規模対象）

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

大紀町

【実施箇所及び箇所数】

6 箇所

【事業量】

滝原・大滝峡：危険木3本、崎・杣谷地区：危険木2本、崎・大地原地区：危険木20本、崎・羽下地区：危険木3本、錦・二河内地区：危険木10本異常堆積土砂流出対策等1式、錦・叔父ヶ谷地区：危険木100本
計 危険木137本、土砂流出対策1箇所

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

渓流内倒木等の危険木や流木を除去することにより、危険木が下流域へ流出し、橋梁等への衝突及び堆積の危険性を減少させ、渓流外への越水等の影響を防ぐことで、災害の発生や増幅の可能性を低下させることにより、下流域住民の安心・安全が向上した。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

倒木や流木の処理と共に、渓流内の異常堆積土砂の流出対策等を行うことにより、総合的に下流域の安心・安全が向上した。

【新たな対策・視点及び改善点】

当初からの継続事業で、地域住民からの要望も多く、今後も計画的に事業を行っていく。

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	渓流倒木等処理事業				
事 業 費	4,000,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,000,400	0	300

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

現地及び事業に精通した大紀森林組合を選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	1,030戸
期待する波及効果	事業実施箇所直下の集落だけでなく下流域全体の受益が見込まれる。

【公的関与の必要性】

森林所有者による整備が困難なため、町による緊急性の高い箇所を整備する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者に税事業での実施を説明する際に、その他目的に転用しないよう説明した。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	施業中に実施箇所にのぼりを設置し、県民税での実施を周知する。
ポスター掲示	実施後	当該年度実績を庁舎内に掲示し、県民税での実施を周知する。
HP掲載	実施後	当該年度実績を大紀町HPに掲載し、県民税での実施を周知する。
広報誌掲載	実施後	当該年度実績を広報たいきに掲載し、県民税での実施を周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

地区住民代表者への聞き取りによると、地域の安全性が向上し喜んでいる。

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町
事業名	溪流倒木等処理事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
溪流内危険木・流木処理、異常堆積土砂流出対策						
滝原大滝峡	グラップル使用	本	2	52,500	105,000	河川沿い
崎杣谷地区	グラップル使用	本	2	141,000	282,000	溪流内
崎大地原地区	人力	本	20	20,250	405,000	溪流内
崎羽下地区	人力	本	3	33,000	99,000	溪流内
錦二河内地区	人力	本	10	94,700	947,000	溪流内
	グラップル使用	式	1			
錦叔父ヶ谷地区	グラップル使用	本	100	17,990	1,799,000	溪流内
		小計			3,637,000	
		消費税及び地方税相当額			363,700	10%
		合計			4,000,700	

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	-----	-----	---------	----

事業名	溪流倒木等処理事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

崎・大地原地区 溪流内危険木 施工前



写真2

崎・大地原地区 溪流内危険木 施工中



写真3

崎・大地原地区 溪流内危険木 施工後



写真4

錦・叔父ヶ谷地区 溪流内流木等 施工前



写真5

錦・叔父ヶ谷地区 溪流内流木等 施工前



写真6

錦・叔父ヶ谷地区 溪流内流木等 施工中

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-------------------------	-----	-----	---------	----

事業名	溪流倒木等処理事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

錦・叔父ヶ谷地区 溪流内流木等 施工中



写真2

錦・叔父ヶ谷地区 溪流内流木等 施工後



写真3

錦・叔父ヶ谷地区 溪流内流木等 施工後



写真4

崎・杣谷地区 溪流内危険木 施工前



写真5

崎・杣谷地区 溪流内危険木 施工後



写真6

大紀町役場農林課事務所実績掲示状況

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	生活環境林整備事業				
事 業 費	3,999,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,999,600	0	0

1. 事業の目的	
公共施設や生活道路（通学路等）沿い及び人家裏等の倒木の恐れのある危険木を除去し、通常の暮らしの安全を図る。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 公共施設や生活道路（通学路等）沿い及び人家裏等の倒木の恐れのある危険木を除去する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 大紀町 【実施箇所及び箇所数】 7 箇所 【事業量】 野添・山村広場：危険木3本、滝原・大滝峡：危険木17本、崎・杣谷地区：危険木2本、錦・栄町地区：危険木10本、錦・大明神地区：危険木30本、錦・浅ヶ谷地区：危険木20本、錦・向井地区：危険木8本 計 危険木90本	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】 倒木等の恐れがある危険木を除去することにより、地域住民や道路等施設利用者の暮らしの安全を確保し、安全安心な住民生活の向上が期待できる。また、台風等の非常時における道路の通行止め等のリスクを下げ、住民避難時の安全性が確保できる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 地区住民等からの要望により事業実施しているが、特に危険度が高く緊急を要する箇所で、中でも公共性があり事業効果が発揮できる場所を優先しながら計画的に実施している。 【新たな対策・視点及び改善点】 当初からの継続事業で、地域住民からの要望も多く、今後も計画的に事業を行っていく。	

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	生活環境林整備事業				
事 業 費	3,999,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,999,600	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

現地及び事業に精通した大紀森林組合を選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	270戸
期待する波及効果	地区住民だけでなく、不特定多数の受益が見込まれる。

【公的関与の必要性】

土地所有者や森林所有者による整備が困難なため、町による緊急性の高い箇所を整備する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

土地所有者や森林所有者に税事業での実施を説明する際に、その他目的に転用しないよう説明した。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	施業中に実施箇所にのぼりを設置し、県民税での実施を周知する。
ポスター掲示	実施後	当該年度実績を庁舎内に掲示し、県民税での実施を周知する。
HP掲載	実施後	当該年度実績を大紀町HPに掲載し、県民税での実施を周知する。
広報誌掲載	実施後	当該年度実績を広報たいぎに掲載し、県民税での実施を周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

地区住民代表者への聞き取りによると、地域の安全性が向上し喜んでいる。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大紀町
事業名	生活環境林整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採・除去						
野添山村広場	高所作業車、グラップル使用	本	3	261,000	783,000	道路沿い斜面等
滝原大滝峡	高所作業車、グラップル使用	本	17	54,059	919,000	公園内平地
崎杣谷地区	高所作業車、グラップル使用	本	2	295,500	591,000	道路沿い平地
錦栄町地区	人力	本	10	13,200	132,000	避難所裏斜面
錦大明神地区	高所作業車使用	本	30	20,100	603,000	公園内平地
錦浅ヶ谷地区	人力	本	20	23,700	474,000	人家裏斜面
錦向井地区	人力	本	8	16,750	134,000	人家裏斜面
		小計			3,636,000	
		消費税及び地方税相当額			363,600	10%
		合計			3,999,600	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

崎・杣谷地区 生活道路危険木 施業前



写真2

崎・杣谷地区 生活道路危険木 施業中



写真3

崎・杣谷地区 生活道路危険木 施業後



写真4

錦・栄町地区 津波避難所危険木 施業前



写真5

錦・栄町地区 津波避難所危険木 施業前



写真6

錦・栄町地区 津波避難所危険木 施業中

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	継続
事業名	生活環境林整備事業				

7の(1). 写真



写真1

錦・栄町地区 津波避難所危険木 施業後



写真2

錦・栄町地区 津波避難所危険木 施業後



写真3

滝原・大滝峡 キャンプ場危険木 施業前



写真4

滝原・大滝峡 キャンプ場危険木 施業中



写真5

滝原・大滝峡 キャンプ場危険木 施業後



写真6

大紀町役場農林課事務所実績掲示状況

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
3	大平つつじ山整備事業				
事 業 費	18,612,770 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,000,000	14,755,163	857,607

1. 事業の目的

三重県の景勝地に指定されている『大平つつじ山』は、地元住民による環境整備が行われているが、イベント等を通じて森林環境教育を行える場として必要な遊歩道の整備や下刈りを行い、継続的に環境整備を行っていく。また、環境整備によるツツジの開花状況の改善も図っていく。

2. 事業実績概要

【事業内容】

森林環境教育を行う場として必要な『大平つつじ山』の環境整備（下刈り、遊歩道整備等）を行い、植栽等イベントによる森林環境教育の場を整備していく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

大紀町

【実施個所及び箇所数】

大平つつじ山 1箇所

【事業量】

イベントや森林環境教育を実施するための場所の整備 下刈り A=0.50ha、遊歩道の整備 L=180m

【下刈り全体計画A=5.4ha、遊歩道全体計画 L=373m】

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

遊歩道の幅員を広くとることで、近隣の特別養護老人ホームの入居者等が車や車いすでつつじ山に入ることができるようになり、よりつつじ山の美しい自然を身近に感じていただけるようになった。今後は車いす用の1m程度のスロープの設置も検討している。また、下刈り（除伐）により広葉樹に被圧されていた主林木のツツジの生育状況が良くなり、ツツジの開花状況が良くなることも期待でき、その結果利用者数の増加も期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

緑化基金事業によるツツジの植栽、中国青年公益事業交流団による植樹活動を当地で実施し、県民税の意義説明やPRを行った。「森の先生(森林組合職員)」を講師に迎えて行った森林教育出前授業については、今年度は小学校での実施となったが、今後は当つつじ山にて実施していく予定であり、森林環境教育活動の場としても計画的に活用していく。

【新たな対策・視点及び改善点】

三重県の景勝地として指定されており、長年の間地元住民でのイベント等を通じて環境整備を行ってきたが、森林環境教育を通じて、地元住民や小中学校と連携した環境整備の取り組みを実施していく。

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	大紀町	新規・継続の別	新規
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	大平つつじ山整備事業				
事 業 費	18,612,770 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,000,000	14,755,163	857,607

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
工事請負	建設業者	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

現地に精通し、過去のイベント実施や環境整備を行っていた地元建設業者を選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	地区住民だけでなく、不特定多数の受益が見込まれる。
期待する波及効果	来訪者の増加に伴う地域の活性化

【公的関与の必要性】

長年地元住民による保全活動やイベント等行い、観光資源としての整備を行ってきたが、地域住民の減少や高齢化が進み、住民団体では環境整備活動ができない状況である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

地域住民団体の再活動を促し、観光協会や小中学校と連携を図りながら環境整備に取り組むと共に、地域住民や一般来場者に憩いの場として提供する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	施業中に実施箇所にのぼりを設置し、県民税での実施を周知する。
ポスター掲示	実施後	当該年度実績を庁舎内に掲示し、県民税での実施を周知する。
HP掲載	実施後	当該年度実績を大紀町HPに掲載し、県民税での実施を周知する。
広報誌掲載	実施後	当該年度実績を広報たいぎに掲載し、県民税での実施を周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

下刈りや除伐を行うことによりツツジの開花状況が良くなり、環境整備が進むと来訪者の増加が見込まれ、地域の活性化につながると喜んでいる。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	大紀町
事業名	大平つつじ山整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
遊歩道整備	測量設計委託	式	1	—	1,000,000	
遊歩道整備	遊歩道整備工事請負	m	180	79,022	14,224,000	全体計画 L=373m
下刈り施業	林内・遊歩道草刈等	ha	0.50	54,059	1,696,700	全体計画 A=5.4ha
		小計			16,920,700	
		消費税及び地方税相当額			1,692,070	10%
		合計			18,612,770	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	大平つつじ山整備事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

遊歩道整備 着工前



写真2

遊歩道整備 完了後



写真3

遊歩道整備 完了後



写真4

除伐・下刈 施業前

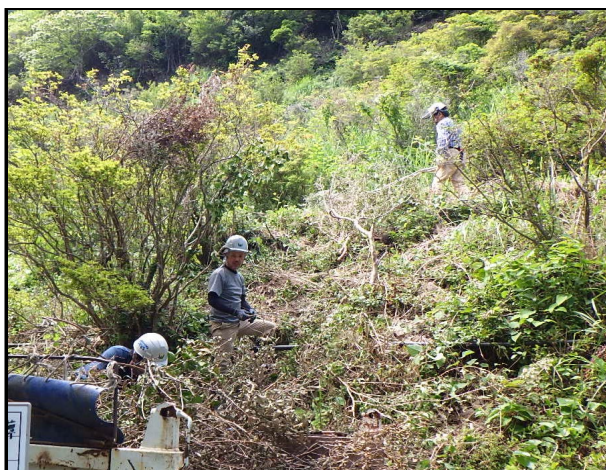


写真5

除伐・下刈 施業中



写真6

除伐・下刈 施業後

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	大紀町	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	大平つつじ山整備事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

緑化基金事業によるツツジの植栽



写真2

緑化基金事業によるツツジの植栽



写真3

外務省補助事業 日中植林・植樹国際連帯事業



写真4

中国青年公益事業交流団



写真5

森林教育出前授業（広報たいき掲載記事）

7/5

森林教育出前授業

この授業は「みえ森と緑の県民税」を活用したもので、地域の林業が自然環境や産業に及ぼす影響について探求する心を養うために企画されたものです。片岡淳也さん、福山成宣さんを「森の先生」としてお招きし、教室での座学のあと、木工室に場所を移して丸太切り体験とコースター作りを行いました。授業の終わりに児童たちは「木を切るのは思っていたより大変だった」「森林の大切さがわかった」などと、感想を述べていました。

1

広報たいき8月号（No.234）

写真6

下刈計画図

S=1:1000

金体計画 5.4ha

区画番号	区画名称	面積(㎡)	面積(ha)
1-1	1-1-1	3,702,865	3.703
1-2	1-1-2	3,667,616	3.668
1-3	1-1-3	3,674,052	3.674
1-4	1-1-4	3,669,378	3.669
1-5	1-1-5	3,669,378	3.669
1-6	1-1-6	3,698,030	3.698
1-7	1-1-7	3,698,030	3.698
1-8	1-1-8	3,700,752	3.701
1-9	1-1-9	3,700,752	3.701
1-10	1-1-10	3,700,752	3.701
1-11	1-1-11	3,700,752	3.701
1-12	1-1-12	3,700,752	3.701
1-13	1-1-13	3,700,752	3.701
1-14	1-1-14	3,700,752	3.701
1-15	1-1-15	3,700,752	3.701
1-16	1-1-16	3,700,752	3.701
1-17	1-1-17	3,700,752	3.701
1-18	1-1-18	3,700,752	3.701
1-19	1-1-19	3,700,752	3.701
1-20	1-1-20	3,700,752	3.701
1-21	1-1-21	3,700,752	3.701
1-22	1-1-22	3,700,752	3.701
1-23	1-1-23	3,700,752	3.701
1-24	1-1-24	3,700,752	3.701
1-25	1-1-25	3,700,752	3.701
1-26	1-1-26	3,700,752	3.701
1-27	1-1-27	3,700,752	3.701
1-28	1-1-28	3,700,752	3.701
1-29	1-1-29	3,700,752	3.701
1-30	1-1-30	3,700,752	3.701
1-31	1-1-31	3,700,752	3.701
1-32	1-1-32	3,700,752	3.701
1-33	1-1-33	3,700,752	3.701
1-34	1-1-34	3,700,752	3.701
1-35	1-1-35	3,700,752	3.701
1-36	1-1-36	3,700,752	3.701
1-37	1-1-37	3,700,752	3.701
1-38	1-1-38	3,700,752	3.701
1-39	1-1-39	3,700,752	3.701
1-40	1-1-40	3,700,752	3.701
1-41	1-1-41	3,700,752	3.701
1-42	1-1-42	3,700,752	3.701
1-43	1-1-43	3,700,752	3.701
1-44	1-1-44	3,700,752	3.701
1-45	1-1-45	3,700,752	3.701
1-46	1-1-46	3,700,752	3.701
1-47	1-1-47	3,700,752	3.701
1-48	1-1-48	3,700,752	3.701
1-49	1-1-49	3,700,752	3.701
1-50	1-1-50	3,700,752	3.701
1-51	1-1-51	3,700,752	3.701
1-52	1-1-52	3,700,752	3.701
1-53	1-1-53	3,700,752	3.701
1-54	1-1-54	3,700,752	3.701
1-55	1-1-55	3,700,752	3.701
1-56	1-1-56	3,700,752	3.701
1-57	1-1-57	3,700,752	3.701
1-58	1-1-58	3,700,752	3.701
1-59	1-1-59	3,700,752	3.701
1-60	1-1-60	3,700,752	3.701
1-61	1-1-61	3,700,752	3.701
1-62	1-1-62	3,700,752	3.701
1-63	1-1-63	3,700,752	3.701
1-64	1-1-64	3,700,752	3.701
1-65	1-1-65	3,700,752	3.701
1-66	1-1-66	3,700,752	3.701
1-67	1-1-67	3,700,752	3.701
1-68	1-1-68	3,700,752	3.701
1-69	1-1-69	3,700,752	3.701
1-70	1-1-70	3,700,752	3.701
1-71	1-1-71	3,700,752	3.701
1-72	1-1-72	3,700,752	3.701
1-73	1-1-73	3,700,752	3.701
1-74	1-1-74	3,700,752	3.701
1-75	1-1-75	3,700,752	3.701
1-76	1-1-76	3,700,752	3.701
1-77	1-1-77	3,700,752	3.701
1-78	1-1-78	3,700,752	3.701
1-79	1-1-79	3,700,752	3.701
1-80	1-1-80	3,700,752	3.701
1-81	1-1-81	3,700,752	3.701
1-82	1-1-82	3,700,752	3.701
1-83	1-1-83	3,700,752	3.701
1-84	1-1-84	3,700,752	3.701
1-85	1-1-85	3,700,752	3.701
1-86	1-1-86	3,700,752	3.701
1-87	1-1-87	3,700,752	3.701
1-88	1-1-88	3,700,752	3.701
1-89	1-1-89	3,700,752	3.701
1-90	1-1-90	3,700,752	3.701
1-91	1-1-91	3,700,752	3.701
1-92	1-1-92	3,700,752	3.701
1-93	1-1-93	3,700,752	3.701
1-94	1-1-94	3,700,752	3.701
1-95	1-1-95	3,700,752	3.701
1-96	1-1-96	3,700,752	3.701
1-97	1-1-97	3,700,752	3.701
1-98	1-1-98	3,700,752	3.701
1-99	1-1-99	3,700,752	3.701
1-100	1-1-100	3,700,752	3.701

*数値は1:5000による

工事名	金体計画 5.4haと跡の農地利用計画
図面名	大平つじ山歩道整備工事
位置	図
年月日	
尺度	1:1000
図面番号	1/9
会社名	
事務所名	大井町

計画平面図

S=1:500

大平つっじ山遊歩道 (全体延長) L=373m

R7以降施工 L=193m

R9施工 L=65m

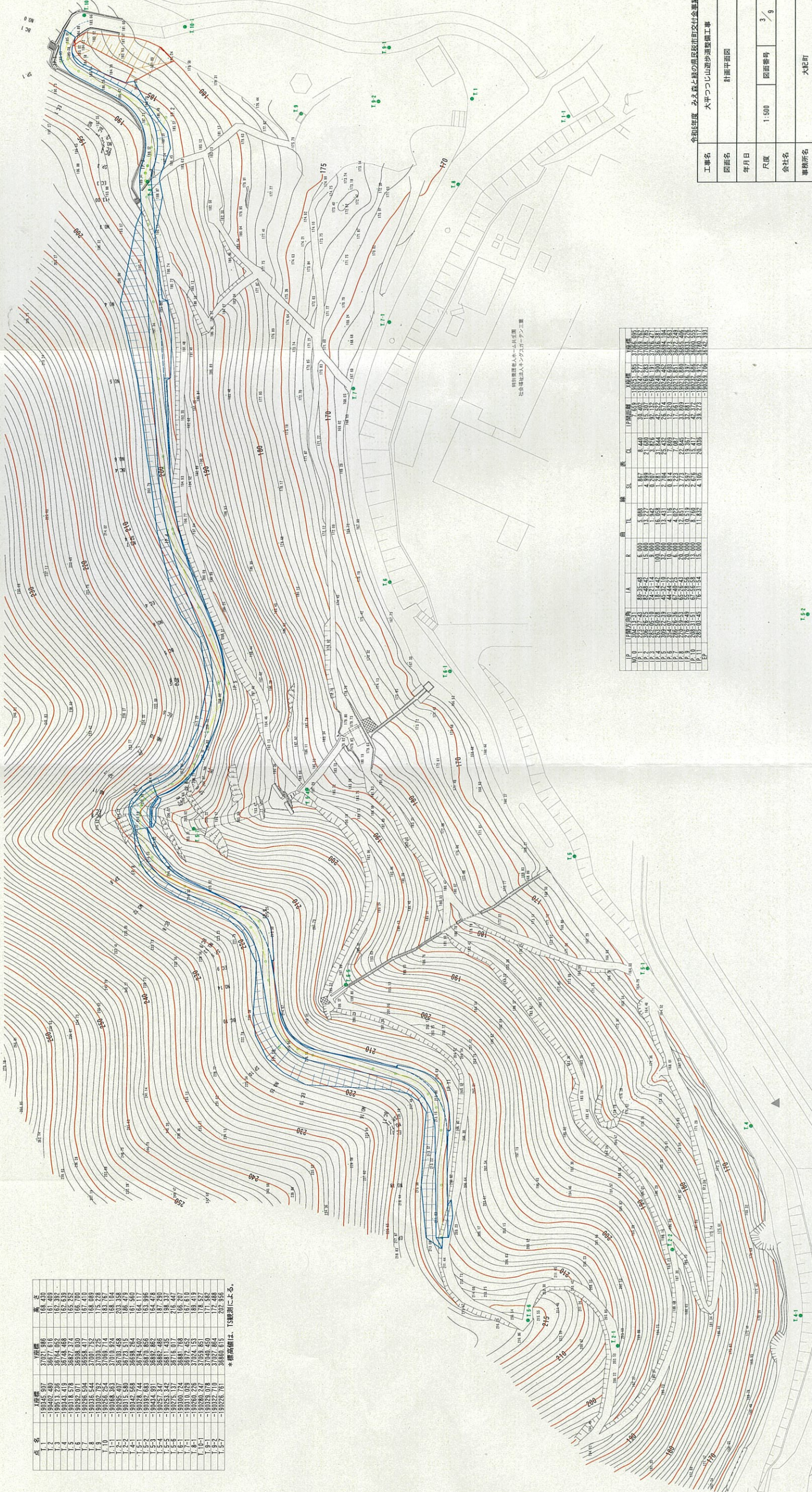
R8施工 L=64m

R7施工 L=64m

R6施工 L=180m

点名	経緯度	標高	高さ
1-1	3700.00	3700.00	3700.00
1-2	3700.00	3700.00	3700.00
1-3	3700.00	3700.00	3700.00
1-4	3700.00	3700.00	3700.00
1-5	3700.00	3700.00	3700.00
1-6	3700.00	3700.00	3700.00
1-7	3700.00	3700.00	3700.00
1-8	3700.00	3700.00	3700.00
1-9	3700.00	3700.00	3700.00
1-10	3700.00	3700.00	3700.00
1-11	3700.00	3700.00	3700.00
1-12	3700.00	3700.00	3700.00
1-13	3700.00	3700.00	3700.00
1-14	3700.00	3700.00	3700.00
1-15	3700.00	3700.00	3700.00
1-16	3700.00	3700.00	3700.00
1-17	3700.00	3700.00	3700.00
1-18	3700.00	3700.00	3700.00
1-19	3700.00	3700.00	3700.00
1-20	3700.00	3700.00	3700.00
1-21	3700.00	3700.00	3700.00
1-22	3700.00	3700.00	3700.00
1-23	3700.00	3700.00	3700.00
1-24	3700.00	3700.00	3700.00
1-25	3700.00	3700.00	3700.00
1-26	3700.00	3700.00	3700.00
1-27	3700.00	3700.00	3700.00
1-28	3700.00	3700.00	3700.00
1-29	3700.00	3700.00	3700.00
1-30	3700.00	3700.00	3700.00
1-31	3700.00	3700.00	3700.00
1-32	3700.00	3700.00	3700.00
1-33	3700.00	3700.00	3700.00
1-34	3700.00	3700.00	3700.00
1-35	3700.00	3700.00	3700.00
1-36	3700.00	3700.00	3700.00
1-37	3700.00	3700.00	3700.00
1-38	3700.00	3700.00	3700.00
1-39	3700.00	3700.00	3700.00
1-40	3700.00	3700.00	3700.00
1-41	3700.00	3700.00	3700.00
1-42	3700.00	3700.00	3700.00
1-43	3700.00	3700.00	3700.00
1-44	3700.00	3700.00	3700.00
1-45	3700.00	3700.00	3700.00
1-46	3700.00	3700.00	3700.00
1-47	3700.00	3700.00	3700.00
1-48	3700.00	3700.00	3700.00
1-49	3700.00	3700.00	3700.00
1-50	3700.00	3700.00	3700.00
1-51	3700.00	3700.00	3700.00
1-52	3700.00	3700.00	3700.00
1-53	3700.00	3700.00	3700.00
1-54	3700.00	3700.00	3700.00
1-55	3700.00	3700.00	3700.00
1-56	3700.00	3700.00	3700.00
1-57	3700.00	3700.00	3700.00
1-58	3700.00	3700.00	3700.00
1-59	3700.00	3700.00	3700.00
1-60	3700.00	3700.00	3700.00
1-61	3700.00	3700.00	3700.00
1-62	3700.00	3700.00	3700.00
1-63	3700.00	3700.00	3700.00
1-64	3700.00	3700.00	3700.00
1-65	3700.00	3700.00	3700.00
1-66	3700.00	3700.00	3700.00
1-67	3700.00	3700.00	3700.00
1-68	3700.00	3700.00	3700.00
1-69	3700.00	3700.00	3700.00
1-70	3700.00	3700.00	3700.00
1-71	3700.00	3700.00	3700.00
1-72	3700.00	3700.00	3700.00
1-73	3700.00	3700.00	3700.00
1-74	3700.00	3700.00	3700.00
1-75	3700.00	3700.00	3700.00
1-76	3700.00	3700.00	3700.00
1-77	3700.00	3700.00	3700.00
1-78	3700.00	3700.00	3700.00
1-79	3700.00	3700.00	3700.00
1-80	3700.00	3700.00	3700.00
1-81	3700.00	3700.00	3700.00
1-82	3700.00	3700.00	3700.00
1-83	3700.00	3700.00	3700.00
1-84	3700.00	3700.00	3700.00
1-85	3700.00	3700.00	3700.00
1-86	3700.00	3700.00	3700.00
1-87	3700.00	3700.00	3700.00
1-88	3700.00	3700.00	3700.00
1-89	3700.00	3700.00	3700.00
1-90	3700.00	3700.00	3700.00
1-91	3700.00	3700.00	3700.00
1-92	3700.00	3700.00	3700.00
1-93	3700.00	3700.00	3700.00
1-94	3700.00	3700.00	3700.00
1-95	3700.00	3700.00	3700.00
1-96	3700.00	3700.00	3700.00
1-97	3700.00	3700.00	3700.00
1-98	3700.00	3700.00	3700.00
1-99	3700.00	3700.00	3700.00
1-100	3700.00	3700.00	3700.00

*標高値は、1:5000による。



工事年度	令和5年度	みえ森と緑の豊後市町交付金事業
図面名	大平つっじ山遊歩道整備工事	計画平面図
年月日		
尺度	1:500	図面番号
会社名		3/9
事務所名		大北町

対策区分		市町名	大紀町	新規・継続の別	
事業名					
7の（2）. その他資料	大紀町ホームページへ掲載				

2025/04/22 11:24

みえ森と緑の県民税/大紀町ホームページ

みえ森と緑の県民税

更新日：2025年04月21日

森林は土砂災害の防止、水源地のかん養など私たちの生活に欠かすことのできない大切な働きを持っています。

しかし、山村地域では過疎化などにより手入れが不足した荒廃森林が増え、ゲリラ豪雨など異常気象が増加していることも考え合わせると、自然災害の発生リスクが高まっていると考えられます。

皆さんの生命・財産を守る「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、皆さんのご理解・ご協力をお願いします。

「みえ森と緑の県民税」のしくみ等については、三重県のホームページをご覧ください。
[※「みえ森と緑の県民税」（解説のページ）へ](#)

「みえ森と緑の県民税」の使いみちについて

〇土砂や洪水による被害を出さない森林づくり
 土砂や洪水によって人家や公共施設、沿岸及び施設等に被害が及ばないように、洪水調節や土砂災害防止機能等の森林の働きを発揮させるために必要な対策を進めます。

〇暮らしに身近な森林づくり
 生活環境の保全や向上のため、県民の暮らしにかかわりの深い森林について必要な対策を進めます。

〇森を育むづくり
 「災害に強い森林づくり」を将来に引き継ぎ、また森林やみどりを大切に思い・育むづくりのため、森林環境教育・木育に携わる人材の育成や、教育活動を進めます。

〇森と人をつなぐ学びの場づくり
 求職支援や児童生徒をはじめ、様々な県民の森林や木材について学び・ふれあう場を提供し、森と県民との関係を深める対策を進めます。

〇地域の身近な水や緑の環境づくり
 地域の身近な水や緑の環境づくりを進めるため、森・川・海のつながりを意識した森林や緑、水辺環境を守り、生物多様性を保全する活動支援や、森林や緑と親しむための環境整備等、身近な水や水辺環境と県民との関係を深める対策を進めます。

大紀町で実施した「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」の紹介

[令和6年度実施計画（PDFファイル: 754.05KB）](#)

[令和5年度実施計画（PDFファイル: 5.1MB）](#)

[令和4年度実施計画（PDFファイル: 1.8MB）](#)

[令和3年度実施計画（PDFファイル: 2.0MB）](#)

[令和2年度実施計画（PDFファイル: 2.2MB）](#)

[平成28年度実施計画（PDFファイル: 485.0KB）](#)

この記事に関するお問い合わせ先

森林課
 〒519-2703 三重県度会郡大紀町海蔵1610番地1
 電話番号：0598-86-2246
 ファックス：0598-86-3660
[メールフォームによるお問い合わせ](#)

対策区分		市町名	大紀町	新規・継続の別	
事業名					
7の（2）. その他資料	大紀町ホームページへ掲載				



令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業実施状況

1. 溪流倒木等処理事業
2. 生活環境林整備事業
3. 大平つつじ山整備事業
4. 流域防災機能強化対策事業

みえ森と緑の県民税

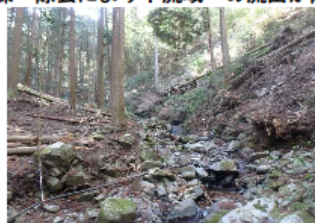
1. 溪流倒木等処理事業

事業の目的：過去の台風や豪雨により発生した溪流添いの倒木や流木を伐採・除去することにより、今後豪雨が発生した際に、下流への流出を未然に防ぐことにより、自然災害の拡大を抑制させます。

大紀町崎地内の溪流内に堆積した危険木



倒木の伐採・除去により下流域への流出が防げました



大紀町錦地内の溪流内に堆積した流木



流木の除去により下流域への流出が防げました



この事業により、上記の2箇所と外4箇所で合計130本の危険木や流木を伐採・除去し、住民の皆様の安全安心が確保・向上しました。



対策区分		市町名	大紀町	新規・継続の別	
事業名					

7の(2)．その他資料

大紀町ホームページへ掲載

2. 生活環境林整備事業

事業の目的：公共施設や生活道路（通学路等）沿い及び人家裏等の倒木の恐れのある危険木を除去し、地域住民の通常の暮らしの安全安心を図ります。

大紀町野添地内の山村広場の危険木



危険木の除去により地域住民・施設利用者の安全が図られました



大紀町滝原地内の大滝峡キャンプ場の危険木



危険木の除去により施設利用者の安全が確保されました



この事業により、上記の2箇所と外5箇所で合計90本の危険木を伐採・除去し、住民の皆様の安全安心が確保・向上しました。



3. 大平つつじ山整備事業

事業の目的：イベント等を通じて森林環境教育を行える場として必要な遊歩道の整備や下刈りを実施し、継続的に環境整備を行っていく。また、環境整備によるツツジの開花状況の改善も図っていく。

事業の内容：遊歩道の新設整備 180m と除伐・下刈り 0.5ha を行い、環境の整備が進むことにより、利便性が向上するほか、ツツジの開花状況が良くなり、利用者の増加とより多くの人に自然環境や森林の大切さについて理解向上を図りました。
また関連事業として、緑化基金事業によるツツジの植栽や外務省の事業である中国青年公益事業交流団による記念植樹、大紀小学校において5年生を対象に森林教育出前授業を実施しました。

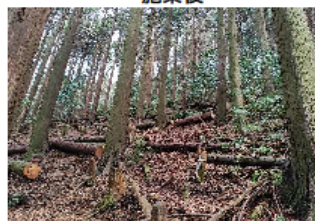
4. 流域防災機能強化対策事業

事業の目的：三重県と連携し、土壌浸食の恐れのある溪流沿いの森林において、根系や下層植物の発達を促す森林整備を行い、流域における防災機能の強化を図る。

施業前



施業後



この事業により、大紀町柏野地内 11.93ha の森林整備（間伐）を行い、流域における防災機能の強化を図りました。



南 伊 勢 町

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和6年度版三重県市町要覧及び令和5年度版森林・林業統計書による）

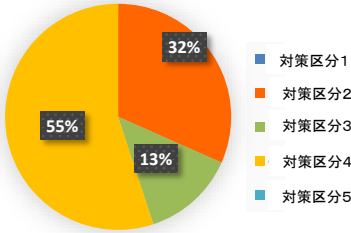
市町名	南伊勢町	三重県
人口（人）	9,684	1,716,617
年少人口割合（％）＊1	5.4%	11.4%
森林面積(ha)	20,615.57	371,680.22
民有林面積(ha)＊2	20,416.18	348,212.01
森林率(%)	85.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	0.3	10.7

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合



2. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	危険木除去事業	3,691,600	3,616,000		3,616,000				
2	3	森林環境教育事業	1,527,900	1,520,000			1,520,000			
3	4	保育園木製備品購入事業	6,321,700	6,290,000				6,290,000		
計			11,541,200	11,426,000	0	3,616,000	1,520,000	6,290,000	0	0

3. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	当町の森林・林業を取り巻く情勢として、総土地面積の約85％（20,630ha）が森林で覆われているにもかかわらず、林業経営体は14経営体しかおらず、林業者が極めて少ない状況となっています。森林の整備についても、整備が行われていない森林が大半であり、森林所有者の関心が低くなっていることが窺えます。そのような状況の中、森林について興味関心が持てるように、公共施設周辺や通学路・避難道等にかかる危険木の除去や、森林環境教育事業による森や海を大切に思う子どもの育成、子どもや町民が森林や木材についてふれあいながら学ぶことができる場づくりなど、町民が将来にわたって安全安心に過ごしながら森や緑と関わる機会を創出することを目的に県民税を活用する。
事業実施により期待される効果	危険木の除去については、自然災害等による倒木を未然に防ぐことで、安全安心して暮らすことに寄与している。 森林環境教育事業については、樹木について知識を得ることや木製品が身近にあることで森と緑の大切さを理解し、森林について考えるきっかけづくりへの寄与を期待している。 保育園木製備品購入事業については、日常的に木材製品とふれあうことにより、木製製品のあたたかみを感じることで保育環境の向上につながると考えている。
情報発信への取組	町の広報誌やHP等への掲載することにより、情報発信を行いました。

令和6年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	⑩ 専門員の雇用	10,554	10,554
2	⑰ 基金積立（森林整備等）	35,378	35,378
3			
4			
5			
	合計	45,932	45,932

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	危険木除去事業				
事 業 費	3,691,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,616,000		75,600

1. 事業の目的

公共施設の周辺や通学路、避難道等の危険木を除去することで、災害に強い森林づくりを進めるとともに安心安全な街づくりを目指し、地域住民の生活環境の向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

地域住民の要望を確認し、公共施設の周辺や通学路、避難道等の危険木の除去を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

南伊勢町（委託契約先：いせしま森林組合）

【実施箇所及び箇所数】

4箇所（栃木竈・飯満・神前浦・伊勢地）

【事業量】

栃木竈：避難道路沿い36本、飯満：避難道路沿い5本、神前浦：避難路沿い50本、伊勢地：避難路沿い3本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

通学路、避難道など、町民が日常に多く利用する道路や、緊急時に必要となる道路周辺の危険な状態の木が除去されたことにより、安全安心な街づくりに寄与した。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

伐採中の道路通行止め等について、地元へ協力をいただき円滑に実施できた。

伐採後の土砂対策について地元の区と協議した。

【新たな対策・視点及び改善点】

危険な箇所を事前に対策するため、地元と情報交換を行った。

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
1	危険木除去事業				
事 業 費	3,691,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,616,000		75,600

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		
委託事業	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

町の規定に基づき、度会町・大紀町・大台町の認定林業事業体から、指名競争入札で選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	栃木竈10人 飯満83人 神前浦544人 伊勢地121人
期待する波及効果	町民の安全安心な生活に寄与している。

【公的関与の必要性】

通学路や避難道の安全は確保する必要があるが、高齢化も進んでおり、また技術が必要であることや、緊急に実施する必要性があるため、所有者による整備は困難であると考えられる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

通学路や避難道の安全のための緊急の危険木除去であり、箇所の転用の制限等は設けずに柔軟に対応していきたいと考えている。管理体制については、町や管理者により適切に管理していく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	みえ森と緑の県民税の説明とともに、令和5年度事業実績として効果が分かりやすいように実施前と実施後の写真と併せて公開する。
広報誌掲載	今後	みえ森と緑の県民税の説明とともに、効果が分かりやすいように実施前と実施後の写真と併せて公開する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

地元の区長から感謝の言葉をいただいた。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町
事業名	危険木除去事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
直接費	危険木伐採工(栃木竈)	式	1	1,363,198	1,363,198	
直接費	危険木伐採工(飯満)	式	1	262,679	262,679	
直接費	危険木伐採工(神前浦)	式	1	100,580	100,580	
直接費	危険木伐採工(伊勢地)	式	1	58,590	58,590	
諸経費	共通仮設費 等	式	1	1,570,953	1,570,953	
消費税		%	10		335,600	
		合計			3,691,600	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木除去事業
-----	---------

7の(1). 写真



写真1

朽木竈 実施前



写真2

朽木竈 実施後



写真3

神前浦 実施前



写真4

神前浦 実施後



写真5

伊勢地 実施前



写真6

伊勢地 実施後

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	森林環境教育事業				
事 業 費	1,527,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,520,000		7,900

1. 事業の目的

森林や緑を大切に思い育む人づくりや、森林への理解を深めるため、小学生を対象に、森林の働きや木材について学びふれあう機会となる森林環境教育を実施する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

町内の小学生を対象に、樹木や木製品について学びふれあうことを目的とした物品調達を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

南伊勢町（委託契約先：いせしま森林組合）森林環境教育支援業務
南伊勢町（委託契約先：いなべ自然学校）木の時計作り

【実施個所及び箇所数】

4箇所（南島西小学校・南島東小学校・南勢小学校・南勢中学校）

【事業量】

南勢小学校：5年生16名
南島西小学校：1～2年生22名
南島東小学校：1～2年生14名
南勢中学校：1年生20名 計116名及び学校関係者

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森林や木材にふれあう機会が少ない現代の子どもたちにおいて、木や緑とふれあう貴重な機会であり、森林に興味を持ってもらえることを期待している。
樹木について興味を持ってもらえることや、木製品を身近に使用することで森や緑について考えてもらうきっかけづくりとなっている。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

森のせんせいに授業をしてもらうことで、森林の働きや仕組みを知ってもらうことに効果を期待できた。また、木にふれたり自分で作る達成感を感じてもらった。

【新たな対策・視点及び改善点】

事業実施の時期について、学校の意向に沿いながらも感染症の流行が低下している時期に実施した。

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森林環境教育事業				
事 業 費	1,527,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,520,000		7,900

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

物品調達については、実績のあるいせしま森林組合を町の規定に基づき、随意契約を行なった。森林教育の講師は県民税を活用して設立されたみえ森づくりサポートセンターに森のせんせいとして登録がある方を選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	南勢小学校：5年生16名 南島西小学校：1～2年生22名 南島東小学校：1～2年生14名 南勢中学校：1年生20名及び学校関係者に対して実施。
期待する波及効果	森や緑を大切に考える子どもの育成

【公的関与の必要性】

通常の授業のほか、総合的な学習として森林環境教育を実施することは、これからの地域を支える子どもたちにとって非常に重要である。また森林環境教育を校外の先生が行うことは、子どもたちの関心が格段に高まるなどの効果が期待できる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林環境教育事業であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	みえ森と緑の県民税の説明とともに、令和6年度事業実績として効果が分かりやすいように公開する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

実際に見て聞いて触って体験をすることで森林を身近に感じていただく事ができた。

第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	南伊勢町
------	-------------	-----	------

事業名	森林環境教育事業
-----	----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
	南勢小学校					
講師料	1クラス2限	クラス	1	20,000	20,000	
準備費	企画、打合せ、キーホルダー作成、葉っぱ採取等	式	1	84,000	84,000	
資材費	オイル、木箱、湯玉等	式	1	126,000	126,000	
交通費	36km×23円/km×1台/1	式	1	752	752	
	南島東小学校					
講師料	1クラス2限	クラス	1	20,000	20,000	
準備費	企画、打合せ、マグネット材料作成、葉っぱ採取等	式	1	84,000	84,000	
資材費	オイル、木箱、湯玉等	式	1	124,000	124,000	
交通費	52km×23円/km×1台/1	式	1	1,087	1,087	
	南島西小学校					
講師料	1クラス2限	クラス	1	20,000	20,000	
準備費	企画、打合せ、マグネット材料作成、葉っぱ採取等	式	1	84,000	84,000	
資材費	オイル、木箱、湯玉等	式	1	180,000	180,000	
交通費	67.2km×23円/km×1台	式	1	1,700	1,700	
	南勢中学校					
講師料	1クラス2限	クラス	1	20,000	20,000	
準備費	企画、打合せ、マイ箸作成、葉っぱ採取等	式	1	84,000	84,000	
資材費	アマニ油、木製品等	式	1	158,400	158,400	
交通費	36km×23円/km×1台/1	式	1	752	752	
管理費	間接経費	%以内	20		200,309	
	小学生（木の時計作り）					
キット台		個	250	600	150,000	
諸経費		式	1	30,000	30,000	
		小計			1,389,000	
		消費税及び地方税相当額			138,900	10%
		合計			1,527,900	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	森林環境教育事業
-----	----------

7の(1). 写真



写真1

南島東小学校



写真2

南勢小学校



写真3

南島西小学校



写真4

南勢中学校



写真5

木の時計作り（3小学校）



写真6

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	保育園木製備品購入事業				
事 業 費	6,321,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,290,000		31,700

1. 事業の目的

子どもが森林や木材についてふれあいながら学ぶことができる場づくりなど、子どもが将来にわたって安全安心に過ごしながら森や緑と関わる機会を創出することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

保育園に三重県産木材を使用した木製備品を導入する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

南伊勢町（契約先：いせしま森林組合）

【実施個所及び箇所数】

3箇所（なかよし保育園・子育て支援センター・子育て支援サロン）

【事業量】

座卓3台、倉庫用木製棚8台、園児用スタッキングテーブル（2歳児）4台、園児用スタッキングテーブル（3～5歳児）10台、園児用スタッキングチェア（2歳児）12脚、園児用スタッキングチェア（3～5歳児）26脚、看板2枚

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

保育園、子育て支援センター及び子育て支援サロンは日常利用される場である。日常的に緑と関わる機会を創出することで、木材のぬくもりを感じてもらい、心身の健康面での効果が期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

日常的に利用されるような備品について導入することで、木材のぬくもりを感じてもらえるように工夫した。今後は、保育園では、年長（年中）クラスを対象に、木材を用いた木工教室の開催。

【新たな対策・視点及び改善点】

今後は未導入の保育園等にも利用していきたい。

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
3	保育園木製備品購入事業				
事 業 費	6,321,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,290,000		31,700

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

町の規定に基づき、津以南に本店または営業所を有し、事務用品、保育教材に登録のある業者から、指名競争入札で選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	園児数 156名
期待する波及効果	木材や森林を身近に感じながら木製備品を利用できる

【公的関与の必要性】

町が管理する施設であるため。子どもが木材に触れながら活用していただくことを目的に、公的な整備が必要であった。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

公共施設の整備であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	みえ森と緑の県民税の説明とともに、令和6年度事業実績として効果が分かりやすいように公開する。
標識・標柱等設置	実施中	みえ森と緑の県民税を活用したことがわかる看板を設置した。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

利用者より、木材のぬくもりを感じることができると感謝の声が上がってきている。

第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	南伊勢町
事業名	保育園木製備品購入事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
座卓		台	3	175,000	525,000	保育園
倉庫用木製棚		脚	8	376,000	3,008,000	
園児用スタッキング グテーブル（2歳		台	4	85,000	340,000	
園児用スタッキング グテーブル（3～5		台	10	85,000	850,000	
園児用スタッキング グチェア（2歳児）		脚	12	18,800	225,600	
園児用スタッキング グチェア（3～5歳		脚	26	18,800	488,800	
看板		枚	2	18,000	36,000	
諸経費	運搬費含む	式	1	273,600	273,600	
		小計			5,747,000	
		消費税及び地方税相当額			574,700	10%
		合計			6,321,700	

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	南伊勢町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	------	---------	----

事業名	保育園木製備品購入事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

座卓



写真2

倉庫用木製棚



写真3

園児用スタッキングテーブル（2歳児）



写真4

園児用スタッキングテーブル（3～5歳児）



写真5

園児用スタッキングチェア（2歳児）



写真6

園児用スタッキングチェア（3～5歳児）

市 張 名

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和6年度版三重県市町要覧及び令和5年度版森林・林業統計書による）

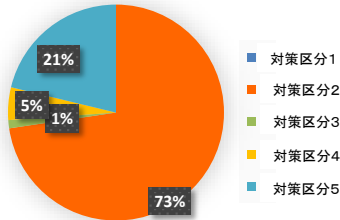
市町名	名張市	三重県
人口（人）	73,459	1,716,617
年少人口割合（％）＊1	11.3%	11.4%
森林面積(ha)	6,827.35	371,680.22
民有林面積(ha)＊2	6,827.35	348,212.01
森林率(%)	53.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	14	10.7

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	危険木伐採事業	4,461,150	4,409,500		4,409,500			
2	2	未利用間伐材バイオマス利用 推進事業	180,150	180,150		180,150			
3	2	人家裏危険木伐採事業	1,350,000	1,350,000		1,350,000			
4	3	森林環境教育推進事業	100,000	100,000			100,000		
5	4	学校林整備事業	400,000	400,000				400,000	
6	5	森林公園等環境活用整備事業	300,000	300,000					300,000
7	5	桜並木保全管理事業	400,000	400,000					400,000
8	5	国定公園環境整備事業	1,035,000	1,035,000					1,035,000
		基金積立	3,000,000	3,000,000					3,000,000
計			11,226,300	11,174,650	0	5,939,650	100,000	400,000	1,735,000

3. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	11.91ha	4,400,000	4,400,000	間伐作業（滝之原、赤目町一ノ井、中知山、青蓮寺、神屋 地内）
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	名張市は、周囲を山々に囲まれた山間盆地であり、林野率は52.7%、人工林率は65.0%で、森林の主体をなす私有林においては、5ha未満の所有者が全体の52.1%を占めている。特に、南部は森林資源が豊富で、かつては優良な木材を産出する地域であったが、最近の社会情勢の変化に伴い伐採適齢期を過ぎても放置されている森林が急増し、里山としての利用すらほとんどなくなっている。 しかし、森林の持つ多様な公益的機能は市民にとってかけがえのない財産であり、名張市が目指そうとする「福祉の理想郷づくり」には欠かせない重要な要素であることから、森林の機能低下を防ぎその向上を図るため、災害に強い森林づくりとして森林整備を進めるとともに、市民が森と緑に触れ合う機会を創出し、森を育む人及び学びの場づくりを進める。
事業実施により期待される効果	「災害に強い森林づくり」に沿った事業の実施により、あまり手入れされることがなく放置され、市民の生活圏を脅かしていた森林が整備されたことで、市民がより安心して暮らせるようになる。また、森林への関心が高まる今日、「県民全体で森林を支える社会づくり」に沿った事業の実施により、森林環境教育を推進し、次代を担う子どもたちが森林や緑に対する関心を深めることで森林の重要な役割に気付くきっかけづくりとなる。
情報発信への取組	事業内容やその成果については広報誌及びHP、ラジオ放送により、広く市民に周知している。また、事業実施現場にはのぼり旗や看板を設置することで、みえ森と緑の県民税の存在を最大限周知できるよう努めた。さらに小学校関連の事業については、教員、保護者、地域住民等もボランティアスタッフ等として広く参加を呼び掛けて実施し、財源にはみえ森と緑の県民税が活用されていることを周知した。 その他、3月上旬から始まる確定申告にあわせ、名張市役所1階にみえ森と緑の県民税に関するパネルを展示した。また、パネル展示に併せてみえ森と緑の県民税に関するアンケートを設置し、回答いただいた方にクリアファイル・ハンカチ等のグッズを配布することで、市庁舎を訪れる大勢の方に向けて県民税の周知を行い、アンケート結果から今後の事業改善につなげていくことに努めた。

令和6年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税(千円)
1	② 意向調査	13,342	13,342
2	③ 私有林整備	4,997	4,997
3	⑥ 林道・林専道の整備等	858	858
4	③ 私有林整備	921	921
5	③ 私有林整備	175	175
6	⑩ 専門員の雇用	2,003	2,003
7			
8			
9			
10			
	合計	22,296	22,296

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	4,461,150 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,409,500	0	51,650

1. 事業の目的

市道、通学路等及び市有施設の周辺や緑地（市有地）にあって、倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、道路施設・公共施設周辺の森林を整備することで、市民の財産を保全し、暮らしの安心・安全を確保する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

通学路等及び市有施設の周辺や緑地（市有地）にあり、降雨、強風等により倒木の危険がある樹木を業者により伐採を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張市

【実施箇所及び箇所数】

市内25箇所

【事業量】

危険木伐採80本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

道路施設・公共施設への倒木を未然に防ぐことにより、市民の暮らしの安心・安全を確保することができる。

市道の危険木伐採により、台風時等の道路機能の寸断を防ぎ、避難所への経路が確保される。また通学路等の危険木伐採により子供たちの通学の安全・安心が確保される。さらに、公共・公益施設周辺の危険木伐採により、子供たちの学校等での生活における安全・安心と公民館等利用者の安全・安心が確保される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

住民からの要望がある箇所で危険度の高いところを選定し事業を実施した。

【新たな対策・視点及び改善点】

危険木の伐採にあたり一律に根元から伐採することは避けるなど、状況に応じた伐採方法を柔軟に選択する。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事 業 費	4,461,150 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,409,500	0	51,650

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

道路に面した森林において、高度な技術を要する特殊伐採を実施するため、地元造園業者等へ委託した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	危険木伐採箇所を通行する名張市民多数
期待する波及効果	通行人からの波及効果が期待される

【公的関与の必要性】

市民の暮らしの安心・安全を確保するため、公的に取り組む必要がある

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

道路管理者や公共施設管理者が適切に管理する

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	事業実施箇所
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
①危険木伐採	クレーン車使用	本	3	297,000	297,000	名張市 下比奈知 地内
②危険木伐採		本	1	70,400	70,400	名張市 滝之原 地内
③危険木伐採	バックホウ使用	本	1	297,000	297,000	名張市 つつじが丘北9番町 地内
④危険木伐採	クレーン車使用	本	9	275,000	275,000	名張市 安部田 地内
⑤危険木伐採	高所作業車使用	本	12	297,000	297,000	名張市 中知山 地内
⑥危険木伐採	高所作業車使用	本	5	163,600	163,600	名張市 下比奈知 地内
⑦危険木伐採	高所作業車	本	3	297,000	297,000	名張市 つつじが丘南5番町 地内
⑧危険木伐採		本	2	126,500	126,500	名張市 梅が丘北1番町 地内
⑨危険木伐採	高所作業車	本	1	145,200	145,200	名張市 夏見 地内
⑩危険木伐採		本	1	96,800	96,800	名張市 桔梗が丘西6番町 地内
⑪危険木伐採		本	1	92,400	92,400	名張市 すずらん台西1番町 地内
⑫危険木伐採	高所作業車	本	1	93,500	93,500	名張市 百合が丘西5番町 地内
⑬危険木伐採		本	1	99,000	99,000	名張市 すずらん台西2番町 地内
⑭危険木伐採		本	2	160,600	160,600	名張市 百合が丘 地内
⑮危険木伐採	高所作業車	本	1	96,800	96,800	名張市 つつじが丘南2番町 地内
⑯危険木伐採		本	6	172,700	172,700	名張市 緑が丘中 地内
⑰危険木伐採	高所作業車	本	2	187,000	187,000	名張市 百合が丘西2番町 地内
⑱危険木伐採	バックホウ使用	本	2	163,900	163,900	名張市 すずらん台東4番町 地内
⑲危険木伐採	バックホウ使用	本	5	294,800	294,800	名張市 つつじが丘南8番町 地内
⑳危険木伐採		本	1	73,800	73,800	名張市 鴻之台5番町 地内
㉑危険木伐採		本	7	163,900	163,900	名張市 すずらん台西1番町 地内
㉒危険木伐採	高所作業車	本	1	163,100	163,100	名張市 すずらん台東4番町 地内
㉓危険木伐採		本	10	467,500	467,500	名張市 桜が丘 地内
㉔危険木伐採		本	1	89,650	89,650	名張市 丸之内 地内
㉕危険木伐採		本	1	77,000	77,000	名張市 夏見 地内
		合計			4,461,150	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7の（1）. 写真



写真1

下比奈知地内（施工前）



写真2

下比奈知地内（施工後）



写真3

夏見地内（施工前）



写真4

夏見地内（施工後）



写真5

つつじが丘南2番町地内（施工前）



写真6

つつじが丘南2番町地内（施工後）

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	180,150 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			180,150	0	0

1. 事業の目的

森林所有者による未利用間伐材の利用を推進することにより、木質バイオマス資源の活用を図ると共に、森林の健全化を図る。

採算が合わず森林内に放置されている未利用間伐材を名張市内の森林から搬出及び運搬する経費を助成することで搬出を促進し、木質バイオマス燃料として活用するとともに、森林の持つ多面的機能の向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

木質バイオマスの利用促進を図るため、未利用間伐材を名張市内の山林から伊賀管内のF I Tに基づく木質バイオマス燃料買取実施場所までの搬出及び運搬に要する経費を助成した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

事業に参画する林家

【実施個所及び箇所数】

補助事業実施者：4名

整備が行われた山林：4箇所

【事業量】

未利用間伐材の搬出 72.06t

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

- ・利用率の低い未利用間伐材のバイオマス資源利用が推進される。
- ・森林の健全化、未利用残材の処理を推進することにより災害時の林地残材の流失防止に繋がる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

特になし

【新たな対策・視点及び改善点】

特になし

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	180,150 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			180,150	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	個人	定額補助	2,500円/t	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった個人を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市民・県民多数
期待する波及効果	森林整備が行われることによる森林の多面的機能の向上

【公的関与の必要性】

木材価格が下落した昨今において、木材の搬出に公的関与が必要となる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

林家個人が適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
------	-----------------	-----	-----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	2.49	2,500	6,225	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	6.95	2,500	17,375	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	3.36	2,500	8,400	
搬出費用補助	未利用間伐材のバイオマス利用補助	t	59.260	2,500	148,150	
		合計			180,150	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7の(1). 写真



写真1

伐採前写真



写真2

伐採後写真



写真3

搬出状況写真



写真4

搬入状況写真



写真5

搬出状況写真



写真6

搬入状況写真

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	人家裏危険木伐採事業				
事 業 費	1,350,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,350,000	0	0

1. 事業の目的

人家裏にある危険木を伐採することで、災害を未然に防止し住民の通常の暮らしの安心・安全を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね樹高が人家と木との距離以上の木の伐採について、伐採に要する費用のうち1本あたり10,000円以内で助成を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民 8戸

【実施個所及び箇所数】

8件

【事業量】

153本の危険木を伐採

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

災害時等に人家に危険を及ぼす恐れのある樹木の伐採により、災害を未然に防止し、住民の通常の暮らしの安心・安全が確保される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

特になし

【新たな対策・視点及び改善点】

人命及び人家を守るため継続して実施する必要がある。また、受益者だけではなく、この事業の有益性や必要性などを広報などにより広く市民に向けて情報発信を行う。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	人家裏危険木伐採事業				
事 業 費	1,350,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,350,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	個人	定額補助	1件 上限 300,000円 1本当たり10,000円以内	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった個人を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市民・県民多数
期待する波及効果	森林整備が行われることによる森林の多面的機能の向上

【公的関与の必要性】

市民の生命及び安全な暮らしを守るために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

個人が適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施前	市の広報誌（広報なばり）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市
事業名	人家裏危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採		本	25	10,000	250,000	
危険木伐採		本	48	10,000	300,000	
危険木伐採		本	10	10,000	100,000	
危険木伐採		本	26	10,000	260,000	
危険木伐採		本	15	10,000	150,000	
危険木伐採		本	8	10,000	80,000	
危険木伐採		本	11	10,000	110,000	
危険木伐採		本	10	10,000	100,000	
	合計		153		1,350,000	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

赤目町柏原地内（施工前）



写真2

赤目町柏原地内（施工後）



写真3

夏秋地内（施工前）



写真4

夏秋地内（施工後）



写真5

上比奈知地内（施工前）



写真6

上比奈知地内（施工後）

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	森林環境教育推進事業				
事 業 費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0

1. 事業の目的

全国的に森林環境教育の重要性が高まる中で、初等教育の過程において森林・自然への理解や関心を高めるため、小学校と地域づくり組織が共同で森林教育を行う。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内小学校が実施する、森林公園・学校林等でのフィールドワーク等の体験型学習及び森林の公益的機能に関する学習会等、森林環境教育として相応しい活動内容の事業に対し、活動費用の補助を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内地域づくり組織（桔梗が丘自治連合協議会）

【実施個所及び箇所数】

1校（桔梗が丘小学校）

【事業量】

1校 補助事業費：100,000円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森林環境教育を受けた子ども達が、森林・自然への理解と関心を深めることができる。活動経費の補助により森林環境教育を実施する機会が増加する。

また、本事業を実施するにあたりボランティアスタッフも森林・自然への理解と関心を深める機会となり、地域づくり組織が率先して地域の小学生と交流する場となる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

地域住民への波及効果を期待してできるだけ多くのボランティアスタッフに協力いただいている。

【新たな対策・視点及び改善点】

森林教育を通して、小学生、保護者が地域づくり組織と交流する場が確保されることは、地域にとって有意義な活動であるとともに、初等教育において里山等への関心を深める活動は貴重な経験となる。クイズラリーに関しては、毎年異なった問題が出題されており、地域づくり組織の工夫も感じられる。また、記念品として、参加した小学生に間伐材を利用して製作したコースターの贈呈を行ったり、事業完了後、事業内容や参加した小学生の感想等をまとめた冊子の制作も行っている。これらのことから、今後も継続して実施する必要がある。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	森林環境教育推進事業				
事 業 費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 100,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった団体を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	桔梗が丘小学校(4年生)児童81名、教員及びボランティアスタッフ約41名
期待する波及効果	保護者等への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

森林環境教育を充実させるために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施前・中・後	実施箇所（森林公園内）
のぼり設置	実施中	実施箇所（森林公園内）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場
啓発物品配布	実施中	間伐材を利用して製作したコースター
アンケート実施	実施後	小学生を対象に感想をとりまとめて冊子を製作

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市
------	-------------	-----	-----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
桔梗が丘自治連合協議会	資材等購入費	式	1	100,000	100,000	コースター等
		合計			100,000	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育推進事業
-----	------------

7の(1). 写真

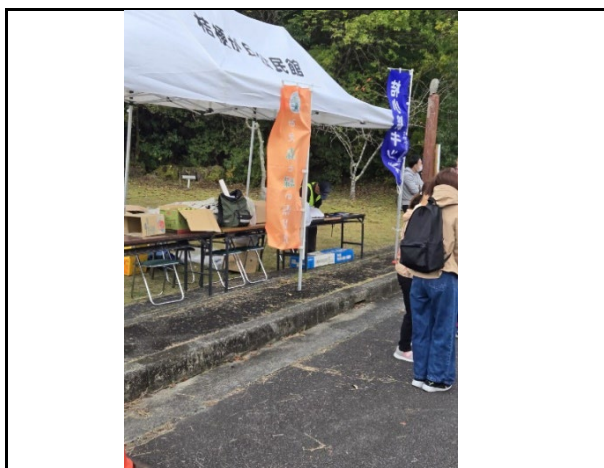


写真1

フィールドワーク出発前（11/6）

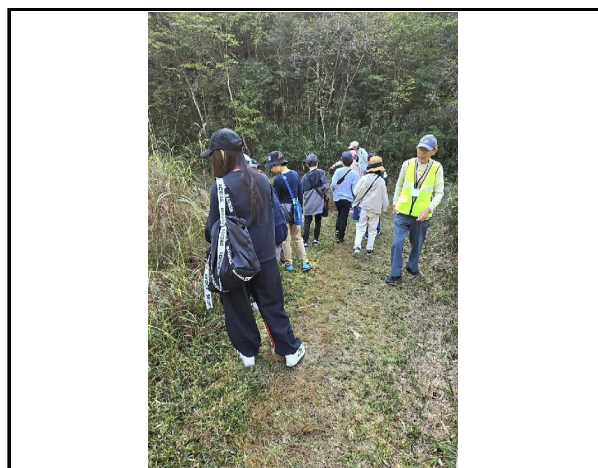


写真2

フィールドワークの状況（11/6）



写真3

フィールドワークの状況（11/6）



写真4

クイズラリーの状況（11/6）



写真5

チェーンソーの使い方を学ぶ（11/6）



写真6

間伐材を利用して製作したコースター

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	学校林整備事業				
事 業 費	400,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			400,000	0	0

1. 事業の目的

これまで放置され、荒廃が進んでいる学校林を整備することにより、小学生が学校生活において森林に親しむ豊かな環境を再生し、森林や緑に対する理解を深める場として活用する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

事業内容は次の通り。

①薦原小学校林：薦原小学校林への通路及び法面、学校林敷地内の倒木・枯枝や土石の除去及び草刈、補修及び遊具の点検を行い、子どもたちが安全で楽しく学習しやすい学校林に整備した。また、学校ボランティアに、1年生、6年生の学校林探検、5年生への森林環境学習を行った。

②すずらん台小学校林：「学習の森（小学校内学校林）」において、子どもたちがより安全に活動できるように学校林内にある散策路コースの整備、倒木の整理及び搬出、敷地境界ロープの設置などを行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内地域づくり組織（薦原地域づくり委員会、地縁法人すずらん台町づくり協議会）

【実施箇所及び箇所数】

市内2箇所

【事業量】

薦原小学校林：遊歩道及び散策路等の整備、遊具の点検

学校林面積 1,334㎡ 200,000円

すずらん台小学校林：散策路コースの整備、倒木の整理及び搬出

学校林面積 約1ha 200,000円 計400,000円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

子ども達が学校生活において森林に親しむことができる環境を整備することで、森林や緑に対する理解を深める機会を創出できる。また、PTAや地域住民の利活用も期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

学校林の整備と併せて、森林教育活動を実施することで、より効果的な取組とした。

【新たな対策・視点及び改善点】

森林に触れる経験は児童にとって重要かつ有意義なものであり、児童が安心して学習できる学校林を維持するために今後も継続して実施する必要がある。

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	学校林整備事業				
事 業 費	400,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			400,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	1件当たり 400,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった団体を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	学校林を活用する児童 約350名、教員及びPTA、ボランティアスタッフ 約200名
期待する波及効果	保護者等への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

森林環境教育の充実及び学校林を活用する児童の安全を確保するために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

学校と学校林整備を行う団体が適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施前・中・後	整備箇所（学校林内）
のぼり設置	実施中	整備箇所（学校林内）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市
------	-------------------	-----	-----

事業名	学校林整備事業
-----	---------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
薦原小学校林	通路・法面整備工事、講師謝礼等	式	1	200,000	200,000	
すずらん台小学校林	保全作業委託費	式	1	200,000	200,000	
		合計			400,000	

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	学校林整備事業
-----	---------

7の(1). 写真



写真1

薦原小学校林



写真2

薦原小学校林



写真3

薦原小学校林



写真4

すずらん台小学校林



写真5

すずらん台小学校林



写真6

すずらん台小学校林

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
6	森林公園等環境活用整備事業				
事 業 費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

1. 事業の目的

市民の憩いの場である森林公園などを地域住民らによるボランティアで整備することにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

事業内容は次の通り。

- ①東山ふれあいの森：多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、遊歩道及び東屋周辺における立木の剪定、除去、除草作業を行った。
- ②桔梗が丘地内の森林公園：森林環境教育や地域のイベントなどに利用できるよう、地域内の自然公園において、枯れ木の伐採処理、自然植生の保護、遊歩道の整備、除草作業等を行い、保全管理作業を行った。
- ③箕曲地内の森林：箕曲地内の森林（箕曲小学校付近）を森林公園として利用できるよう、遊歩道の整備、古木の管理、地域住民参加で植樹を行った。また、憩いの場作りのためのベンチを設置した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内地域づくり組織（ひなち地域ゆめづくり委員会、桔梗が丘自治連合協議会、箕曲地域づくり委員会）

【実施箇所及び箇所数】

市内3箇所

【事業量】

東山ふれあいの森 遊歩道付近における立木の剪定、除去、除草作業（作業人数9名）
 桔梗が丘地内の森林公園 枯れ木の伐倒処理、自然植生の保護、遊歩道の整備、除草作業、植樹（14名のスタッフにて年間20回の保全活動）
 箕曲地内の森林 遊歩道の整備、古木の管理、地域住民参加で植樹（延べ作業人数32名）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森林公園の整備を住民主体の地域づくり活動の一環として実施することにより、森林への理解、関心、愛着や親しみが生まれ、それによって優しく森林公園を利用し、市民が心豊かな生活が送れることができる環境が整備される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

住民が自ら事業を実施することで森林が身近に感じられるよう工夫した。

【新たな対策・視点及び改善点】

市民が利用しやすいように市内の森林公園の大半が当事業によって整備され、また利用する市民も多いため今後も継続して実施する必要がある。整備内容について、税の趣旨に対する位置づけを明確にするとともに、広報などを利用し広く市民に向けて情報発信を行う。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
6	森林公園等環境活用整備事業				
事 業 費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	定額補助	上限300,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった地区を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	地域住民及び公園利用者並びにボランティア参加者 約18,000人
期待する波及効果	地域住民からの波及効果が期待される

【公的関与の必要性】

森林公園は地域協議会等が管理しているが、管理費用等は協議会負担であり、整備を充実させるためには公的関与が必要となる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

購入した備品は公園管理にのみ使用し、地域協議会等が適切に管理する

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ポスター掲示	実施後	市のホームページ
チラシ等配布	実施中	地域づくり住民
のぼり設置	実施中	事業実施箇所
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
事業名	森林公園等環境活用整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
ひなち地域ゆめづくり委員会	立木の剪定、除去、除草作業	式	1	100,000	100,000	チップソー、鋏等購入
桔梗が丘自治連合協議会	枯れ木の伐倒処理、自然植生の保護、遊歩道の整備、除草作業等	式	1	100,000	100,000	チェーンソー部品、ベンチグラインダー、ヤスリ等購入
箕曲地域づくり委員会	ベンチの設置、古木の管理、地域住民参加で植樹	式	1	100,000	100,000	苗木、ベンチ、除草剤等購入
		合計			300,000	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境活用整備事業
-----	---------------

7の(1). 写真



写真1

東山ふれあいの森（ひなち地域ゆめづくり委員会）



写真2

東山ふれあいの森（ひなち地域ゆめづくり委員会）



写真3

森林公園での作業の様子（桔梗が丘自治連合協議会）



写真4

森林公園での作業の様子（桔梗が丘自治連合協議会）



写真5

箕曲地区（植樹の様子）



写真6

箕曲地区（憩いのベンチ設置の様子）

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
7	桜並木保全管理事業				
事 業 費	400,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			400,000	0	0

1. 事業の目的

名張の春の名所である桜並木を、地域住民らによるボランティアで、維持管理や桜木の保護・育成をすることにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

①中央公園：中央公園内道路沿いに植樹された桜並木の樹体に被害の出ていた樹の除去及び新たな植樹、施肥、カビ・苔の除去等の作業を実施した。

②薦生地区：名張川堤の「薦生の桜」の枯れ枝の剪定、施肥等の作業を実施した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張中央公園、薦生地区で桜並木の保全管理を実施する団体（名張桜末まつり実行協議会、薦生区）

【実施個所及び箇所数】

2箇所（名張中央公園内及び薦生地区）

【事業量】

①中央公園：施肥、抜根、植樹 300,000円

②薦生地区：施肥、剪定 100,000円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

桜並木の保全管理を通して、森林を思う気持ちの醸成や樹木も適切に管理しなければ枯れてしまうこと、身近な森林に親しむためには手入れが必要であることが実感できる機会を創出する。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

「桜満開プロジェクト」において、地域住民への呼びかけを行うことで、桜並木を思う気持ちの醸成を図った。

【新たな対策・視点及び改善点】

桜資源をこれからも維持し続けるために、住民が主体的に保全活動に取り組むことが不可欠なので、次年度についても継続して実施する必要がある。保全活動の内容を広報などで情報発信することで、この事業の有効性や必要性の周知を行う必要がある。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
7	桜並木保全管理事業				
事 業 費	400,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			400,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	定額補助	1件あたり 300,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請があった団体を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	「桜満開プロジェクト」及び「名張桜まつり」の参加者 約40,000人（R6年度）
期待する波及効果	「名張桜まつり」の参加者への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

桜並木の保全及び市民の森林を思う気持ちの醸成ために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
広報誌掲載	実施後	市の広報誌（広報なばり）
チラシ等配布	実施後	住民
のぼり設置	実施中	実施箇所（名張中央公園内）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

事業名	桜並木保全管理事業
-----	-----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金	保全活動費	式	1.00	300,000	300,000	
補助金	保全活動費	式	1.00	100,000	100,000	
		合計			400,000	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	桜並木保全管理事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

保全活動の様子（名張中央公園）

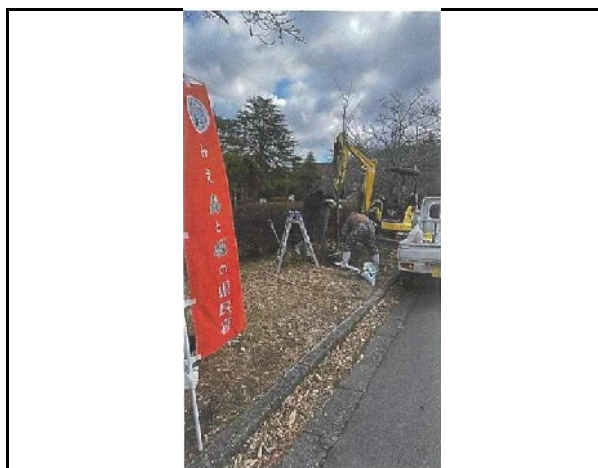


写真2

保全活動の様子（名張中央公園）



写真3

保全活動の様子（名張中央公園）



写真4

保全活動の様子（薦生地区）



写真5

保全活動の様子（薦生地区）



写真6

保全活動の様子（薦生地区）

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
8	国定公園環境整備事業				
事 業 費	1,035,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,035,000	0	0

1. 事業の目的

既往の利用料は赤目四十八滝渓谷内遊歩道周辺の整備を目的としていたが、市民や観光客により安心・安全に利用していただくために、渓谷内だけでなく周辺のハイキングコースや赤目四十八滝渓谷全体の環境整備をすることが必要であり、その環境整備を行うことで、より自然に親しみやすい自然環境を作る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

赤目四十八滝渓谷保勝会が主体となって、国定公園である赤目四十八滝渓谷内の危険木を伐採し、遊歩道を整備することで、市民や観光客が安全で森林と親しみやすい環境を整備した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

一般社団法人 赤目四十八滝渓谷保勝会

【実施箇所及び箇所数】

赤目四十八滝内 1 箇所

【事業量】

渓谷危険木診断、指導料 99,480円

危険木伐採工事費 935,520円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

国定公園である赤目四十八滝渓谷周辺の環境整備を行うことで、市民や観光客が安全に身近な森林にふれあい愛着を持つことで、国定公園の必要性や保全に対する理解を深める。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

事業実施前に危険木の伐採についてHPに掲載し、保全活動の周知を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

当事業は、国定公園内にある赤目四十八滝の遊歩道を安全に楽しむために実施する必要がある。事業実施後、HPなどに掲載することで当事業の有益性や必要性を市民に周知し、より市民が自然環境に親しめるように取り組む。

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
8	国定公園環境整備事業				
事 業 費	1,035,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,035,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	定額補助	1,035,000	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

赤目四十八滝渓谷内の施設の管理、自然環境の保護、観光客の誘致を行う団体を対象とした。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	赤目四十八滝の年間入山者数 約124,000人 (R6年度)
期待する波及効果	赤目四十八滝を訪れる観光客がより安全に楽しむことができる

【公的関与の必要性】

名張市の貴重な観光資源の維持及び発展のために公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

引き続き赤目四十八滝渓谷保勝会が管理を行う。施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	赤目四十八滝渓谷保勝会のホームページ
のぼり設置	実施中	整備箇所
HP掲載	実施後	市のホームページ

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市
------	--------------------	-----	-----

事業名	国定公園環境整備事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金	国定公園環境整備事業	式	1	1,035,000	1,035,000	
		合計			1,035,000	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	国定公園環境整備事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

保全活動の様子

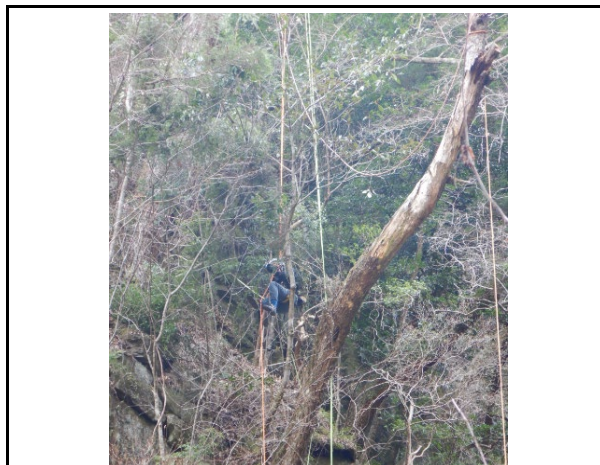


写真2

保全活動の様子



写真3

保全活動の様子



写真4

保全活動の様子



写真5

保全活動の様子



写真6

保全活動の様子

伊 賀 市

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和6年度版三重県市町要覧及び令和5年度版森林・林業統計書による）

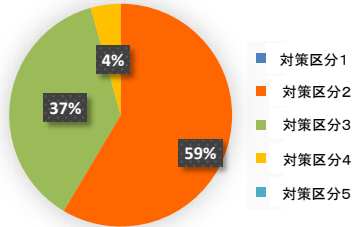
市町名	伊賀市	三重県
人口（人）	84,009	1,716,617
年少人口割合（％）＊1	10.1%	11.4%
森林面積(ha)	33,870.24	371,680.22
民有林面積(ha)＊2	32,565.94	348,212.01
森林率(%)	61.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	12.6	10.7

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	みんなの里山整備活動推進事業	7,417,002	7,417,002		7,417,002			
2	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	2,410,560	2,410,560		2,410,560			
3	2	危険木伐採事業	891,000	891,000		891,000			
4	3	伊賀の森っこ育成推進事業	4,169,574	4,169,574			4,169,574		
5	3	地域の森と緑のつながり支援事業	147,558	147,558			147,558		
6	3	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）	500,000	500,000			500,000		
7	3	木づかい木育推進事業	1,978,934	1,978,934			1,978,934		
8	4	幼児教育・保育施設木製遊具整備事業	796,950	796,950				796,950	
計			18,311,578	18,311,578	0	10,718,562	6,796,066	796,950	0

3. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	255箇所、38.41ha	18,348,000	18,348,000	現地調査及び間伐実施
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0	0	0	
県民参加の植樹祭事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	当市の森林面積率は61％であり、周囲が森林に囲まれた立地にある。そのような背景を踏まえ、災害に強い森林づくりと住民全体で森林を支える仕組みづくりの両立を図ることが必要であることから、暮らしに身近な森林を住民自らの手で整備する事業を推進するとともに、木育を始めとして森林や緑を大切に思う人づくりに繋がる教育活動を支援する事業を推進している。
事業実施により期待される効果	みんなの里山整備活動推進事業では、事業を通して地域の山林として位置づけることで、維持管理する方向性が地区等で広がっている。また伊賀の森っこ育成推進事業においては、子ども達が森のはたらきや林業について学習することができ、森林環境や木材等に関して知識理解を深めることにつながっている。幼児教育・保育施設への木製遊具整備事業では、幼児期に木製遊具に触れることで木の温もりを実感することができ、木とふれあい、木製遊具で遊ぶことで、五感を刺激し感性を磨き、好奇心・集中力を高める効果が期待される。
情報発信への取組	【みんなの里山整備・地域の森と緑つながり】各市民センターへのメール送付により事業の周知を行った。【伊賀の森っこ育成】校長会で事業の周知を行った。【木づかい木育推進】によるフォトフレーム配布及び学校へのお箸のキット配布の際に、木育・森林・本県民税のことでアンケートを実施した。・「みえ森と緑の県民税」の各事業における市の活用例について市のホームページへ掲載をした。また本県民税ののぼり旗、ミニのぼりを制作し、各地域・学校での事業実施日に立ていただき、地域住民等への周知を依頼した。農林振興課窓口へのミニのぼりの設置に併せ、本県民税パンフレットを配置した。

令和6年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税(千円)
1	⑫ その他（人材育成等）	75	75
2	⑩ 専門員の雇用	1,172	1,172
3	③ 私有林整備	10,769	10,769
4	② 意向調査	17,820	17,820
5	③ 私有林整備	16,049	16,049
6	⑪ 新たな組織の設立	2,259	2,259
7	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	10	10
8	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	1,003	1,003
9	⑦ その他（森林整備）	1,269	1,269
10	⑦ その他（森林整備）	12,590	12,590
11	⑥ 林道・林専道の整備等	14,839	14,839
12	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	568	568
13	⑰ 基金積立（森林整備等）	14,868	14,868
14	⑩ 専門員の雇用	63	63
15	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	12	12
16	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	101	101
17	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	788	788
18	⑬ 木造公共建築物の整備等	3,650	3,650
19	⑬ 木造公共建築物の整備等	125	125
	合計	98,030	98,030

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	みんなの里山整備活動推進事業				
事 業 費	7,417,002 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,417,002	0	0

1. 事業の目的

地域住民の主体的な参加のもと、地域や生活に密着した緑の環境づくりや里山・竹林を再生するために自治会等が行う活動に対して支援することにより、身近な里山環境を豊かにすること及び地域住民による持続的な里山管理を目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

緑の環境づくりや生活に密着した里山の再生、荒廃竹林や危険木伐採を行う自治会等の地域ボランティア活動に対して、その活動に必要な費用を補助金（上限250,000円/団体）として交付する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民が組織する自治会等の団体

【実施個所及び箇所数】

34箇所

【事業量】

支援地域団体数：34団体 整備面積：25.84ha

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

既存の森林整備事業では整備が難しい暮らしに身近な里山等の整備を、地域住民の作業によって実施できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

地域住民のボランティアによる地域の里山・竹林・緑地の管理及びこれらの関連施設の管理を年間2回以上行うことを事業要件としていること。

【新たな対策・視点及び改善点】

当事業の趣旨は、地域住民が当事業に積極的に参加することであることを再度周知徹底し、より良い制度運用を行なっていた。事業別実績書には、実施団体ごとに内訳がわかるように、事業実績や補助金交付額を記載した。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	みんなの里山整備活動推進事業				
事 業 費	7,417,002 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,417,002	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	定額補助	25万円/団体	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助金交付申請により、事業目的に沿ったものであるか判断した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	受益者：市内住民 活動団体数：34団体 活動参加人数：延べ1237人
期待する波及効果	地域の人々が身近な森林の整備を行うことで、幅広い人に森林への興味関心を育むことが出来る。

【公的関与の必要性】

地域の里山等として整備するため、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

地域共有の場としての里山等を事業対象としているため、転用等は想定されない。

持続管理する必要性について指導している。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
パネル展示	実施中	市役所玄関スペースに設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。
のぼり設置	実施中	事業実施日に県民税のぼりを設置し、周辺住民へのPRを図った。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

住民参加による森林整備の必要性に対する理解が深まり、継続的に取り組みたいとの声が多かった。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
------	-----------------	-----	-----

事業名	みんなの里山整備活動推進事業
-----	----------------

4. 効率性：主な経費内訳

作 業 内 容		単位	数量	単価	金額	備 考
みんなの里山整備活動推進事業補助金		団体	34	上限250, 000円	7, 417, 002	
事業費					7,417,002	
作 業 内 容	名 称	人数	整備面積	活動内容	補助金額	備 考
みんなの里山整備活動推進事業 一覧	大道区	20	0.3	竹林整備	250,000	
	比土区	22	0.4	支障木・竹伐採	122,503	
	大江区	25	－	支障木伐採	250,000	
	上野ニュータウン自治会	4	0.1	草刈・雑木伐採	250,000	
	法花区	78	0.7	草刈・登山道整備	250,000	
	河合地域住民自治協議会	38	0.2	階段敷き道整備・ベンチ補修・草刈・苗木植樹	250,000	
	出後区	20	1.5	支障木伐採	137,100	
	中矢区	69	2.4	伐採・草刈・竹撤去	250,000	
	勝地区	100	2	支障木撤去	250,000	
	妙楽地区	90	－	支障木撤去	250,000	
	伊勢路区	13	0.5	草刈・枯木撤去	171,000	
	波敷野区	28	0.2	除草・伐採	250,000	
	霧生区	66	1.2	支障木伐採	250,000	
	鍛冶屋自治会	28	0.01	枯木撤去・伐採竹木撤去	250,000	
	瀧区	20	0.2	竹林及び雑木伐採	239,800	
	小杉区	90	0.6	支障木伐採	102,679	
	坂下区	71	1	草刈・整備	210,070	
	青山羽根区	21	0.05	危険木伐採及び整備	200,000	
	音羽区	20	1	草刈・伐採	250,000	
	東高倉区	34	5.5	支障木撤去	250,000	
	西山自治会	60	0.5	土砂撤去・支障木伐採	250,000	
	喰代区	50	2	草刈・整備	250,000	
	界外区	30	0.1	危険木撤去・竹林伐採	250,000	
	上荒木区	34	0.4	支障木伐採	165,280	
	上友生区	17	0.02	伐採枝撤去	238,610	
	中馬野区	34	2	支障木伐採	250,000	
	桐ヶ丘7丁目自治会	15	0.04	危険木・支障木撤去	204,060	
	陽光台自治会	24	0.02	支障木撤去・草伐採	220,000	
	ハイツ芭蕉区	40	1.5	伐採支障木撤去	249,400	
	猪田大東区	18	0.5	山道保全整備	57,500	
	種生区	13	0.6	支障木伐採	99,000	
	桐ヶ丘八丁目自治会	13	－	伐採・集積作業	250,000	
	千貝区	14	0.2	伐採作業	250,000	
	大内区	18	0.1	支障木伐採・竹林伐採	250,000	
	計		1,237	25.84		7,417,002

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	みんなの里山整備活動推進事業
-----	----------------

7の(1). 写真



写真1

竹林の伐採



写真2

竹林の伐採



写真3

森林整備



写真4

森林整備



写真5

支障木の伐採



写真6

危険木の伐採

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	2,410,560 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,410,560	0	0

1. 事業の目的

森林所有者等による未利用間伐材の搬出を推進することにより、木質バイオマス資源の有効活用を図ると共に、森林所有者等の意識啓発や暮らしに身近な森林における林地残材の減少を図り流木による災害を防止する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

発電用チップに用いる間伐材等由来の木質バイオマス証明材を、市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者に買い取ってもらうために必要な搬出及び運搬に要する経費の一部を助成する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

補助事業；森林所有者等

【実施箇所及び箇所数】

補助申請毎の伐採届による間伐箇所と連動する。

【事業量】

補助事業：未利用間伐材搬出 803.52t （前年：852.76t） 搬出件数 延べ16件 2,410,560円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

土砂災害等の被害拡大につながる林地残材を減らすことにより、くらしの安心・安全を守る災害に強い森林づくりに寄与したほか、森林所有者等に森林整備の必要性を身近に感じてもらうことにより、森林への意識が高まった。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

令和3年度に、当事業を利用している森林所有者の要望を受け、林地残材の搬出に係る実態調査を行い検討した結果、補助単価を2,500円/tから3,000円/tに増額した。

【新たな対策・視点及び改善点】

事業を活用しやすいように、申請書及び添付資料を簡略化を検討する。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事 業 費	2,410,560 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,410,560	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	登録者	定額補助	3,000円/t	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

該当無し

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	森林所有者等
期待する波及効果	森林の整備が進むことにより、森林の持つ公益的機能の向上の恩恵を受けることができる

【公的関与の必要性】

市内の森林整備を進めていくため、公的支援（経費補助）による間伐材搬出作業の推進が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林が適正に管理されるよう指導している。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
パネル展示	実施中	市役所玄関スペースに設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

森林所有者がバイオマス材として搬出することに欠かせない補助金であるとの声をいただいている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金交付（未利用間伐材バイオマス搬出量）		t	803.52	3,000	2,410,560	
		合計			2,410,560	
区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
森林所有者等①	未利用間伐材搬出重量	t	22.49	3,000	67,470	
②			115.88	3,000	347,640	
③			174.1	3,000	522,300	
④			7.72	3,000	23,160	
⑤			8.31	3,000	24,930	
⑥			5.61	3,000	16,830	
⑦			6.33	3,000	18,990	
⑧			7.79	3,000	23,370	
⑨			9.32	3,000	27,960	
⑩			36.52	3,000	109,560	
⑪			82.9	3,000	248,700	
⑫			4.48	3,000	13,440	
⑬			7.27	3,000	21,810	
⑭			193.79	3,000	581,370	
⑮			98.29	3,000	294,870	
⑯			22.72	3,000	68,160	
		合計	803.52		2,410,560	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業
-----	-------------------

7の（1）. 写真



写真1

間伐材搬出の様子



写真2

間伐材搬出の様子



写真3

間伐材搬出の様子



写真4

間伐された森林の様子



写真5

間伐された森林の様子



写真6

搬出された間伐材

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
3	危険木伐採事業				
事 業 費	891,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			891,000	0	0

1. 事業の目的	
市道及び農道等の沿道で、倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、道路周辺の森林整備をすることにより、市民の暮らしの安心・安全を確保する。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 市道及び農道等の沿道で、台風等により倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、道路周辺の森林整備をすることにより、市民の暮らしの安心・安全を確保する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 伊賀市（市道：道路河川課・農道：農村整備課） 【実施個所及び箇所数】 伊賀市内（市道：菖蒲池・真泥地内、広域農道：古郡地内） 【事業量】 危険木・支障木の伐採（市道：整備面積 L = 100m × 2、広域農道：伐採本数26本）	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】 市道及び農道等の沿道で、台風等により倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、避難所等への経路確保や道路施設を保全し、市民の暮らしの安心・安全が確保される。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 危険木・支障木の伐採にあたり一律に根元から伐採することは避けるなど、状況に応じた伐採方法を柔軟に選択する。 【新たな対策・視点及び改善点】 危険木・支障木の伐採を実施後、伐採した樹木の健康状態が悪くなり倒れる危険性がある。このため、伐採記録の保全と巡回計画を策定し定期的に周辺環境の安全性を確認する必要があると感じた。	

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	危険木伐採事業				
事 業 費	891,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			891,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	建設業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

施行箇所の近隣の建設業者及び造園業者で、これまでに実績があり高所作業者を保有する業者を選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	市道・農道を通行する市民
期待する波及効果	避難所等への経路確保や道路周辺の森林整備をすることにより、交通安全性が向上する。

【公的関与の必要性】

市内には今回実施箇所と同様の問題を抱えた市道・農道が多数ある。限られた予算の中で統一された安全基準を求められることから、行政機関が関与することで地域間でばらつきのない安全対策実施が可能になる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

実施箇所の記録保全及びそれに基づく巡回体制の構築を行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施前・中・後	工事現場及びその周辺の施工看板に提示を行った。
のぼり設置	実施中	事業実施箇所へののぼり旗の設置を行い周知を行った。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市
事業名	危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
市道古山猪田橋 線支障木伐採	普通作業員	8	名	12,500	100,000	
	交通誘導員	4	名	20,000	80,000	
	高所作業車	2	日	30,000	60,000	
	バックホウ	2	日	15,000	30,000	
				小計	270,000	
	消費税				27,000	
		合計			297,000	
市道大山田友生 線支障木伐採	普通作業員	8	名	12,500	100,000	
	交通誘導員	4	名	20,000	80,000	
	高所作業車	2	日	30,000	60,000	
	バックホウ	2	日	15,000	30,000	
				小計	270,000	
	消費税				27,000	
		合計			297,000	
農免道路上野南 部工区危険木伐 採	危険木伐採	26	本	4,800	124,800	
	隣接木伐採	1	式		33,000	
	除草作業	1	式		30,000	
	伐採作業重機等	1	式		45,000	
	工具損料	1	式		7,800	
	交通安全費	1	式		17,000	
	経費	1	式		12,400	
				小計	270,000	
	消費税				27,000	
		合計			297,000	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7の(1). 写真



写真1

市道支障木伐採（施工前）



写真2

市道支障木伐採（施工中）



写真3

市道支障木伐採（施工後）



写真4

広域農道支障木伐採（施工前）



写真5

広域農道支障木伐採（施工中）



写真6

広域農道支障木伐採（施工後）

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	伊賀の森っこ育成推進事業				
事 業 費	4,169,574 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,169,574	0	0

1. 事業の目的

森林環境への関心や要望が高まるなか、次代を担う子ども達へ森林教育を実施し、森林・林業への理解と関心を持った人づくりを推進する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等が実施する、森林のはたらきや森林・林業の歴史についての学習活動、木工利用、木工体験（竹材等も含む）、間伐体験、里山整備活動、植物・樹木観察、野生生物・昆虫観察など、森林・自然や木に関連した森林環境教育にふさわしい内容の活動に対して、活動費用を補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等

【実施個所及び箇所数】

24箇所（学校）

【事業量】

事業量：市内小中学校 24校73学級で実施

事業費：4,169,574円（補助金額）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

市内に在学している小中学生が「森のせんせい」などの講師から、森のはたらきや林業について学習することができ、森林環境や木材等に関して知識理解を深めることが出来た。学校だよりを通じ、保護者に対して森林環境への理解を深めることが出来た。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

事業開始から毎年申請数が増え、継続して要望もあることから、今後も継続して事業を実施していく。

【新たな対策・視点及び改善点】

小学校と中学校で、年齢・学年に応じた体験を行うことで、子どもたちにより知識・理解を深めることが出来た。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	伊賀の森っこ育成推進事業				
事 業 費	4,169,574 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,169,574	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	最上級学年の学級数×10万円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定する必要があるため、補助金制度として運用している。

【主な経費内訳】

（別紙のとおり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	参加生徒児童総数1416人
期待する波及効果	生徒に森林環境教育や木工体験を実施し、身近な森林への興味関心を育んだ。

【公的関与の必要性】

市内の小中学校生徒を対象としており、より多くの生徒に森林環境教育を実施するため必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
チラシ等配布	実施前	学校担当者に対し、校長会の際に本事業の内容について説明した。
学校だより等掲載	実施後	事業を実施した小中学校の学校だよりやホームページで保護者や生徒に対し、「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図った。
のぼり設置	実施中	学校へ県民税ミニのぼりを配布し事業実施日に設置いただくようPRを図った
HP掲載	実施中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
パネル展示	実施中・後	市役所玄関スペースに設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

各学校からは、児童生徒の森林に対する興味・関心・意欲が深まり、実生活に活かすことが出来ているとの声を多数頂いている。学校担当者からは、森林教育を行う上で、必要不可欠な取り組みとの声もある。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
事業名	伊賀の森っこ育成推進事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
伊賀の森っこ育成推進事業補助金交付		学級	73.00		4,169,574	24団体
事業費					4,169,574	
作業内容	名 称	学級数	参加人数	単価	金額	備 考
学校教育における森林環境教育・木工体験・林業体験	上野西小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	11	146		300,896	
	阿山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	69		181,291	
	成和西小学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会	3	24		100,000	
	西柘植小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	3	35		100,000	
	霊峰中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	49		137,641	
	上野南中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	59		165,731	
	成和東小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	12		100,000	
	島ヶ原小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	7	64		100,000	
	青山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	4	123		200,000	
	上野北小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	56		200,000	
	上野南小学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会	2	5		45,000	
	友生小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	4	103		144,807	
	青山中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	65		300,000	
	壬生野小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	43		100,000	
	城東中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	3	102		255,000	
	島ヶ原中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	10		60,368	
	久米小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	39		100,000	
	府中小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	35		100,000	
	崇広中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	4	134		365,300	
	緑ヶ丘中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	5	167		449,050	
	上野東小学校伊賀の森っこ育成推進事業実行委員会	6	171		268,707	
	大山田中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	30		98,152	
	阿山中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	46		198,089	
	柘植中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	18		99,542	
	計	73	1,416		4,169,574	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1

森のせんせいによる学習会活動



写真2

森林環境教育



写真3

木工教室



写真4

木工教室



写真5

森林体験学習



写真6

しいたけの菌打ち体験

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	地域の森と緑のつながり支援事業				
事 業 費	147,558 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			147,558	0	0

1. 事業の目的

地域住民が森林・林業にふれあう機会が少なくなっているため、地域における森林環境・林業に関する教育活動を支援することで、地域住民や子どもたちが共に森林・林業等への関心を持ち、身近な生活における森と緑のつながりを感じられる人づくりを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

住民自治協議会等が実施主体として、森・緑・木材と地域とのつながりを目的に行う一般募集の森林・林業・環境学習・木工などのイベントや研修活動に対して、必要な費用を補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

住民自治協議会等

【実施個所及び箇所数】

住民自治協議会等

【事業量】

4地区

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森林を支える地域において、補助事業によるイベント等を通して、森を育む人づくり・森を支える社会組織づくりが行えた。直接的に、森づくりやみえ森と緑の県民税の趣旨について、市民に伝えることができた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

施設整備等ではなく、該当しない。

【新たな対策・視点及び改善点】

地域における森林の大切さを知らせることが出来た。森林・林業等全般への理解・関心を高めた。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	地域の森と緑のつながり支援事業				
事 業 費	147,558 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			147,558	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	地域協議会等	10/10以内	上限5万円/団体	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助事業による選定のため、該当なし

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	受益者：市内住民 活動団体数：4団体 活動参加人数：63人
期待する波及効果	地域住民が森林・林業等への関心を持ち、身近な生活における森と緑のつながりを感じられる

【公的関与の必要性】

地域における森林環境・林業に関する教育活動を支援するもので、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
パネル展示	実施中	市役所玄関スペースに設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
事業名	地域の森と緑のつながり支援事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
地域の森と緑のつながり支援事業補助金		地区	4	上限50,000円	147,558	

作 業 内 容	名 称	人数	活動内容	補助金額	備 考
地域の森と緑の つながり支援 事業一覧	玉滝地域住民自治協議会	35	森林環境学習・木工体験	42,658	
	阿波地域住民自治協議会	28	講演会の開催 (3自治協合同により)	50,000	
	布引地域住民自治協議会			50,000	
	柘植地域まちづくり協議会			4,900	
	計	63		147,558	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

木工教室（玉滝地域住民自治協議会）



写真2

木工教室（玉滝地域住民自治協議会）

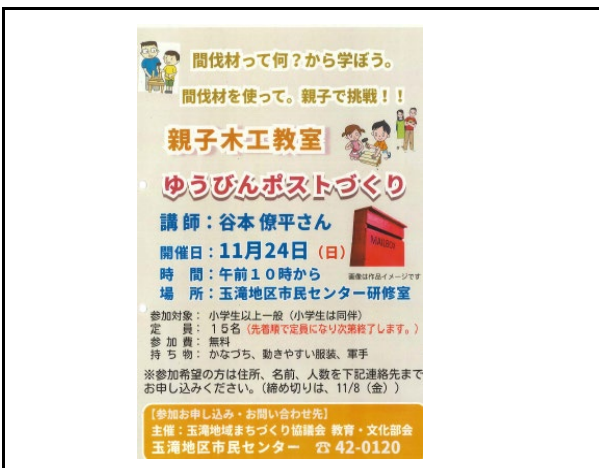


写真3

林業研修（3自治協合同開催）



写真4

林業研修（3自治協合同開催）



写真5



写真6

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				
事 業 費	500,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			500,000	0	0

1. 事業の目的

市内の間伐材の利用と地域の木材を活用できる人材の育成を目的とする。
市民から必要とされている木製品を開発する中で、若い人材や地域団体などが、伊賀の木の活用ノウハウを身に着ける。また、市内の高校生が制作した木製備品が設置されることで市民へ木とふれあい・やすらげる空間が形成される。

2. 事業実績概要

【事業内容】

旧上野市庁舎の改修により整備される児童図書館空間の一部（テラス部分）に設置する木製備品を市内の間伐材等を利用して開発する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊賀白鳳木育推進実行委員会

【実施個所及び箇所数】

旧上野市庁舎改修後の児童図書館空間の一部（テラス部分）、木製備品（ベンチ）1台

【事業量】

木製備品の製作に係わる原材料費、需用費、備品購入費等 500,000円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

木工や建築を志す高校生が、新児童図書館空間に設置する木製備品を開発することで、木や森林に関心を持つ良い機会となる。図書館を利用する児童が、木製備品を利用することで木に対し愛着を持つことが期待できる。

地域材の活用技術が継承され、市民に直接木材の良さと木材利用の必要性を伝えることが期待出来る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

事業内容について報道機関等へ取材を依頼し、事業の周知を行うとともに、高校生のプレゼンテーションの機会を創出し、事業効果を高めている。

【新たな対策・視点及び改善点】

今後も地元団体や高校等と連携しながら、伊賀産材の活用及び人材育成に努める。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				
事 業 費	500,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			500,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	上限50万円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

補助事業による選定のため、該当なし

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	児童図書館空間を利用する児童及びその保護者
期待する波及効果	児童図書館を利用する児童が木に愛着を持つことが出来る

【公的関与の必要性】

制作主体が伊賀白鳳高校の生徒であり、その生徒達の木育・木活用人材育成となるような取り組みを目指しているものであるため、公的関与が必要であると考えられる

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

今回は市所有の児童図書館空間の一部に設置する目的の元で開発・制作されるものであるため、転用の懸念は無いと考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施中・後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行った。
その他	実施中	各報道機関に当事業について取材依頼をし、経過や現在の活動状況等を周知した。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

高校生は、昨年度からの木製品品の製作や、旧上野市庁舎整備の受注業者である(株)伊賀市にぎわいパートナーズ設計担当者へのプレゼンテーションなどの経験を通じて、木工技術の習得や、プレゼンテーション能力の向上など人材育成の貴重な機会となっている。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
事業名	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金					500,000	
事業費					500,000	

作 業 内 容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
伊賀白鳳木育推進 実行委員会（白鳳 高等学校生徒）に よる製品開発	使用料				0	
	原材料費				216,031	木材
	需用費				253,532	製作のための塗料
	備品購入費				27,027	チェーンソーバッテリー
	その他				3,410	手数料
	計				500,000	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）
-----	--------------------------

7の（1）．写真



写真1
今までの製作作品



写真2
最終案候補作品デザイン「優しい丘」



写真3
最終決定製作作品デザイン「憩いの丘」

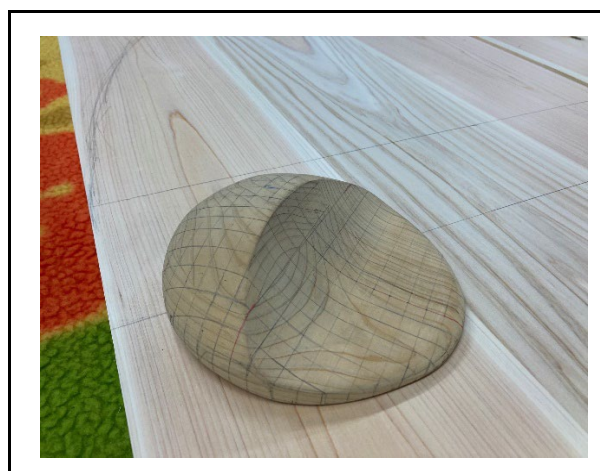


写真4
「憩いの丘」 完成ミニチュア

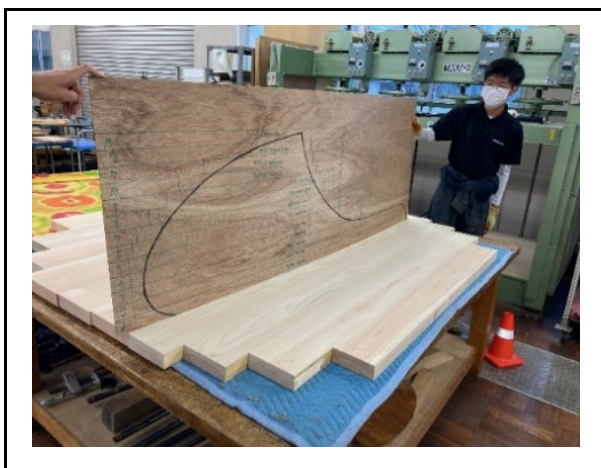


写真5
「憩いの丘」完成イメージ



写真6
備品（椅子）製作風景

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
7	木づかい木育推進事業				
事 業 費	1,978,934 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,978,934	0	0

1. 事業の目的

幼児期から木育を推進することで、健やかな子どもの成長を推進するとともに、地域の森林に高い関心を持った人づくりを進める。また、木育に供する資材の製作を通じて、森林の持続的整備に必要不可欠な木材利用の推進を図り、森林を支える社会づくりが進む市として、地域そのものの価値を高める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

- ・幼児期からの「木育」を進めるため、親子共に木のぬくもりを共有できる物として、出生のお祝いに伊賀のヒノキの薫る木製フォトフレームを配布する。
- ・小学5年生が社会科の授業で森林の間伐を学ぶ機会にあわせて伊賀産ヒノキの手作り箸キットを配布する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊賀市

【実施個所及び箇所数】

市内全域

【事業量】

フォトフレーム 出生時 250個

伊賀産材の手作り箸キット 650個

レターパック送料変更に伴う追加分切手 60円×15枚 及び 封筒

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

木に触れることで、木の薫りとぬくもりを感じることができるとともに、リーフレットを配布することにより親子で木に関心を持つ機会を作る。また、社会科の授業と併せて森に関する人づくりを行うことが出来る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

配布時に、伊賀産材を使用していることなど直接伝えることで、木や森林に関心を持つ機会を創出した。

【新たな対策・視点及び改善点】

1歳半検診時に木製（伊賀産材）のスプーンを、3歳児検診時に木製（三重県産材）の子ども用のお箸を保健師の手から、木育リーフレットの配布にあわせて配布していたが、子どもがスプーンを噛んで飲み込む事象が発生したため、令和4年度から配布対象年齢を上げ、伊賀産ヒノキの手作り箸キットを配布することとした。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
7	木づかい木育推進事業				
事 業 費	1,978,934 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,978,934	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	個人	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

指名競争入札により発注、購入した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	新生児250人、小学5年生650人
期待する波及効果	受益者及び家族が木材に愛着を感じるようになり、木製品を好むようになる、森林環境に関心を持つ。

【公的関与の必要性】

多くの市民に配布物による木のぬくもりを感じてもらうため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
チラシ等配布	実施中	フォトフレーム、手作り箸キットに事業の目的等を記載したチラシを添付のうえ配布した。
HP掲載	実施中・後	市民全体に取組事例を説明し、県民税の目的や必要性をPRした。
アンケート実施	実施中	親に対する県民税を活用した旨のPRをこめたアンケートを実施した。
TV（行政チャンネル等）	実施中	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市
------	-------------	-----	-----

事業名	木づかい木育推進事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
フォトフレーム	出生時	個	250.00	2,750	687,500	
伊賀産材の手作り箸キット	小学5年生	本	650.00	1,980	1,287,000	
切手		枚	15.00	60	900	郵送用レターパック不足分
封筒		箱	2.00		3,534	
		合計			1,978,934	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	木づかい木育推進事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

フォトフレーム（表）



写真2

フォトフレーム（裏）



写真3

伊賀産材の手作り箸キット



写真4

小学5年生 箸製作の様子



写真5

小学5年生 箸製作の様子



写真6

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
8	幼児教育・保育施設木製遊具整備事業				
事 業 費	796,950 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			796,950	0	0

1. 事業の目的

子どもの頃から、木とふれあい、木製遊具で遊ぶことで、五感を刺激し感性を磨き、好奇心・集中力を高める。木を身近に使うことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育む。

2. 事業実績概要

【事業内容】

昨年度未整備であった市内の保育所・幼稚園において、地域産材を使用した木製遊具を整備する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊賀市健康福祉部

【実施箇所及び箇所数】

市内の保育所6園・幼稚園1園

【事業量】

丸太ステップ（保6・幼1）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

五感が刺激され、感性を磨き、好奇心・集中力を高めることが出来る。
木を身近に使うことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心が育まれる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

木製遊具の設置については、安全対策及び防腐対策を取り実施した。

【新たな対策・視点及び改善点】

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
8	幼児教育・保育施設木製遊具整備事業				
事 業 費	796,950 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			796,950	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない		木製品加工事業者

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

随意契約より発注、購入した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

受益者	市内の保育所・幼稚園の園児
期待する波及効果	五感が刺激され、感性を磨き、好奇心・集中力を高めることが出来る

【公的関与の必要性】

市内の保育所・幼稚園の園児における、木とのふれあいや関わりを持つ活動を支援するもので、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市内の保育所等に設置・管理する目的の元で開発・制作されるものであるため、転用の懸念は無いと考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施中・後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行った。
その他	実施中・後	みえ森と緑の県民税普及啓発に係るFM三重ラジオ番組「みえ森と緑の探検隊！」への出演をし事業概要取組等の紹介を行った。
TV（行政チャンネル等）	実施中・後	行政だより「ウィークリー伊賀市」において取り組みについて周知をした。
HP掲載	実施中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

保…保育園、幼…幼稚園

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	伊賀市
------	-------------------	-----	-----

事業名	幼児教育・保育施設木製遊具整備事業
-----	-------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金					796,950	
事業費					796,950	

作 業 内 容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
丸太ステップ	5本入り	セット	7.00	113,850	796,950	保6、幼1
		合計			796,950	

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	伊賀市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	幼児教育・保育施設木製遊具整備事業
-----	-------------------

7の(1). 写真



写真1

丸太ステップ



写真2

市内保育所設置風景（ともだ保育園）



写真3

市内保育所設置風景（壬生野保育園）



写真4

市内保育所設置風景（桃青の丘幼稚園）



写真5

市内保育所設置風景（猪田保育所）



写真6

市内保育所設置後風景（あやま保育所）

尾 鷲 市

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和6年度版三重県市町要覧及び令和5年度版森林・林業統計書による）

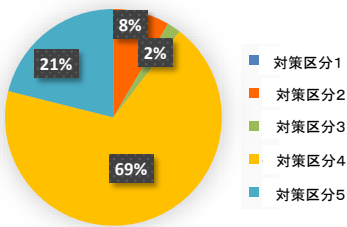
市町名	尾鷲市	三重県
人口（人）	14,713	1,716,617
年少人口割合（％）＊1	7.8%	11.4%
森林面積(ha)	17,694.96	371,680.22
民有林面積(ha)＊2	14,925.81	348,212.01
森林率(%)	92.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	6.7	10.7

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	人家裏危険木伐採事業	753,600	753,600		753,600			
2	3	尾鷲ヒノキを活用した保育園児等への山育事業	181,531	181,531			181,531		
3	4	クツプを用いた地元産材に触れ合う場の創出事業	951,191	951,191				951,191	
4	4	尾鷲中学校学習机・椅子整備事業	4,787,640	4,787,640				4,787,640	
5	4	木とふれあう学校環境づくり事業	99,000	99,000				99,000	
6	4	木とふれあう保育環境づくり事業	291,500	291,500				291,500	
7	5	森と野鳥の学びの場づくり事業	407,000	407,000					407,000
8	5	中村山公園ほか整備事業	1,481,700	1,481,700					1,481,700
計			8,953,162	8,953,162	0	753,600	181,531	6,129,331	1,888,700

3. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	近年では、災害による被害が拡大傾向にあるうえ、尾鷲市は住宅地と森林が隣接しており、山地災害が市民生活に直結することから、災害に強い森林づくりは大変重要なものであると考えている。また、危険木等を伐採したままにするのではなく、園児や児童、生徒への木育の機会を設けるツールとして利用することとし、災害対策と森林教育推進の観点から事業の選定を実施している。
事業実施により期待される効果	人家裏や公園の危険木伐採は、災害に強い町づくりの推進に一定の効果が得られたと考えており、この点については、事業実施後の住民の反応や声をみても、いずれも好意的なものであったため、安心安全の確保に効果があったと感じている。また、市内中学校へ地元産材で作った机、椅子を導入することにより、地元産材がどのような工程を経て机、椅子になったかを学習する良い機会になったと感じている。保育、教育の現場に地元産材でつくられた木製品を導入したり、地域の木や自然とふれあう場を創出することで、地域の自然環境や林業への理解を深めるとともに、地元産材の利活用について学習する機会となった。
情報発信への取組	県民税を活用した取り組みについては、市ホームページで事業計画を掲載しているほか、毎年、市広報誌6月号において、前年度の実績と当年度の計画の概要を掲載するとともに、広く市民に県民税の趣旨である「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」の重要性について周知を図っている。 また、体験イベントの際には、開催チラシや導入した机・椅子などの備品に、県民税のロゴマークを貼付し、それぞれの取り組みに「みえ森と緑の県民税」が活用されていることを周知した。

令和6年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税（千円）
1	② 意向調査	8,429	8,429
2	③ 私有林整備	6,215	6,215
3	⑬ 木造公共建築物の整備等	4,089	4,089
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	18,733	18,733

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	人家裏危険木伐採事業				
事 業 費	753,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			753,600		

1. 事業の目的

人家に密接する放置林において、自治会等が自主的に行う人家裏にある山林の危険木伐採費用の一部を補助し、災害を未然に防止することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

自治会等が事業主体となり、人家に隣接する山林内の危険木で緊急に伐採する必要がある場合に限り、その費用の一部を補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

自治会・自主防災会等

【実施個所及び箇所数】

2地区（須賀利地区・桂ヶ丘地区）

【事業量】

須賀利地区：複数本、桂ヶ丘地区：1本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

当地域は、背後に急傾斜を有する人家が多いため、危険木を伐採することにより、森林の適正な整備が促進され、災害を未然に防止できる。また、地域住民がお互いに災害の危険性を認識していただくことで、森林整備の必要性を改めて認識される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

昨年度以前と同様に、要望が寄せられた自治会等の方々と森林伐採の専門家も同伴での現地確認を行うことで、より防災効果の見込める効果的な伐採箇所の選定を実施している。

【新たな対策・視点及び改善点】

自治会総会にて、人家裏危険木伐採事業のチラシの配布を行い、身近な樹木や里山の適切な管理の重要性について周知を行った。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	人家裏危険木伐採事業				
事 業 費	753,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			753,600		

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	9/10以内	500,000円	補助率は伐採費用の80%

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

地域で危険だと認識し、地域全体で防災意識を持ってもらうのが主旨であるため。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	危険木伐採により生活環境が向上する地区は2地区
期待する波及効果	森林の重要性に対する住民意識や防災意識の向上

【公的関与の必要性】

市が補助を出すことで住民自ら危険木の伐採を進めることにより、災害時の倒木等を未然に防止する観点があるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者との調整は申請者（自治会等）が行っている。

森林所有者が適正に管理。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和6年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和7年度当初に令和6年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前	令和6年6月号に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
標識・標柱等設置	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

危険木の処理には、多額の費用がかかり、地元自治会では対応が難しいことが多いが、この制度を活用して、地域の生活道路にある危険木を取り除くことができるので、とても助かっている。

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	尾鷲市
事業名	人家裏危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
【伐採経費】						
須賀利地区	伐採・集積	式	1	544,900	544,900	(A)
	(うち、補助金)				500,000	(a)上限50万円の 8割補助
桂ヶ丘地区	特殊伐採	式	1		150,000	
	人力運搬	式	1		50,000	
	収集運搬	回	3	7,000	21,000	
	機械使用	台	2	9,000	18,000	
	小計				239,000	(B)
	(うち、補助金)				209,600	(b)上限50万円の 8割補助
伐採経費合計					783,900	(A)+(B)=C
	(うち、補助金)				709,600	(a)+(b)=c
【消耗品費】	標柱代	個	2	22,000	44,000	D
	事業費合計				753,600	c+D

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	人家裏危険木伐採事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

実施前（須賀利地区）



写真2

実施後（須賀利地区）

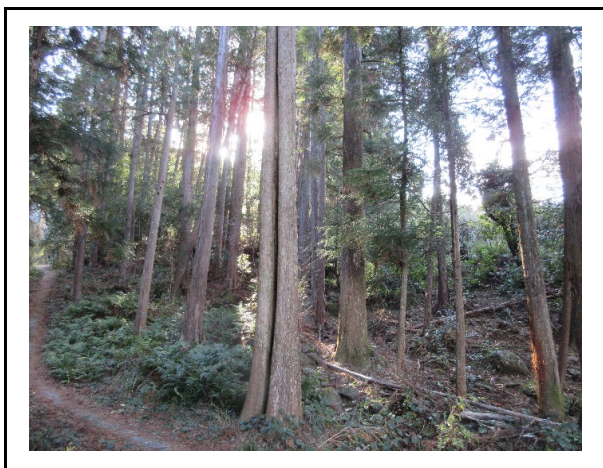


写真3

実施前（桂ヶ丘地区）



写真4

実施後（桂ヶ丘地区）



写真5

看板設置（須賀利地区）



写真6

看板設置（桂ヶ丘地区）

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	尾鷲ヒノキを活用した保育園児等への山育事業				
事 業 費	181,531 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			181,531		

1. 事業の目的

「山育」の一環として、園児一人ひとりが尾鷲ヒノキや尾鷲の山に植生する桜やクヌギなどの苗木を育てていく取組みを実施し、子どもたちが森に親しみ、苗木の成長に合わせた継続的な森との関係性を保つ機会を創出する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内全ての保育園・認定こども園の5歳児を対象に、尾鷲ヒノキ等の苗木を一人に1本ずつ配布し園で育てる。尾鷲ヒノキや森について学ぶ木育教室を実施し、園児一人ひとりが苗木を育て、卒園時に市有林として整備している「尾鷲みんなの森」にそれぞれの園ごとに植樹をする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

市内の5歳児が在籍する保育園・認定こども園（尾鷲第一保育園、尾鷲第二保育園、尾鷲第三保育園、ひのきっここども園、矢浜保育園、南輪内保育園）の計6園で実施。

【事業量】

出前講座：計4回 植樹体験：計4回（尾鷲第一保育園、尾鷲第二保育園・尾鷲第三保育園合同、ひのきっここども園、矢浜保育園・南輪内保育園合同）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

尾鷲市の大切な資源である「尾鷲ヒノキ」等の樹木を子どもたちが半年かけて育て、育てた苗木を植樹することにより、生涯にわたって尾鷲ヒノキ等や森に愛着を感じることができる。また、森に行く機会が出来ることで成長とともに環境や植物多様性など森のもつ多面的な機能を学ぶきっかけにつながる。

併せて、ヒノキ等に愛着を持つことで将来的な木材利用の推進につなげることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

出前講座で樹木や森に対する関心を高めること、苗木を自分で育て森を歩き植樹する体験がより森や樹木への愛着や興味を深める取組みを行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

尾鷲市の小中学校で実施してきた森林教育（木育、山育）の取組みを就学前の児童にも広げることにより、幼少期から木に触れる機会を設け、一体的な森林教育へとつなげる。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	尾鷲ヒノキを活用した保育園児等への山育事業				
事 業 費	181,531 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			181,531		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営	その他	補助事業ではない	-	尾鷲市主導で実施

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

尾鷲市主導で実施することで、就学前から小中学校までの森林教育（木育、山育）を水産農林課が一体的に取り組むことができるから。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	利用する市民
期待する波及効果	対象を保育園児にしたことで、本事業での体験が子どもの成長に寄与することに加えて、子どもたちから父母、祖父母等保護者への普及が見込める。

【公的関与の必要性】

特になし。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有林に植樹していることから、管理は市職員が行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
学校だより等掲載	実施後	保護者に向けて各園ごとに園だよりを発行した。
その他	実施後	HPやSNSにより山育（出前講座及び植樹体験）の様子を掲載・発信。テレビや新聞の報道による発信。
標識・標柱等設置	実施前	植樹体験をする場所に標柱を設置しPRした。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

保護者からは木に触れ合うことができて良かったと感想をいただいた。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市
事業名	尾鷲ヒノキを活用した保育園児等への山育事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
苗木	30～50cm	本	109.00	(1回目) ヒノキ@150円 クヌギ@200円 ヤマザクラ@600円 イロハモミジ@600円 ヤブツバキ@600円 (2回目) ヒノキ@150円 クヌギ@250円 苗木送料3,000円	47,355	(1回目) ヒノキ27本 クヌギ17本 ヤマザクラ17本 イロハモミジ17本 ヤブツバキ17本 (2回目) ヒノキ12本 クヌギ2本
標柱	90角×H1,700mm加圧注入防腐処理、文字、レーザー彫刻	基	1.00	28,600	28,600	
消耗品	植木鉢、土	式	1.00	25,576	25,576	
記念品	ヒノキコースター	個	100.00	800	80,000	
合計					181,531	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	尾鷲ヒノキを活用した保育園児等への山育事業
-----	-----------------------

7の(1). 写真



写真1

出前講座



写真2

苗木の配布



写真3

クッブ体験



写真4

植樹体験



写真5

植樹後の記念撮影、標柱



写真6

森の散策、見晴台での記念撮影

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
3	クップを用いた地元産材に触れ合う場の創出事業				
事 業 費	951,191 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			951,191		

1. 事業の目的

小中学校や各種イベントでのクップ体験を行い、子どもから大人までを対象に、楽しく地元産の木材と触れ合う機会を創出するとともに、とこわか国体でデモンストレーションスポーツとして実施できなかったことから、大会を開催することで、より広く木育としての普及を目指す。

2. 事業実績概要

【事業内容】

各所へのクップ体験や、三重国体におけるクップ大会の代替開催と位置づけた大会を行うと同時に、地域森林や林業のPRを行う。また、競技の道具、参加賞、楯などの作成を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

- ・体験会：市内小学校3箇所 計4回 熊野古道センター1箇所 計3回 市外イベント1箇所 計1回
- ・大会視察、PR等：第3回全国クップ大会（東京都）5人参加

【事業量】

普及員によるクップ指導、体験会、PR（尾鷲市内小中学校、イベント等） 9回
 ジャパン・クップ・オープンin尾鷲 1回（参加者 県内：175人、県外28人 計203人）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

- ・尾鷲ヒノキ製のクップを通じて、尾鷲市民には地域の特産である尾鷲ヒノキの良さを再認識する場となる。また、本イベントに参加される市外・県外の方には尾鷲ヒノキ特有の香りや質感を五感で感じてもらい、尾鷲ヒノキを知っていただくきっかけになる。
- ・市政施行70周年事業の一つとして、「クップ・ジャパン・オープンin尾鷲」の開催や体験会を開催したことで、市内外の教育機関やさまざまな団体の多くの方に、通年とおした木育活動や県民税の周知ができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

市内の学校を始め、地域内外のイベントに参加し、老若男女問わず楽しく木育として尾鷲産材のクップを知ってもらうだけでなく、尾鷲ヒノキの有用性や森林保全の大切さを併せて伝えた。

【新たな対策・視点及び改善点】

県内で初めてクップの全国大会を開催したことで、木材を使ったスポーツのクップをツールとして楽しく木育を体験をしてもらい、他市町からも多数の方が参加され、木育を兼ねて木材の有用性に理解が深まった。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	クップを用いた地元産材に触れ合う場の創出事業				
事 業 費	951,191 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			951,191		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営				

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

【主な経費内訳】
(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	体験会等（市民200人）、大会（203人）
期待する波及効果	

【公的関与の必要性】
職員が他の自治体イベントへの参加や、様々なところでの普及活動を業務として実施したことで、木育や木材の有用性を広く周知に努めることができた。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和6年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和7年度当初に令和6年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	今年度の事業内容の紹介と前年度事業の報告を行う。
啓発物品配布	実施中	大会参加者、見学者、取材メディア等への情報周知。
のぼり設置	実施中	大会参加者、見学者、取材メディア等への情報周知。
パネル展示	実施中	大会参加者、見学者、取材メディア等への情報周知。

7. 写真及びその他資料
別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）
体験会では、初めての方に教えていく中で、大変面白いと興味を持たれ、友人と共に大会に参加され、普及にも繋がった。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------------	-----	-----

事業名	クップを用いた地元産材に触れ合う場の創出事業
-----	------------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
旅費	普通旅費		一式		258,000	
報償費	優勝記念品、大会用楯		一式		68,200	
消耗品費	参加賞,普及用品等		一式		624,991	
		合計			951,191	

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	クップを用いた地元産材に触れ合う場の創出事業
-----	------------------------

7の(1). 写真



写真1

クップ大会（県民税PR）



写真2

クップ大会（大会用盾等）



写真3

クップ大会（参加者）



写真4

体験会



写真5

普及用品



写真6

クップ大会（参加賞）



木に触れ、木で遊ぼう！

優勝チーム
尾鷲ヒノキカップ
1セット

クップ・ジャパン・オープン in 尾鷲

主催 尾鷲市、尾鷲市教育委員会 ※みえ森と緑の県民税事業

日時 令和6年12月22日（日）
9：00～13：00（受付 8：30～9：00）

会場 尾鷲市 三重県立熊野古道センター

種別 ジュニアの部（小学生以下）、一般の部

参加費 無料

賞品 ・優勝、準優勝、3位：賞状、楯授与、参加賞（全員）
・優勝チームには“尾鷲ヒノキ”カップ1セットが授与されます。
・閉会式で豪華な景品が当たるチャンスがあります！

申し込み 申込用紙に記入して郵送、メールまたは右記申込フォームから申し込みください。

申込期限 令和6年12月2日（月）

＼申込フォームはこちら／



尾鷲市教育委員会生涯学習課 クップ大会事務局
〒519-3616 三重県尾鷲市中村町10-41
電話：0597-23-8293
メール：sports@city.owase.lg.jp



令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	尾鷲中学校学習机・椅子整備事業				
事 業 費	4,787,640 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,787,640		

1. 事業の目的

市産材で制作した机及び椅子を導入することで、木の良さに触れてもらうと共に、自分たちの机や椅子が普段見慣れている地元の山々から切り出されたものであることを知ってもらうことで、森林の大切さを学ぶツールとして活用する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

机の天板部分、椅子の座面に地元産材を活用したものを1学年分導入する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

尾鷲中学校 1校

【事業量】

市産材を活用した机及び椅子 108組
（令和4年度～令和6年度までの3年間で3学年分を整備）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

市産材で製作した机及び椅子を導入することで、木の持つ温かみや香り、肌触りなどの木の良さを実感できる快適な学習環境を構築する。また、地元の森林から切り出された木材が活かされていることを知ることで、森林がもつ多様性や循環型社会の実現に向けて果たす役割などについて学ぶ機会を得ることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

生徒が日ごろ使用する机及び椅子は、スチールと擬木等で構成されたものであるため、これらの一部（天板部分及び座面）を地元の「尾鷲ヒノキ」を用いた三重県産材で作成し、森林教育における教材の1つとして活用する。市職員による森林教育授業を実施し、地元の「尾鷲ヒノキ」を使って机、椅子を作成することが普段自分達が目にしている山の再生に繋がること（切り出し→植樹→成長→森林の形成）を学ぶことで、森林整備の大切さと成長サイクル、循環型社会や持続可能な社会の実現に向けた可能性や展望などについて考える時間を設けた。

【新たな対策・視点及び改善点】

昨年度はインフルエンザの流行時期と重なり、森林教育を受講できなかった生徒も複数いたため、入札時期を早めて実施し、多くの生徒に森林教育を受講してもらった。また、昨年度は机椅子の納入と森林教育が別日になってしまったが、今年度は同日に実施し、受講から机椅子組立へスムーズに実施できるよう取り組んだ。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	尾鷲中学校学習机・椅子整備事業				
事 業 費	4,787,640 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,787,640		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	小売業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

一般競争入札による事業者選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	尾鷲中学校の生徒
期待する波及効果	地元産財を使用した机・椅子を使用することと、市職員による森林教育授業を実施することで、森林整備の大切さと成長サイクル、循環型社会や持続可能な社会の実現について学ぶことができる。

【公的関与の必要性】

中学校で生徒が使用する机・椅子の整備及び関連する森林学習であるため、管理者である市の関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

学校内各教室にて管理

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施後	整備した机にロゴマーク等を貼り付け

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

木の手触りが気持ち良い、軽くて使いやすい等。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------------	-----	-----

事業名	尾鷲中学校学習机・椅子整備事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
間伐材仕様SSデスク（可動式）		台	108	21,700	2,343,600	
間伐材仕様SSチェア（可動式）		脚	108	18,600	2,008,800	
消費税					435,240	
		合計			4,787,640	

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	尾鷲中学校学習机・椅子整備事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1
尾鷲市水産農林課職員による講義を受ける生徒たち



写真2
尾鷲市水産農林課職員による講義を受ける生徒たち



写真3
納入作業を手伝う生徒たち



写真4
教室へ運搬後、高さを調節する生徒たち



写真5



写真6
みえ森と緑の県民税シール

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	木とふれあう学校環境づくり事業				
事 業 費	99,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			99,000		

1. 事業の目的

本交付金を活用し、市産材で制作した木製の机・椅子を平成26年度に宮之上小学校へ、令和元年度に賀田小学校へ、R5年度に矢浜小学校配置し、木の温もりにふれあう快適な学習環境を構築した。将来にわたって児童が自分の机・椅子として使用するとしているが、日々の使用によって損傷するため、これを修理し再使用する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

木製機の修理又は損傷の激しいものは部品（県産材）交換を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

尾鷲市立宮之上小学校、賀田小学校 2校 ※矢浜小学校についてはR5年度に導入したばかりであるため補修は未実施

【事業量】

市産材で制作した組立式の机の天板

宮之上小学校 12枚

賀田小学校 3枚

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

交付金事業により、木製の机・椅子を整備することで、木の持つ温かみや香り、肌触りなどの木の良さを実感できる快適な学習環境を構築する。木製ということもあり、使用により損傷してしまうものもあるが、将来にわたって使用する計画であることから、修理し再使用することとしている。このことから、物を大切にしようとする心を養うことができ、さらに、森林の重要性・必要性について学ぶ機会を得ることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

児童が使用する机・椅子は、地元の「尾鷲ヒノキ」をふんだんに使った木の温もりが感じられるものであり、それ自体が木育をするための1つの教材と捉えている。天板を変えてずっと使っていくことは、卒業生から新入生へ、物を大切にしたい想いを繋ぐと共に、天板に使用した成木のあとに幼木を植樹することによる森林の繋がりが、持続可能な社会の実現に向けた森林教育及び情操教育を行うツールとして活用していきたい。また、授業時間を確保し、市職員による地域材「尾鷲ヒノキ」についての説明を実施することで、森林の重要性や地元産材の歴史なども知ってもらいたい。

【新たな対策・視点及び改善点】

例年の継続事業であるため、特に新たな対策はありません。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	木とふれあう学校環境づくり事業				
事 業 費	99,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			99,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

導入事業者である森林組合おわせに補修・研磨を発注した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	宮之上小学校、賀田小学校の児童
期待する波及効果	地元産材を使用した机の天板を補修し継続して使用することと、教員による森林教育授業を実施することで、森林整備の大切さと成長サイクル、循環型社会や持続可能な社会の実現について学ぶことができる。

【公的関与の必要性】

小学校で児童が使用する机の天板の補修・研磨作業及び関連する森林学習であるため、管理者である市の関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

学校内各教室にて管理

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施後	整備した机にロゴマーク等を貼り付け
その他	実施中・後	地方新聞社各社へ報道資料を提供し、3社新聞に掲載

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

つるつる・ピカピカになってうれしい、この机で勉強を頑張りたい等の感想が聞かれました。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------------	-----	-----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
机天板補修		枚	15	6,000	90,000	
消費税					9,000	
		合計			99,000	

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業
-----	-----------------

7の（1）. 写真



写真1
教員による木育授業を受ける児童



写真2
天板作業を行う児童



写真3
天板交換前（左）、交換後（右）



写真4
天板交換前（右）、交換後（左）



写真5
木育授業の内容



写真6

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
6	木とふれあう保育環境づくり事業				
事 業 費	291,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			291,500		

1. 事業の目的

木製玩具（大型の積み木）を導入し、遊びを通して子どもの想像力や感性を養い、木と親しみふれあうことで木や森に興味をもつきっかけにつなげ、木育の推進を図ることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

保育園に木製玩具（大型積み木）を導入し、木や森に関する木育教室を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

とちのもり保育園1カ所

【事業量】

木製玩具(大型積み木) 1セット購入

木育教室 1回実施

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

木製玩具（大型積み木）は木製のぬくもりや色合いなど子どもの五感を刺激し、特に積み木は子どもの見立てによってさまざまに組み合わせて遊ぶことができるため感性や想像力を養うことができ、子どもの知育にも効果的である。玩具を通して木に親しみふれあうことで、木や森に興味を持つきっかけにつながる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

保護者説明会時に木育教室を行うことにより、園児だけでなく保護者にも参加してもらうことができ、親子で木のおもちゃの良さや木や森に興味を持ってもらう場となった。また、木育教室の中でみえ森と緑の県民税事業についての説明を行うことができ、保護者の理解につながった。

【新たな対策・視点及び改善点】

木製玩具（大型積み木）は園児の年齢を問わず遊ぶことができるため、園児一人一人が木と親しみ触れ合うことができる。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
6	木とふれあう保育環境づくり事業				
事 業 費	291,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			291,500		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営	その他	補助事業ではない		尾鷲市主導で木育を実施

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	保育園児及びその保護者
期待する波及効果	木製玩具(大型積み木) が保育園にあることで、遊びを通じて常時木とふれあうことができ、また、その体験を通じて園児から父母、祖父母等保護者への

【公的関与の必要性】

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

保育園の中で管理し、園児が活用する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施後	市民を対象として、当該事業を周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

園児たちは、大型積み木を使って豊かで自由な発想で遊ぶことができた。また、園児とともに保護者も水産農林課職員による木育講座を聞き、森や木への興味、みえ森と緑の県民税事業の趣旨の理解につなげることができた。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市
------	-------------------	-----	-----

事業名	木とふれあう保育環境づくり事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
積み木	一式				291,500	
(内訳)	22×22×22	個	6			
	44×22×22	個	2			
	44×22×11	個	1			
	88×22×11	個	4			
	22×22×11	個	4			
	22×22×22（三角錐）	個	4			
	88×22×1.2	個	4			
		合計			291,500	

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
事業名	木とふれあう保育環境づくり事業				

7の(1). 写真



写真1

木育講座 木や森についての説明



写真2

木育講座 木や森についての説明



写真3

大型積み木で遊ぶ



写真4

大型積み木で遊ぶ



写真5

みえ森と緑の県民税事業について説明



写真6

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
7	森と野鳥の学びの場づくり事業				
事 業 費	407,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			407,000		

1. 事業の目的

野鳥の小径ふれあい広場の東屋を県産材を活用して修繕し、野鳥と森林について学ぶ場づくりを行うとともに、地域住民が日ごろから環境整備に取り組んでいる野鳥の小径を訪れる方が安心して利用できる環境をつくる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

県産材を活用して、東屋の柱等の修繕を行う。
小学生を対象とした樹木や生き物の観察会を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施個所及び箇所数】

野鳥の小径ふれあい広場（尾鷲市三木里町地内）

【事業量】

東屋 1 基

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

三木里地区住民を中心に親しまれ、健康ウォーキングコースとしても設定されている野鳥の小径ふれあい広場の東屋を修繕するとともに、安全な環境で小学生を対象に観察会を実施することで森林や生き物に関して学ぶ機会、関心を持つ機会を創出することができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

小学生を対象に事業を実施することで、子育て世代に事業を幅広く周知することができ、今後の活用も十分に期待できる。

【新たな対策・視点及び改善点】

県産材を活用した修繕を実施することで、森と人とをつなぐ学びの場づくりの一助となる。健康ウォーキングとしての活用だけではなく、環境カウンセラーを講師に招き、小学生を対象に野鳥の小径に生育する樹木や生き物の生態を学ぶ観察会を実施することで、森林の重要性を学ぶ場としての新たな活用に繋げる。

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
7	森と野鳥の学びの場づくり事業				
事 業 費	407,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			407,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
その他	建設業者	補助事業ではない		見積入札

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	賀田小学校
期待する波及効果	小学生を対象に事業を実施することで、子育て世代に事業を幅広く周知することができ、今後の活用も十分に期待できる。

【公的関与の必要性】

三木里地区住民を中心に親しまれ、健康ウォーキングコースとしても設定されている野鳥の小径での森林教育であり、管理者である市の関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

尾鷲市商工観光課にて管理

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施場所付近に表示し県民税の周知
HP掲載	実施後	実施前：令和6年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和7年度当初に令和6年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施後	令和7年6月号（予定）に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
その他	実施後	市公式Instagramにて広報

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

朽ちていた部分を修繕できたことにより、みえ森と緑の県民税について関心をもつきっかけになったと聞いています。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市
------	--------------------	-----	-----

事業名	森と野鳥の学びの場づくり事業
-----	----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
ブリキ工事	丸柱	本	7		65,000	
大工工事	腰板 赤杉身材	坪	4		40,000	
	タルキ 6尺	本	24	700	16,800	
	笠木 6尺	本	4	1,500	6,000	
	火打ち 3尺	本	3		2,000	
金物 雑費					10,000	
工事費					155,000	
シロアリ駆除					40,000	
諸経費					35,200	
計					370,000	
消費税					37,000	
		合計			407,000	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と野鳥の学びの場づくり事業
-----	----------------

7の(1). 写真



写真1

完成写真



写真2

標柱写真



写真3

小学生に事業説明



写真4

森林教育事業



写真5

森林教育事業

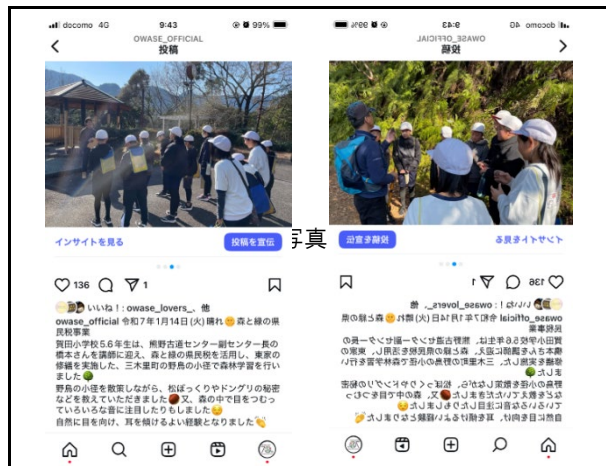


写真6

SNSは発信

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
8	中村山公園ほか整備事業				
事 業 費	1,481,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,481,700		

1. 事業の目的

身近に市街地の中心にある木と親しむことのできる自然豊かな中村山公園を整備し、安全安心に多くの市民が自然に触れ合う機会を設け、豊かな生活環境を実現することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市民が自然と触れ合える親しみやすい公園を整備するため、危険木や景観上支障のある樹木等の除去を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【実施箇所及び箇所数】

1 箇所（中村山公園）

【事業量】

- ・中村山公園に植生している危険木や景観上支障のある樹木の除去。
- ・小学生を対象とした森林教育については小物入れ等をつくる木工体験を実施した。

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

枯損木や危険木の伐採を行った結果、公園の景観向上や公園利用者の安全性の確保をすることができた。特に防災行政無線の電波に影響を及ぼす支障木を伐採できたことにより、市民の安心安全に繋がることが期待される。

また、景観上の支障木も伐採したことにより、以前より尾鷲市の自然豊かな海や山、街並みを見渡すことができるようになり、公園利用者の満足度にも繋がることも期待される。現状においても、未だ木々が生い茂り危険木等も存在することから、引き続き、樹木等の伐採を行い、市民が使いやすく親しみやすい公園に整備することにより自然と触れ合える拠点を提供することができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

伐採木は、近隣住民の意見や防災危機管理課の意見を参考としながら選定をおこなった。

【新たな対策・視点及び改善点】

中村山公園は町の中心部にあり多くの住民が様々な用途で訪れるため親しまれている。また、緊急避難場所にもなっており、小学校からは直通の避難路も設けられているため、非常に重要な拠点である。緑豊かな公園としてより親しまれるように整備を進めていくほか、防災上の観点からも整備を今後も進めていく必要があると考えている。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
番号	事業名				
8	中村山公園ほか整備事業				
事業費	1,481,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,481,700		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

- ・指名競争入札による業務委託
- ・安全面と専門的な技術が必要となるため

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	利用する市民
期待する波及効果	伐採により景観も良くなり、多くの住民が安心安全に遊べる場所となったとともに、桜の名所としての整備を行っていくことにより、将来市内外から来園者が訪れる公園を目指す。

【公的関与の必要性】

市有地（都市公園）であるため、市が管理を行う必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	実施前：令和6年度当初に今年度の事業内容の紹介 実施後：令和7年度当初に令和6年度事業実績の報告
広報誌掲載	実施前・後	令和7年6月号（予定）に今年度の事業内容の紹介（実施前）と前年度事業実績の報告（実施後）を同時掲載
標識・標柱等設置	実施後	実施場所付近に標柱を設置して県民税活用を周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

景観がよくなり、自然豊かな海と山をもつ尾鷲市の良さを改めて実感した。もっと市民にも知ってもらいたい。との嬉しい声があった。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	尾鷲市
------	--------------------	-----	-----

事業名	中村山公園ほか整備事業
-----	-------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
中村山公園立木 伐採処分及び森 林教育業務		式	1		1,481,700	
		合計			1,481,700	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
事業名	中村山公園ほか整備事業				

7の(1). 写真



写真1

景観上の支障木：伐採前



写真2

景観上の支障木：伐採後



写真3

危険木：伐採前



写真4

危険木：伐採後

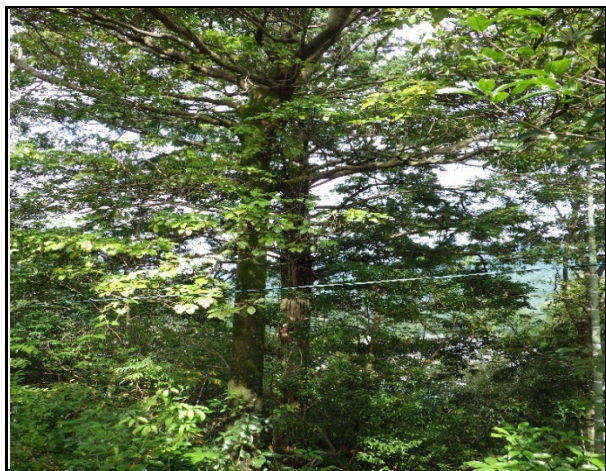


写真5

防災行政無線支障木：伐採前



写真6

防災行政無線支障木：伐採後（反対側からの角度）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	尾鷲市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	中村山公園ほか整備事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

森林教育（木工体験）



写真2

森林教育（木工体験）



写真3

森林教育（木工体験）



写真4

森林教育（木工体験）

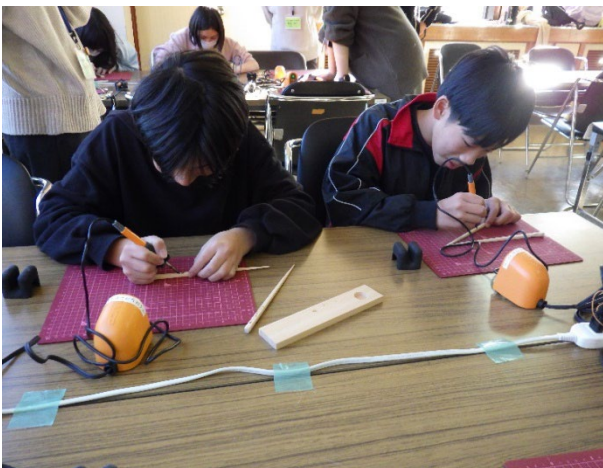


写真5

森林教育（木工体験）



写真6

森林教育（木工体験）

現在位置 [ホーム](#) > [産業・観光・食](#) > [農林水産業](#) > [林業](#) > [森林計画など\(計画\)](#)

あしあと [令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の計画について](#) > [林業](#) >

[令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の計画について](#)

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の計画について

[公開日：2024年6月26日] [更新日：2024年6月26日] ID:21610

ソーシャルサイトへのリンクは別ウィンドウで開きます



令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業計画

次の8つの事業を計画しています。

1. 人家裏危険木伐採事業

倒木等の危険が想定される人家裏山林の危険木を伐採することで災害を未然に防止するために、自治会などによる人家裏山林の危険木伐採費用の一部を補助します。

2. 尾鷲ヒノキを活用した保育園児等への山育事業

園児一人ひとりが尾鷲ヒノキ等を苗木から育てていく取り組みを実施し、子供たちが森に親しみを持ち、継続的な森との関係性を保つ機会を創出をしていきます。

3. クップを用いた地元産材に触れ合う場の創出事業

小中学校や各種イベントでのクップ体験を行い、子どもから大人までを対象に、楽しく地元産の木材と触れ合う機会を創出していきます。

4. 木とふれあう学校環境づくり事業

宮之上小学校、賀田小学校にて、尾鷲産材で製作した机・椅子の備品整備を行ったものを再利用し、新入生が机の天板の取り換えや組み立てを行うことで、木材への関心と愛着を持ち大切にすることを継続的に育む学校環境づくりを進めていきます。

5. 尾鷲中学校学習机・椅子整備事業

尾鷲中学校に県産材を使用した机・椅子を配置することで、森林の保全や地域の産業を学習する環境の構築を進めていきます。

6. 木とふれあう保育環境づくり事業

県産材で作成した木製玩具を導入し、親しみふれあうことで子どもの感性を養い、森林に興味をもつきっかけにつなげることを目的とします。

7. 森と野鳥の学び場づくり事業

野鳥の小径ふれあい広場の東屋を県産材を活用して修繕し、森林について学び場づくりを行うとともに、訪れる方が安心して利用できる環境をつくりま

8. 中村山公園ほか整備事業

中村山公園等の枯損木などの除去を行い、危険を未然に防ぎ、市民が安心・安全に自然に触れ合える公園整備を進め



ご意見をお聞かせください

このページは役に立ちましたか？

☐役に立った ☐まあまあ役に立った ☒どちらともいえない ☐あまり役に立たなかった ☐役に立たなかった

このページは見つけやすかったですか？

☐見つけやすかった ☐まあまあ見つけやすかった ☒どちらともいえない ☐やや見つけにくかった ☐見つけにくかった

このページに関してのご意見がありましたらご記入ください。

(注意) お答えが必要なお問い合わせは、直接担当部署へお願いします（こちらではお受けできません）。

確認

この記事と同じ分類の記事

- ＜ [尾鷲市における令和5年度森林環境譲与税の使途公表について](#)
- ＜ [令和5年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の実績について](#)
- ＜ [令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の計画について](#)
- ＜ [経営管理集積計画〔水産農林課〕](#)
- ＜ [尾鷲市における令和3年度森林環境譲与税の使途公表について](#)
- ＜ [尾鷲市における令和4年度森林環境譲与税の使途公表について](#)
- ＜ [令和4年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の実績について](#)
- ＜ [令和5年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の計画について](#)
- ＜ [尾鷲市森林整備計画〔水産農林課〕](#)
- ＜ [尾鷲市鳥獣被害防止計画〔水産農林課〕](#)
- ＜ [尾鷲市における令和2年度森林環境譲与税の使途公表について](#)
- ＜ [令和4年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の計画〔水産農林課〕](#)
- ＜ [令和3年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の実績について](#)
- ＜ [令和3年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業に係る事業計画について](#)
- ＜ [令和2年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の実績について](#)
- ＜ [令和2年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業に係る事業計画について](#)
- ＜ [令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の実績について](#)
- ＜ [尾鷲市における令和元年度森林環境譲与税の使途公表について](#)
- ＜ [令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業に係る事業計画について](#)
- ＜ [平成30年度みえ森と緑の県民税市町交付金事業の実績について](#)
- ＜ [尾鷲市木のまち推進課 橋梁長寿命化修繕計画〔水産農林課〕](#)

市長部局水産農林課農林振興係

- ＜ [尾鷲の農業](#)
- ＜ [尾鷲の林業](#)
- ＜ [パブリックコメント](#)
- ＜ [お知らせ・報道資料](#)



ページの
先頭へ戻る

お問い合わせ

みえ森と緑の県民税市町交付金事業の 実績と計画をお知らせします



市では、三重県から交付される「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用して、さまざまな事業に取り組んでいます。

●令和5年度 実績報告

①人家裏危険木伐採事業

倒木等が心配される人家裏の危険木を伐採し、災害を未然に防止するため、2地区の自治会などに伐採費用の一部を補助しました。

②尾鷲ヒノキを活用した保育園児等への山育事業

市内全ての保育園・認定こども園の5歳児を対象に、尾鷲ヒノキ等の苗木を一人1本ずつ園で育て、卒園児が育てた苗木を市有林の「みんなの森」に植樹をし、子どもたちが森に親しみを持つ機会の創出を行いました。

③木とふれあう学校環境づくり事業

木材への関心と愛着を持ち大切にすることを育むことを目的に、宮之上小学校、賀田小学校で尾鷲産材の木製の机・椅子を再利用し、新入生が損傷部分の取り換え組立て等を行いました。

④尾鷲中学校学習机・椅子整備事業

自分たちの机や椅子が地元の山々から切り出されたものであることを知ってもらうことを目的に、木の良さに触れながら森林の大切さを学ぶツールとして、県産材を用いた机・椅子を導入しました。

⑤矢浜小学校学習机・椅子整備事業

木材への関心と愛着を持ち大切にすることを育むことを目的として、尾鷲産材で作成した机・椅子を導入しました。

⑥中村山公園整備事業

中村山公園の枯損木などの除去を行い、市民が安心・安全に自然に触れ合える公園整備を行いました。

⑦矢浜公園ほか立木伐採・処分および森林教育事業

小学生を対象にした森林教育を行い、次世代に対し木の大切さを学んでもらうとともに、矢浜公園および北浦児童公園にある樹木の中で、落下の恐れのある枝や道路に張り出した枝の剪定、倒木の恐れのある危険木の伐採を行い、市民が安心・安全に自然と触れ合える公園整備を行いました。



●令和6年度 事業計画

①人家裏危険木伐採事業

倒木等が心配される人家裏の危険木を伐採し、災害を未然に防止するため、自治会などによる人家裏危険木の伐採費用の一部を補助します。

②尾鷲ヒノキを活用した保育園児等への山育事業

園児一人ひとりが「市の木」である尾鷲ヒノキ等を苗木から育てていく取り組みを実施し、子どもたちが森に親しみを持つ機会を創出することを進めます。

③クップを用いた地元産材に触れ合う場の創出事業

小中学校や各種イベントでのクップ体験を行い、子どもから大人までを対象に、楽しく地元産の木材と触れ合う機会を創出します。

④木とふれあう学校環境づくり事業

宮之上小学校、賀田小学校で、市産材の木製の机・椅子を再利用し、新入生による損傷部分の取り換え組立て等を行うことで、木材への関心と愛着を持ち大切にすることを育む学校環境づくりを進めます。

⑤尾鷲中学校学習机・椅子整備事業

自分たちの机や椅子が地元の山々から切り出されたものであることを知ってもらい、木の良さに触れながら森林の大切さを学ぶツールとして、県産材を用いた机・椅子を導入します。

⑥木とふれあう保育環境づくり事業

県産材で作成した木製玩具を導入し、遊びを通して子どもの想像力や感性を養い、木と親しみふれあうことで木や森に興味をもつきっかけにつなげ、木育の推進を目的とします。

⑦森と野鳥の学びの場づくり

野鳥の小径ふれあい広場の東屋を県産材を活用して修繕し、野鳥と森林について学ぶ場づくりを行うとともに、地域住民が日ごろから環境整備に取り組んでいる野鳥の小径を訪れる方が安心して利用できる環境をつくれます。

⑧中村山公園ほか整備事業

中村山公園等の公園の枯損木などの除去を行い、危険を未然に防ぎ、市民が安心・安全に自然に触れ合える公園整備を進めます。

お問い合わせ 水産農林課 ☎23 8 2 6 2

紀 北 町

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和6年度版三重県市町要覧及び令和5年度版森林・林業統計書による）

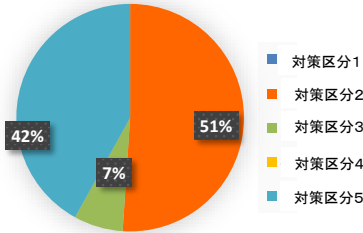
市町名	紀北町	三重県
人口（人）	13,288	1,716,617
年少人口割合（％）＊1	7.0％	11.4％
森林面積(ha)	22,931.86	371,680.22
民有林面積(ha)＊2	18,007.88	348,212.01
森林率(%)	89％	64％
都市公園面積（㎡/人口）＊3	56.7	10.7

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	危険木伐採事業	5,401,000	5,401,000		5,401,000				
2	2	集落周辺森林（里山）整備事業	200,000	200,000		200,000				
3	3	森林環境教育活動支援事業	766,636	766,636			766,636			
4	5	緑の植樹活動事業	6,557,510	4,604,364					4,604,364	
計			12,925,146	10,972,000	0	5,601,000	766,636	0	4,604,364	0

3. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	6.04ha	4,232,135	4,232,135	等高線並べの間伐による緩衝林化
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0	0	0	
県民参加の植樹祭事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	町民の安全・安心を守る暮らしに身近な森林づくりと、次世代を担う子どもたちが森林の大切さを学ぶ機会の創出
事業実施により期待される効果	危険木伐採事業では、事業実施主体である各区の森林管理の意識の向上が見られ、補助金活用の要望が増加し、集落周辺里山整備事業では事業主体の森林整備を行う様子や、新たな林内歩道が整備されている様子をSNS等で広く周知することで、整備を行った森林へ入る住民の安全性の向上が図られた。 また、森林環境教育では山、川、海を森林を起因とした一つのフィールドととらえ「紀北ネイチャラボ」を実施し、参加した生徒らの自然に対する興味、関心と危険性の認知の向上が図られ、緑の植樹活動事業では植樹イベントへ参加した町民及び来訪者等に緑を身近に感じる機会の創出を図り、森林に対する興味、関心が高まった。
情報発信への取組	紀北パーキングエリア内の始神テラスの一角や、町内イベントブースに展示スペースを設け事業成果を示したパネル展示や、ノベルティの配布を行った。また、町民向けの行政放送テレビチャンネルで県民税について取り扱いを行い、事業実施地にはPR用の木製標柱を設置した。

年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	③ 私有林整備	12,836	12,836
2	⑥ 林道・林専道の整備等	8,684	8,684
3	⑬ 木造公共建築物の整備等	20,834	20,834
4	⑰ 基金積立（森林整備等）	18,272	18,272
	合計	60,626	60,626

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名					
1	危険木伐採事業					
事 業 費	5,401,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			5,401,000			

1. 事業の目的

人家や公共施設等に隣接した山林等において、倒木の恐れがある危険木を伐採することによって被害を未然に防止し、家屋や施設、人命を守り、生活環境の保全や安全性の向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

人家等に隣接し、倒木になる恐れのある危険木について、緊急に伐採する必要があるが、所有者による伐採が困難である場合に限り、その費用の一部を自治会に補助して伐採する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

自治会

【実施箇所及び箇所数】

自治会15箇所（中里、新田、小浦、引本浦、名倉、三浦、馬瀬、木津、便ノ山2箇所、片上2区、出垣内、河内、渡利、加田）

【事業量】

自治会15箇所 176本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

人家裏や公共施設等の危険木を事前に伐採することにより、集中豪雨や強風時の倒木による危険性を未然に回避し、地域住民の生活環境の向上や公共施設等の安全、安心が確保されるとともに、住民の森林整備に対する意識の向上が見込める。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

実施した自治会に回覧板等により周知する

【新たな対策・視点及び改善点】

危険木伐採の補助要綱において、伐採箇所の地目が「山林」であるものを対象としていたが、受益者等からの強い要望があり、現況が山林化している急傾斜地等に対しても対象とするよう改めたことから、広く希望に対応できるようになり、地目が「保安林」であるのものや、その他の地目で生活環境の改善が進んでいる。

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	危険木伐採事業				
事業費	5,401,000 円	(財源内訳)	当年度交付金 5,401,000	市町基金	その他

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び 補助対象者等	③補助率・ 負担率等	④補助の上限及び 定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	9/10以内	1申請につき1年度50 万円の上限	
委託事業	紀北町			

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請書の提出と早期対応の必要があるかを添付書類にて判断。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	15自治会、住宅、道路、集会所等
期待する波及効果	隣接する人家等の安全性の確保

【公的関与の必要性】

個人での危険木の伐採には手間も費用もかかり負担が大きいことから伐採が遅れてしまうため、補助によって早期に伐採することが出来る。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町の補助金交付要綱により転用や目的外使用について制限はかけていない。自治会が森林所有者から事業実施の同意を得た上で森林内での必要最低限の危険木伐採を行う

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

暮らしに身近な森林づくりの重要性を再認識し、税を活用する事業であることを自治会（地区住民）で議論していただくために、自治会としての要望書の提出を事前に義務付けている。

事業実施により森林所有者はもとより、各地区の住民が森林管理の必要性を再認識し、森林整備の意識醸成につながった。また各自治会からは、人家裏山林の状況を再度確認した上で事業に取り組みたいと聞いている

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
事業名	危険木伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
標柱代	みえ森と緑の県民税標柱	本	15	24,200	363,000	自治会箇所
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	136,000	136,000	中里区（自治会） 伐採7本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	121,000	121,000	新田区（自治会） 伐採1本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	450,000	450,000	小浦区（自治会） 伐採45本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	500,000	500,000	引本浦区（自治会） 伐採40本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	168,000	168,000	名倉区（自治会） 伐採6本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	227,000	227,000	三浦区（自治会） 伐採5本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	500,000	500,000	馬瀬区（自治会） 伐採5本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	333,000	333,000	木津区（自治会） 伐採10本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	267,000	267,000	便ノ山区（自治会） 伐採3本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	500,000	500,000	片上2区（自治会） 伐採8本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	450,000	450,000	出垣内区（自治会） 伐採3本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	191,000	191,000	河内区（自治会） 伐採1本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	495,000	495,000	渡利区（自治会） 伐採20本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	500,000	500,000	加田区（自治会） 伐採20本
危険木伐採	伐採,集積,積込,運搬	式	1	200,000	200,000	便ノ山区（自治会） 伐採2本
		小計（a）			5,401,000	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐採事業
-----	---------

7の(1). 写真

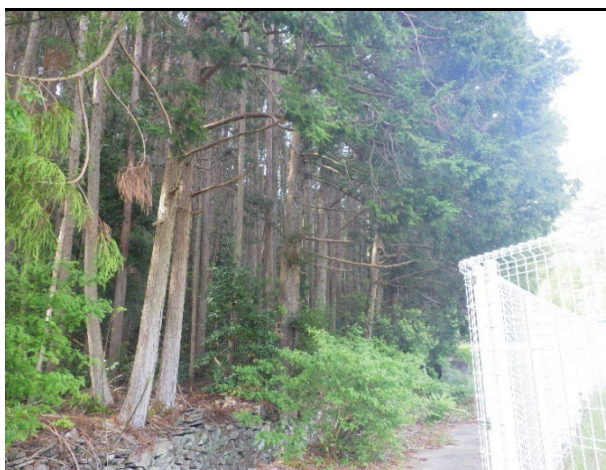


写真1

令和6年度実施 小浦区（伐採前）



写真2

令和6年度実施 小浦区（伐採後）



写真3

令和6年度実施 馬瀬区（伐採前）



写真4

令和6年度実施 馬瀬区（伐採後）

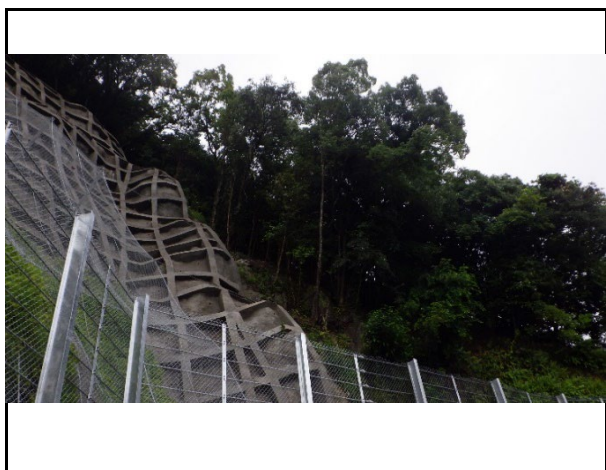


写真5

令和6年度実施 渡利区（伐採前）



写真6

令和6年度実施 渡利区（伐採後）

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	集落周辺森林（里山）整備事業				
事 業 費	200,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			200,000		

1. 事業の目的

当地域は、沿岸部に人家が密集し、背後に急傾斜地を有する人家が多く、近い将来想定される東南海地震による津波の襲来が心配される。また、近年人家周辺山林に人が入ることが少なくなり、野生動物の隠れ場になっているケースも多い。

このような集落周辺の荒廃が進む森林を、住民自らが整備することで、森林のもつ多面的な機能を活用し、安全安心・快適な生活環境を創出していく。

2. 事業実績概要

【事業内容】

集落周辺の里山において、風倒木の伐採、不要萌芽の除去、雑草木の刈払い、土留め、林内歩道の設置など、森林整備活動を実施した地域住民で組織する団体（ボランティア団体）に補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民で組織する団体（ボランティア組織）

【実施箇所及び箇所数】

3箇所（1団体）、箇所名：大台ヶ原尾鷲道、木津道 白石湖周回登山道 団体名：NTRC

【事業量】

登山道沿いの森林

大台ヶ原尾鷲道 0.9ha 木津道 2.0ha 白石湖周回登山道 0.7ha 面積 計3.60ha

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森林整備することで、住民が安心安全かつ、気軽に里山に立ち入りできるようになり、林内を良好な状態に保つことができるとともに、野生動物による獣害の防止や住民協働による里山整備の拡大などへの波及効果が期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

NTRCに対し、本事業の取り組みを継続的に実施するよう求めた。

【新たな対策・視点及び改善点】

登山道沿いの風倒木処理や、下刈り、林内歩道の設置等の森林整備だけでなく、枝打ち等の全体的な森林整備を実施した。また去年に引き続き団体にホームページ、ブログ、SNS等で県民税活用の積極的なPRを求める。

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	集落周辺森林（里山）整備事業				
事業費	200,000 円	(財源内訳)	当年度交付金 200,000	市町基金	その他

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び 補助対象者等	③補助率・ 負担率等	④補助の上限及び 定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	その他	1ヘクタール当たり 16万円を上限とする。 補助金の額は1 団体、年度当たり20 万円を上限とする。	3名以上で組織する団体が自主的に取 り組む、集落周辺の森林整備等に関す る保全活動及び森林環境整備活動に直 接必要と認められる経費（人件費、食 糧費等は除く。）

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

荒廃した里山等の再生並びに集落周辺の登山道等の整備など、暮らしに関わりの深い森林づくりが地域住民の自主的な取り組みにより継続的に実施されることを期待するとともに、最小限の費用で整備することが可能

【主な経費内訳】

（別紙のとおり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	登山者、森林所有者、集居住民
期待する波及効果	森林の適切な整備と、登山者の安全確保

【公的関与の必要性】

紀北町は「自然と共生の町」を宣言しており、豊かな自然のある大台ヶ原への登山道の整備であることから、税を活用した登山者の安全確保は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

登山道については以前から登山者や森林所有者が利用しており、今後も同様の活用となると考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
その他	実施中	SNS等で発信し、利用者に県民税により実施したことを周知する。
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

登山者からは、登山道の環境が整備がされ、安全性が増したという意見をいただいている。

第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
事業名	集落周辺森林（里山）整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金	NTRC	式	1	200,000	200,000	面積 尾鷲道 0.9ha 木津道 2.0ha 白石湖周回登山道 0.7ha
		小計			200,000	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	集落周辺森林（里山）整備事業
-----	----------------

7の（1）. 写真



写真1

令和6年度実施 尾鷲道 下刈り作業中



写真2

令和6年度実施 尾鷲道 整備後



写真3

令和6年度実施 木津道周辺森林 枝打ち作業中



写真4

令和6年度実施 木津道周辺森林 整備後



写真5

令和6年度実施 白石湖周回登山道 風倒木整備前



写真6

令和6年度実施 白石湖周回登山道 整備後

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	森林環境教育活動支援事業				
事 業 費	766,636 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			766,636		

1. 事業の目的

環境林や公有林、学校林等を活用し、森林環境教育活動及び森林・林業作業体験活動、木育活動を実施し、次代を担う児童や生徒、地域住民に対して、森林の持つ様々な公益的機能や役割、森林環境に関する正しい知識の提供と理解の促進を図る機会を創出し、森林や林業に理解の深い人材の育成を目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

森林環境教育の新たな取り組みとして実施する紀北ネイチャーラボでは、教育委員会や町内全中学校と連携し「山・川・海」を森林を起因とした一つのフィールドととらえ、町内の様々な自然を活用し、生徒自ら伐採、搬出した木材を使ったベンチ作りやシーカヤック体験、生き物観察など、各学校の学校方針に沿った様々なフィールドワークを実施することで、森林をはじめとする自然の豊かさや大切さ、併せて自然の怖さや危険性の認知を促す。また複数年にわたって年間のカリキュラムを確保し、ブラッシュアップしたフィールドワークを実施することで継続性と発展性のある学びとする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

学校

【実施個所及び箇所数】

団体主体：三船中学校1年生 9名、2年生 18名 合計生徒27名

【事業量】

町内の自然「山・川・海」を使って、木の伐採・搬出、ベンチ作り、シーカヤック等の様々なフィールドワークを三船中学校1，2年生を対象に実施。

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

当地域で盛んに行われてきた林業が、従事者の激減とともに衰退し、手入れされていない山林が増加するなど山林の荒廃が急激に進行している。こうした現状の中、植えて、育てて、使い、また植える林業の循環の重要性や森林の持つ公益的な機能の重要性を町内の子供たちに理解してもらうとともに、林業という仕事について知り、興味を持ってもらう機会を創出する。併せて、川、海でのフィールドワークを通じて、治水や浄水、生物多様性といった森林の機能による自然の恵みを体感する。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

紀北ネイチャーラボ初回の導入時間に事前座学を実施し、町の林業や森林整備の重要性、また町の自然「山・川・海」が森林を起因として一つに繋がっていることを学ぶことにより、生徒らの興味関心を引き出すことが期待できる。

【新たな対策・視点及び改善点】

森林環境教育の新たな取り組みとして「紀北ネイチャーラボ」を実施することで、これまで希望する学校のみ年間1回の単発的な取り組みが、年間5回の活動の中でより継続性と成長性を促し、生徒が森林を含めた自然への興味や危険性の認知、自然を大切にしていくための主体的な行動や気づきを促していく。

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	森林環境教育活動支援事業				
事 業 費	766,636 円	(財源内訳)	当年度交付金 766,636	市町基金	その他

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	－	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

令和7年度に町内全中学校での実施へ向けた実施モデルとして、学校からの希望もあり、三船中学校を選定。

【主な経費内訳】

（別紙のとおり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	参加、生徒 中学生27名
期待する波及効果	林業に対する正しい知識の習得、森林を含めた自然への興味や危険性の認知

【公的関与の必要性】

現地での森林整備体験に町有林を活用可能。教育委員会及び学校との連携、調整が容易。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	実施箇所に県民税のロゴ入りの標柱等を設置して町民に周知を図る
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する
啓発物品配布	実施中	実施主体の団体等による情報発信（紹介動画等の案内）を通じて周知を図る
広報誌掲載	実施後	事業内容を掲載して町民に周知を図る
のぼり設置	実施中	実施箇所に設置し、町民に周知を図る
その他	実施中	マスコミへ周知し、新聞等にて、町民へ県民税により実施したことを周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

振返り発表会及び参加生徒からのアンケートに、体験中の危険だと感じたことや、学んだこと等の感想を得られた。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町
------	-------------	-----	-----

4. 効率性：主な経費内訳

- 711 -

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育活動支援事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1

令和6年度環境教育 補助事業 グループワーク



写真2

令和6年度環境教育 補助事業 三船中 スラックライン

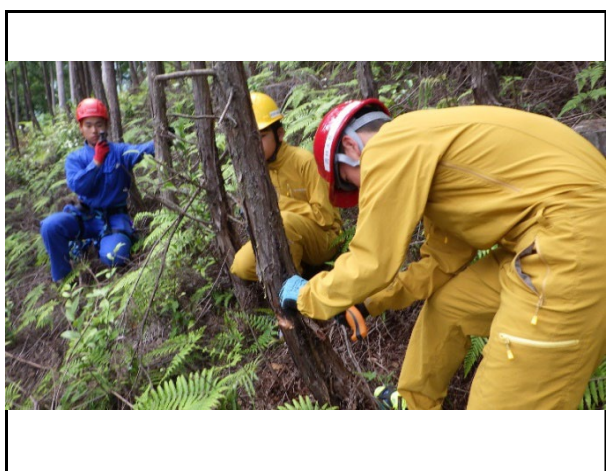


写真3

令和6年度環境教育 補助事業 三船中 間伐体験



写真4

令和6年度環境教育 補助事業 三船中 ベンチ作り



写真5

令和6年度環境教育 補助事業 三船中 シュノーケリング



写真6

令和6年度環境教育 補助事業 三船中 シーカヤック体験

令和6年度 森林環境教育 1年生アンケート集計

Q1 紀北町の自然、森林に触れて良さは伝わりましたか？

伝わった	8	名
伝わらなかった	1	名

Q2 体験を通して森林について理解は深まりましたか？

深まった	8	名
深まらなかった	1	名

Q3 各フィールドワークの感想をお聞かせください。

1)森遊び(スラックライン、ハンモック体験)	2)川を知る(川流れ体験、シュノーケリング、生物探し)		
とても良かった	6 名	とても良かった	7 名
良かった	2 名	良かった	2 名
やや悪い	名	やや悪い	名
悪い	名	悪い	名
無記入1			

3)カヤック体験(カヤック体験、ゆらゆら帯観察)

とても良かった	8	名
良かった	0	名
やや悪い	0	名
悪い	0	名
無記入1		

Q4 今年実施したフィールドワークの中で、特に印象に残った体験や、 体験中のできごとなどを教えてください。

- ・シュノーケルの時、スタッフとできて楽しかった。スラックライン、ハンモックが印象的だった。
- ・スラックラインが印象的だった。
- ・川で生き物を探すのが楽しかった。
- ・ハンモックでリラックスできた。
- ・ゆらゆら帯が見れたのが印象的だった。
- ・カヤックで、川の流れや風向きでこぎにくく難しかった。
- ・カヤックでみんなで助け合ったりして良い経験になった。
- ・すべての体験

Q5 今年実施したフィールドワーク以外で、自然の中でやってみたいことはありますか？

- ・自分で切った木で物づくり
- ・川だけでなく、海でも魚を取ったりしたい。
- ・スキューバーダイビング ※複数回答
- ・釣り
- ・軽い登山

令和6年度 森林環境教育 2年生アンケート集計

Q1 紀北町の自然、森林に触れて良さは伝わりましたか？

伝わった	15	名
伝わらなかった	0	名

Q2 体験を通して森林について理解は深まりましたか？

深まった	15	名
深まらなかった	0	名

Q3 各フィールドワークの感想をお聞かせください。

1)ベンチ作り①(間伐、搬出)			2)カヤック体験(ゆらゆら帯観察)		
とても良かった	13	名	とても良かった	13	名
良かった	2	名	良かった	1	名
やや悪い	0	名	やや悪い	0	名
悪い	0	名	悪い	0	名
			無記入1		

3)ベンチ作り②(木の加工、設置)		
とても良かった	13	名
良かった	1	名
やや悪い	0	名
悪い	0	名
未記入1		

Q4 今年実施したフィールドワークの中で、特に印象に残った体験や、体験中のできごとなどを教えてください。

- ・カヤック体験が楽しかった※複数回答
- ・みんなでベンチ作りをしたこと。※複数回答
- ・ゆらゆら帯が見れたこと。

Q5 今年実施したフィールドワーク以外で、自然の中でやってみたいことはありますか？

- ・もりつき
- ・川で石きり
- ・木で自分の身近なものを作りたい。
- ・自分のベンチを作りたい。※複数回答
- ・家を作りたい。
- ・アスレチック
- ・海での遊び
- ・登山
- ・釣り

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
4	緑の植樹活動事業				
事 業 費	6,557,510 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,604,364		1,953,146

1. 事業の目的

町と地域住民等が一体となり植樹を行うことで、参加者に自然の大切さや環境保全の重要性を啓発するとともに、桜ともみじを植樹することで地域の緑化を推進し、美しい景観を形成することで、環境保全と観光資源の創出を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

植樹イベントを実施し、参加者が緑に触れることができる環境づくりを目指し、緑に対する意識向上や県民税の周知に繋げる。また、各施設へ植樹をすることで、緑との親しみの場を作り、気軽に利用できる地域の身近な森林として、町の公式LINEやHP等で広くPRを図る。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

町

【実施個所及び箇所数】

①始神テラス周辺、②始神さくら広場、③銚子川周辺

【事業量】

①桜422本、もみじ50本 ②桜42本、③桜36本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

各施設への植樹により、将来的な観光資源の創出による地域への集客を促し、植樹イベントでは参加者に対し、植樹等で緑に触れる機会を創出し、参加者の森林に対する意識の啓蒙を図る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

本事業に向けてあらかじめ地元自治会及び小学校、保育園へ植樹イベントへの参加を依頼し、植樹イベントを環境教育の場として活用し、自然の大切さや緑に対する意識向上を図る。

【新たな対策・視点及び改善点】

植樹を行った各施設と連携し、植樹後の定期的な手入れなどのフォローアップ体制を構築し、樹木の生育の長期的なサポートを図る。

令和6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	紀北町	新規・継続の別	新規
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	緑の植樹活動事業				
事 業 費	6,557,510 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,604,364		1,953,146

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

町内の各施設への植樹について、のちの維持管理まで実施可能である森林組合おわせを選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	町民及び来訪者等
期待する波及効果	身近な施設へ植樹を行うことで、町民及び来訪者等が緑に触れる機会の創出と、興味関心を高めるきっかけ作り

【公的関与の必要性】

植栽箇所である施設周辺の地権者が町であり、植栽に係る許可等の調整及びのちの維持管理が簡易である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	紀北SA（始神テラス）において実施し、利用者に周知を図る
TV（行政チャンネル等）	実施後	町内ケーブルテレビでの放映にて発信し、町民に県民税により実施したことを周知する
啓発物品配布	実施中	実施主体の団体等による情報発信（紹介動画等の案内）を通じて周知を図る
広報誌掲載	実施後	事業内容を掲載して町民に周知を図る
その他	実施中	マスコミへ周知し、新聞等にて、町民へ県民税により実施したことを周知する

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

植樹に参加した町民からは、これからの桜の成長を楽しみにする声が多数あった。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀北町
------	--------------------	-----	-----

事業名	緑の植樹活動事業
-----	----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
委託請負費	森林組合おわせ	式	1	47,300	47,300	始神さくら広場植樹 前日準備作業
委託請負費	森林組合おわせ	式	1	55,000	55,000	始神さくら広場植樹 当日植樹作業
委託請負費	森林組合おわせ	式	1	5,854,530	5,854,530	各施設周辺他さくら等 植樹業務
委託請負費	森林組合おわせ	式	1	363,000	363,000	各施設周辺除草等業務
消耗品費	みえ森と緑の県民税標柱	式	1	24,200	24,200	始神さくら広場
消耗品費	さくら広場植樹式用プレート	枚	42	2,219	93,200	植樹式時に設置する プレート×42
消耗品費	さくら広場植樹式用コース ター	枚	70	800	56,000	イベント参加者へ配 布するコースター× 70
消耗品費	レジ袋他	式	1	6,530	6,530	
賃借料	スコップレンタル費	式	1	57,750	57,750	植樹式に使用するス コップのレンタル費 用
			小計		6,557,510	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀北町	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	緑の植樹活動事業
-----	----------

7の(1). 写真



写真1

令和6年度 始神桜広場 桜の植樹イベント①



写真2

令和6年度 始神桜広場 桜の植樹イベント②



写真3

令和6年度 始神桜広場 桜の植樹イベント③



写真4

令和6年度 始神桜広場 桜の植樹イベント④



写真5

令和6年度 始神テラス周辺 植樹後



写真6

令和6年度 銚子川周辺 植樹後

熊 野 市

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和6年度版三重県市町要覧及び令和5年度版森林・林業統計書による）

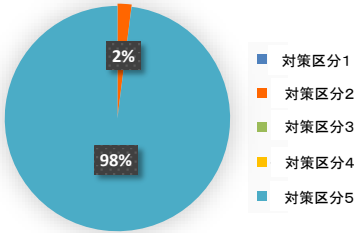
市町名	熊野市	三重県
人口（人）	14,598	1,716,617
年少人口割合（％）＊1	9.2%	11.4%
森林面積(ha)	32,942.33	371,680.22
民有林面積(ha)＊2	29,628.77	348,212.01
森林率(%)	88.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	12.8	10.7

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合



2. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	小・中学校危険木伐採・枝切事業	275,000	275,000		275,000			
2	5	森とふれあいの場拠点づくり事業	13,440,900	13,440,900					13,440,900
計			13,715,900	13,715,900	0	275,000	0	0	13,440,900

3. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費（円）	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	18.20ha	11,475,200	11,475,200	災害緩衝林実施箇所周辺の調整伐
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	熊野市の地勢は内陸に向かうに従って紀伊山地の急峻な山地となり、森林面積は総面積の88%を占めている。また、民有林面積は29,624haと全森林の約90%を占め、うち人工林は22,921haと県下でも有数の林業地域である。しかしながら、林業を取り巻く環境は木材の長期的な低迷に加え、担い手の減少、林業従事者の高齢化、生産基盤の立ち遅れ等が極めて厳しく、このまま推移すれば森林の整備水準の低下等により公益的機能が十分に発揮されないなど、住民生活への影響が懸念されている。そのため、「災害に強い森林づくりと環境林の保全」という熊野市森林・林業ビジョンの基本方針の1つに沿って、防災機能の強化による安全・安心の実現、里山林整備と奥地天然林や溪畔林の保全、身近な森林の恵みを活用する環境づくりなど、森林が与えてくれるさまざまな恩恵を評価した上で、森林と積極的に付き合っていく取組を展開していく。令和6年度については、地元住民や観光客など多くの利用がある校庭や遊歩道など、日常生活における利用の際はもちろん、台風襲来や地震発生など有事の際にはより一層危険を及ぼすおそれのある枯損木や支障木を除去することにより、木々の防災機能の強化による安全・安心な暮らしの実現に向けて事業を実施した。また同時に、多くの利用者が継続して利用し続けている身近な熊野古道や森林公園のほか、街路樹や集落内の緑に対し、多くの利用者・来訪者に緑を身近に感じてもらう環境づくりの取組を進めた。
事業実施により期待される効果	市が公益性の判断で実施する事業には特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に効果を及ぼすものが多く、県民税事業を行うことにより、安全・安心に地元の森林や自然とふれあう環境を整備することができ、市民だけでなく市への来訪者にも恩恵を受けてもらう。
情報発信への取組	事業実施の際にはのぼりや看板によって県民税のPRを行っているが、広い市域の中であって事業箇所が点在しており、利用者の目にふれる機会が少ないことから、市のホームページに事業の計画と実績の紹介へ市の玄関口であるJR熊野市駅や市街地に近い市文化交流センターにおいて例年パネル展示を行っている。

令和6年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	① 意向調査の準備作業	367	367
2	② 意向調査	1,705	1,705
3	⑦ その他（森林整備）	71,478	71,478
4	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	19,936	19,936
5	⑰ 基金積立（森林整備等）	67,493	67,493
	合計	160,979	160,979

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	小・中学校危険木伐採・枝切事業				
事 業 費	275,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			275,000	0	0

1. 事業の目的

倒木のおそれがある危険木を除去することにより、今後も校庭等を安全・安心・快適に利用する環境づくりを行い、身近に存在する樹木を対象とした森林環境教育につなげる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

倒木のおそれがある学校敷地内の危険木の伐採・枝切を行い、安全等が確保された森林空間において森林環境教育を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

熊野市教育委員会

【実施個所及び箇所数】

熊野市木本町地内：1 箇所（木本小学校）

【事業量】

危険木 3 本（サクラ、センダン、マツ）伐採

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

校庭の利用や隣接道路の通行の際、安全・安心が確保され、樹木の快適空間が維持される。また、身近な森林空間の維持により、継続して森林環境教育を実施できる。また、児童のみならず、ゲートボール愛好者などの地域団体も校庭等を利用していることから、学校を核とした地域活動が今後も維持される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

危険木の伐採風景や伐採跡を実際に児童が見ることで、樹木や森林が自分たちと離れた場所にあるものではなく、身近に存在するというリアリティを感じる中で樹木の勉強を行うことができた。

【新たな対策・視点及び改善点】

これまでに十分に手入れがされず、危険な状態で放置されていたため、当事業により適切な対応を行うことによって安全な環境を整えることができ、森林環境教育を継続して実施できる。

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び 補助対象者等	③補助率・ 負担率等	④補助の上限及び 定額補助の額	備考
委託事業	建設業者	補助事業ではな い		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
高所作業車の取扱いに秀で、市街地でも安全に作業を実施できる能力と実績のある事業者の中から、指名競争入札により委託先を決定した。				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	校庭利用者100人及び地域住民1,609人			
期待する波及効果	周辺通行者や校庭等を利用する地域団体等への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】				
対象となる施設は市が管理する施設であり、これらを適切な状態に維持して利用者に活動の場として提供することが市の方針である。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
施設の管理者である熊野市が適正に管理していく。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
施工看板に掲示	実施中			
のぼり設置	実施中			
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行う。		
HP掲載	実施前・後	年度当初に予定事業を掲載し、事業結果は翌年度当初に公表する。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
「子どもたちの安全が確保され、安心して学校で学ぶ環境が整備された」「危険な木は伐採してほしいが、木に親しむために緑がある環境を維持してほしい」「クマノザクラを植えてほしい」「木の一生を見ることができた」「いつもあった木がなくなってびっくりした」などの声が聞かれた。				

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市
------	-----------------	-----	-----

4. 効率性：主な経費内訳

- 725 -

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
事業名	小・中学校危険木伐採・枝切事業				

7の(1). 写真



写真1

マツ（実施前）



写真2

マツ（実施後）



写真3

実施中P R①



写真4

実施中P R②



写真5

森林環境学習実施風景①



写真6

森林環境学習実施風景②

令和 6 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事 業 費	13,440,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			13,440,900	0	0

1. 事業の目的

市民が身近に水や緑を感じ、熊野古道をはじめとした地域の歴史や自然に親しむことのできる森林公園や遊歩道などの整備を行うことで、より市民に利用され、日常的に森林環境学習や木育の拠点として水や緑に親しむ箇所を創出する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

森と緑と日常的に快適にふれあえることのできる拠点づくりのため、歩道の修繕や風倒木の処理、枯損木・雑草木の除去、支障木の伐採を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

熊野市

【実施箇所及び箇所数】

下刈7箇所（鬼ヶ城園地、小鳥の囀る森公園、湯ノ口公園、夕陽の丘公園、田平子公園、小口谷クマノザクラ園地、大峰近隣公園）、風倒木処理1箇所（鬼ヶ城園地）、遊歩道整備2箇所（大峰近隣公園、赤木城跡周辺）、支障木伐採4箇所（鬼ヶ城園地、楯ヶ崎ビューポイント・遊歩道、要害山、板屋地区散策道）

【事業量】

下刈り等14.13 ha、風倒木処理149本、遊歩道整備74.1m、支障木伐採50本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森とのふれあいの場を整備することで日頃から森林にふれあうことのできる環境を提供できる。同時に、それぞれの森林公園等を利用する協力団体が実施する森林環境学習等を通じて、より市民が森林にふれあうという相乗効果を図ることができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

整備を実施した施設に対しては、周辺の宿泊施設での館内放送・マップ配布により利用を促進している。また、トレイルランニングレースやボルダリング大会などのイベント時の利用を行い、施設のPRを行っている。さらに、「高虎サミットin熊野」を開催し、戦国武将・藤堂高虎が遺した赤木城跡周辺の調査・研究の成果報告のほか、鬼ヶ城など他の森林公園を含むエクスカースョンツアーを実施し、当地域に特長的な地形や植生を学ぶ機会を創出した。

【新たな対策・視点及び改善点】

これまで適切な整備を行うことで快適な利用が可能になっていると市民から好評を得ているため、今後も継続して整備を行う必要がある。

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
本事業で実施する山林内での下刈や支障木伐採には専門的な知識と技術が必要であるため、類似業務の実績が豊富な森林組合に委託するのが適当であると判断したため。 【主な経費内訳】 （別紙のとおり）				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	年間予想利用者42,600人（鬼ヶ城園地30,000人、小鳥の囀る森公園300人、湯ノ口公園7,000人、夕陽の丘公園300人、田平子公園300人、小口谷クマノザクラ園地100人、大峰近隣公園100人、楯ヶ崎ビューポイント・遊歩道1,000人、赤木城跡周辺遊歩道1,000人、要害山100人、板屋地区散策道100人）			
期待する波及効果	周辺を利用する観光客・イベント参加者への波及効果も期待できる			
【公的関与の必要性】				
対象となる施設は市が管理する施設であり、これらを整備してさらなる利用者の増加を図り、森林のもたらす恩恵を利用者に享受してもらうことが市の方針である。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 施設の管理者である熊野市が適正に管理していく。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
施工看板に掲示	実施中			
のぼり設置	実施中			
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行う。		
HP掲載	実施前・後	年度当初に予定事業を掲載し、事業結果は翌年度当初に公表する。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
「注目されているクマノザクラを初めて見る事ができた（大峰近隣公園）」「安心して毎日の散歩ができ、四季折々の景観が楽しめる（板屋地区散策道）」「熊野古道やこれだけの森林を楽しめるトレイルランニングレースはない（小鳥の囀る森公園）」「歴史的な史跡がよく保全されており、実際に足を踏み入れることができるのは感動の一言（赤木城跡周辺）」「熊野市の施設は維持管理が行き届いており理想的（第13回高虎サミットin熊野）」などの声が聞かれた。				

第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市
------	--------------------	-----	-----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
<u>森林公園下刈等</u>		ha	14.13			鬼ヶ城園地ほか6箇所
労務費		式	1		2,104,000	下刈、草刈
機械損料		式	1		138,000	チェンソー
諸経費		式	1		1,197,000	
		消費税及び地方税相当額			343,900	10%
		合計			3,782,900	
<u>風倒木処理</u>		本	149			鬼ヶ城園地
伐採労務費		式	1		1,426,000	
機械損料		式	1		436,000	重機、チェンソー
諸経費		式	1		838,000	
		消費税及び地方税相当額			270,000	10%
		合計			2,970,000	
<u>遊歩道整備</u>		m	74.1			大峰近隣公園 赤木城跡周辺
資材費		式	1		861,000	
搬入運搬費		式	1		328,000	
加工・組立費		式	1		661,000	
解体撤去費		式	1		241,000	
諸経費		式	1		555,000	
		消費税及び地方税相当額			264,600	10%
		合計			2,910,600	
<u>支障木伐採</u>		箇所	4			鬼ヶ城園地ほか3箇所
伐採労務費		式	1		1,813,000	
機械損料		式	1		555,000	重機、チェンソー
諸経費		式	1		1,066,000	
		消費税及び地方税相当額			343,400	10%
		合計			3,777,400	
		合計			13,440,900	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

下刈り（大峰近隣公園・実施前）



写真2

下刈り（大峰近隣公園・実施後）



写真3

下刈り（鬼ヶ城園地・実施中）



写真4

下刈り（湯ノ口公園・実施中）



写真5

風倒木処理（鬼ヶ城園地・実施前）



写真6

風倒木処理（鬼ヶ城園地・実施後）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

遊歩道整備・柵設置（大峰近隣公園・実施前）

写真2

遊歩道整備・柵設置（大峰近隣公園・実施後）



写真3

遊歩道整備・階段修繕（大峰近隣公園・実施前）

写真4

遊歩道整備・階段修繕（大峰近隣公園・実施後）



写真5

遊歩道整備（赤木城跡周辺①・実施前）

写真6

遊歩道整備（赤木城跡周辺①・実施後）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

遊歩道整備（赤木城跡周辺②・実施前）



写真2

遊歩道整備（赤木城跡周辺②・実施後）



写真3

支障木伐採（鬼ヶ城園地①・実施前）



写真4

支障木伐採（鬼ヶ城園地①・実施後）



写真5

支障木伐採（鬼ヶ城園地②・実施前）



写真6

支障木伐採（鬼ヶ城園地②・実施後）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

支障木伐採（楯ヶ崎B P①・実施前）



写真2

支障木伐採（楯ヶ崎B P①・実施後）



写真3

支障木伐採（楯ヶ崎B P②・実施前）

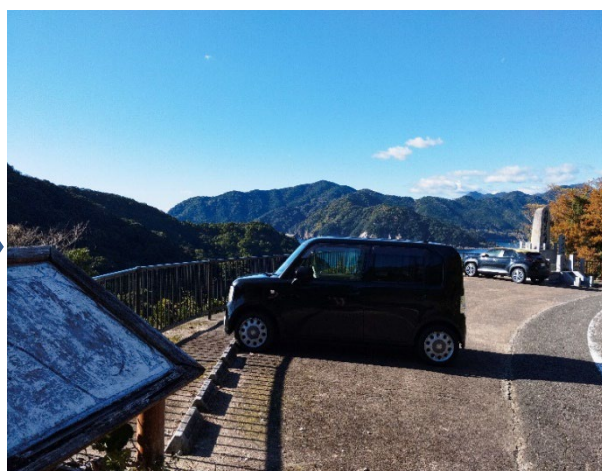


写真4

支障木伐採（楯ヶ崎B P②・実施後）

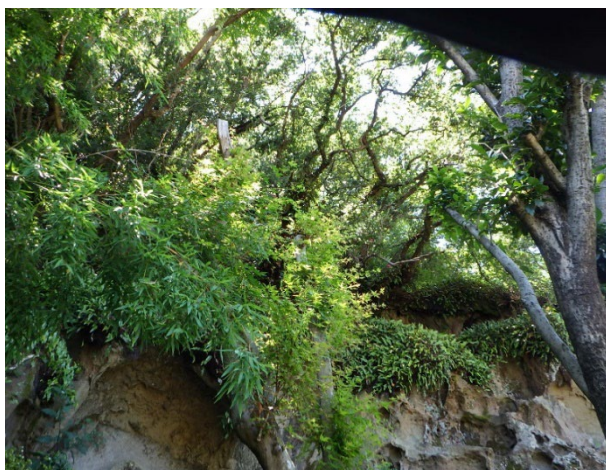


写真5

支障木伐採（要害山・実施前）

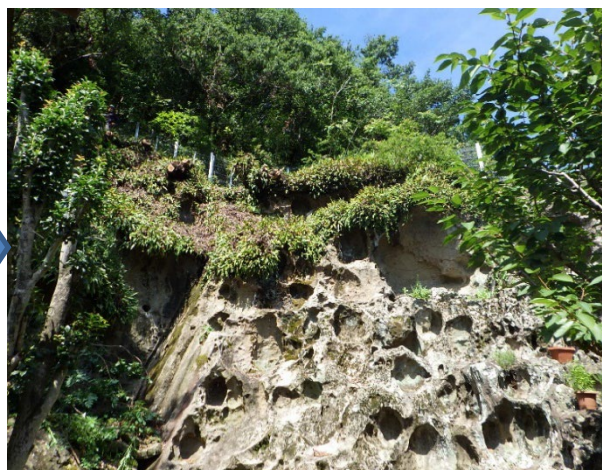


写真6

支障木伐採（要害山・実施後）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業
-----	-----------------

7の(1). 写真

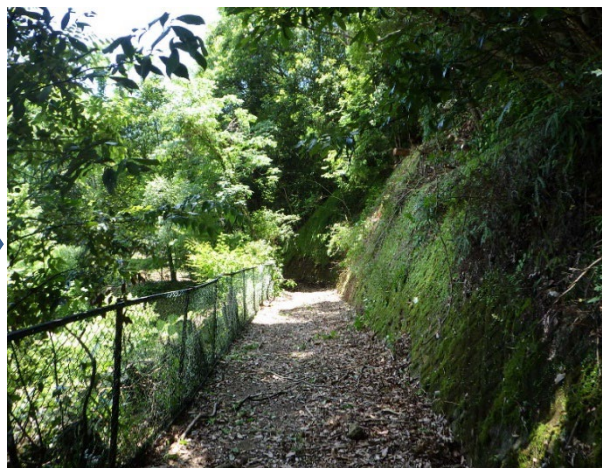


写真1

支障木伐採（板屋地区散策道①・実施前）

写真2

支障木伐採（板屋地区散策道①・実施後）



写真3

支障木伐採（板屋地区散策道②・実施前）



写真4

支障木伐採（板屋地区散策道②・実施後）



写真5

森林環境学習①（赤木城跡周辺・第13回高虎サミットin熊野）



写真6

森林環境学習②（赤木城跡周辺・第13回高虎サミットin熊野）

御 浜 町

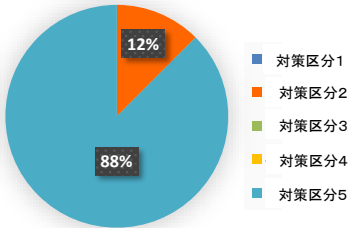
令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和6年度版三重県市町要覧及び令和5年度版森林・林業統計書による）

市町名	御浜町	三重県
人口（人）	7,580	1,716,617
年少人口割合（％）＊1	9.7%	11.4%
森林面積(ha)	5,696.85	371,680.22
民有林面積(ha)＊2	5,603.74	348,212.01
森林率(%)	65.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	22.0	10.7

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）
＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	町道危険木伐採事業	872,000	872,000		872,000			
2	5	森林公園等環境整備事業	6,105,000	6,105,000					6,105,000
計			6,977,000	6,977,000	0	872,000	0	0	6,105,000

3. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針
本町は、県南部に位置し、東部は雄大な太平洋熊野灘に面した海岸線沿いには、比較的平坦な低地が広がりますが、内陸部では山岳地帯を形成しており、人工林率は71%と県平均の62%を上回っていて、かつては積極的に植林がされてきた地域です。しかし林業経営の悪化などから森林への関心は薄れ、適切な整備がされず森林が持つ公益的機能が十分に発揮でいる状態ではない森林も見受けられます。 このことを踏まえ、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、小中学校内や町道沿線の危険木の伐採や枝下ろしを行うことで町民の生活環境等の保全や向上を図り、「災害に強い森林づくり」を進めます。また、不特定多数の人が集まる町内の地元産品販売所等への木製備品配置を支援するとともに、森林公園等のフィールド整備を行うことで住民が木や緑とふれあう環境を身近なものにし、木の良さや木を使うことが森林整備につながることの重要性を広くPRしていく「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めます。
事業実施により期待される効果
町民や来訪者に利用される遊歩道及び公園を整備することで、多くの人が森林や緑と触れ合う機会をつくることができました。寺谷総合公園を遠足先とする小学校もあり、また家族の利用者も多いため、地域の子供たちが森林にふれる環境をつくることができました。
情報発信への取組
町民や施設利用者へ県民税を活用して整備が行われていることを周知するため、作業期間中に県民税ののぼり等の設置、庁舎内でのパネル掲示、広報掲載などを行った。

令和6年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税 (円)
1	③ 私有林整備	1,355,200	1,355,200
2	③ 私有林整備	2,578,400	2,578,400
3	③ 私有林整備	9,020,000	9,020,000
4	③ 私有林整備	3,575,000	3,575,000
	合計	16,528,600	16,528,600

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	町道危険木伐採事業				
事 業 費	872,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			872,000		

1. 事業の目的
町道沿線の台風等の影響により倒木等の恐れのある危険木を伐採することにより、町道の通行止めや道路利用者への落下を未然に防止し、道路利用者の安全安心を確保することを目的とする。
2. 事業実績概要
【事業内容】 町道の危険木を伐採し、安全な道路運航に努める。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 御浜町 【実施箇所及び箇所数】 御浜町大字阿田和地内2箇所（315m） 【事業量】 町道引作山地線（250m）・町道一万堂線（65m）
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 町道沿いの危険木を伐採することで、道路利用者の安全安心が確保される。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 これまでも町民から生活道路の危険木除去の要望があったため、中山間部に位置する主要町道の危険木を集中的に伐採・撤去する。 【新たな対策・視点及び改善点】 集中的に実施することで、高所作業車の借り上げ経費の削減を図る

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	町道危険木伐採事業				
事 業 費	872,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			872,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	建設業者	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

見積もりを徴した結果、最低価格業者を選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	道路利用者
期待する波及効果	道路利用者の安全安心が確保される。

【公的関与の必要性】

町民が利用する生活道路のため、安全管理が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町による定期的なパトロールとメンテナンスを行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	施業中にのぼりを設置し周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
町道危険木伐採事業						
直接工事費		式	1		516,000	作業員人件費及び機械経費
間接費		式	1		130,000	
処分費		式	1		147,000	
消費税及び地方税相当額					79,300	
合計					872,000	千円未満切り捨て
		合計			872,000	

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	町道危険木伐採事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

町道危険木伐採事業（施業前）



写真2

町道危険木伐採事業（施業後）



写真3

町道危険木伐採事業（施業中）



写真4

町道危険木伐採事業（施業中）

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森林公園等環境整備事業				
事 業 費	6,105,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,105,000		

1. 事業の目的

健康づくりの一環として山歩きや森林浴など、町民が森林とふれあおうとする機運が高まってきている。御浜町には遊歩道を有する小高い山とそれに隣接する公園があり、多くの住民が利用している。遊歩道、公園及び東屋周辺を整備することで、住民が森林や緑とふれあう環境を身近なものにする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

寺谷総合公園内クマノザクラ植栽、支障木伐採・下刈り、浅間山遊歩道案内看板製作他

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

御浜町

【実施個所及び箇所数】

御浜町大字阿田和地内ほか

3箇所（寺谷総合公園、浅間山遊歩道、川瀬東屋周辺）

【事業量】

寺谷総合公園（支障木8本伐採、公園整備2.94ha、クマノザクラ植栽150本）

浅間山遊歩道（遊歩道整備0.39ha、看板設置8基）

川瀬東屋（東屋周辺整備0.18ha）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

町民や来訪者に利用される遊歩道及び公園を整備することで、多くの人が森林や緑と触れ合うことができる。寺谷公園を遠足先とする小学校もあり、また家族の利用者も多いため、地域の子供たちが森林にふれる環境を適切に維持することにつながることを期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

クマノザクラ150本の植栽の一部を地域小学生を対象に植樹祭を開催し、直接緑に触れることで森林への関心を深めた。また、利用者を増やすため植樹祭や遊歩道の看板設置を広報で周知を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

寺谷総合公園にクマノザクラを150本植え、今後の管理が必要となってくるため、クマノザクラのメンテナンス時期に地域住民にも関わる機会をつくり、森林への関心を深めていくように取り組む。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森林公園等環境整備事業				
事 業 費	6,105,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,105,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

下刈りと支障木伐採は見積もりを徴した結果、最低価格業者を選定。
看板・植栽は専門的な取り扱いのため、技術を有する業者を選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	森林公園等利用者
期待する波及効果	安全に森林公園・遊歩道を利用できる、緑に触れる機会が増える。

【公的関与の必要性】

森林公園等環境整備、特に遊歩道の環境整備は利用者にとって安全に利用してもらうためには必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

管理者を配置し、定期的なメンテナンス・見回りを行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施前・後	県民税を利用したイベントの周知と結果を周知する
標識・標柱等設置	実施後	県民税を利用し設置した看板を周知し、利用を促す。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町
------	--------------------	-----	-----

事業名	森林公園等環境整備事業
-----	-------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
寺谷総合公園クマノザクラ植栽						1 5 0 本植栽（苗木等資材除く）
植栽工事費		式	1	1,962,000	1,962,000	造園作業員人件費及び機械経費
間接費		式	1	1,388,000	1,388,000	
消費税及び地方税相当額					335,000	
合計					3,685,000	
寺谷総合公園支障木伐採						
直接工事費		式	1	597,800	597,800	作業員人件費及び機械経費
間接費		式	1	122,200	122,200	
消費税及び地方税相当額					72,000	
合計					792,000	
浅間山遊歩道案内看板設置						遊歩道内、8 基設置
看板製作作業費		基	8	45,000	360,000	
工場作業費		式	1	60,000	60,000	作業員人件費及びデータ作成経費
現場作業費		式	1	80,000	80,000	作業員人件費
消費税及び地方税相当額				50,000	50,000	
合計					550,000	
森林公園等下刈り						
直接工事費		ha	2.94	530,575	530,575	寺谷総合公園
		ha	0.39	70,382	70,382	浅間山遊歩道
		ha	0.18	49,488	49,488	川瀬東屋
共通仮設費		%	8.40	54,637	54,637	
間接費		%	39.00	274,981	274,981	
消費税及び地方税相当額				98,000	98,000	
合計					1,078,000	千円未満切り捨て
		合計			6,105,000	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境整備事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

クマノザクラ植栽事業（植栽前）



写真2

クマノザクラ植栽事業（植栽後）

7の(2). その他資料

御浜町スポーツ少年団の皆様へ

クマノザクラ 植樹祭

この地方で発見されたクマノザクラを寺谷総合公園に 植樹します。
将来の地域の魅力づくりのため、みなさんの力でクマノザクラを植えましょう。
なお、今回はザクラと共に成長し、これからの御浜町を盛り上げていくスポーツ少年団の皆様に参加を呼びかけています。

記

日 時: 令和7年 2月15日(土)11:30~12:30
場 所: 寺谷総合公園 小雨決行
対象参加学年: 小学 5~6年生
参加申込書は1月31日(金)までに農林水産課までお願いします。

参加者には、お弁当・お茶・お菓子をプレゼント!
(当日は作業! やむを得ずで参加ください)

クマノザクラ植栽事業（案内文）

みて見てみはま

風 新酒発表

2月7日(金)、役場にて風の新酒発表が行われました。
酒は熊呂水地域で育てられたお米から製造された日本酒で、飲みやすく、普段お酒を飲まない方でも飲める一品です。
しかし、高齢化と後継者不足が原因で風の製造は今年限りとなっており、惜しまれる声が多々ありました。

クマノザクラ植樹祭

2月15日(土)、寺谷総合公園にてクマノザクラの植樹祭が行われました。
今回のイベントでは50本の植樹を行いました。クマノザクラは太古の昔から生き残っている樹で、淡い花弁が特徴です。見頃までは10年前後かかるといわれており、桜の名所として期待が膨らみます。

ゲートキーパー研修会

2月21日(金)、くろしおホールにてゲートキーパー研修会が行われました。ゲートキーパーとは、個人在業の人に気づき、声をかけ、暴

広報 みはま 2025.4 No.672

この広報はホームページでもご覧いただけます。

クマノザクラ植栽事業（広報みはま4月号）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境整備事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

浅間山遊歩道（施業前）



写真2

浅間山遊歩道（施業後）



写真3

川瀬東屋（施業前）



写真4

川瀬東屋（施業後）



写真5

寺谷総合公園（施業前）



写真6

寺谷総合公園（施業後）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林公園等環境整備事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

浅間山遊歩道（看板設置）



写真2

浅間山遊歩道（看板設置）

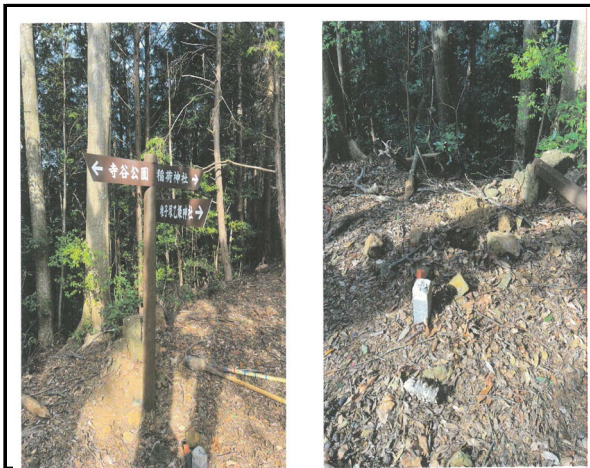


写真3

浅間山遊歩道（看板設置）



写真4

浅間山遊歩道（看板設置）

紀 宝 町

令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報（令和6年度版三重県市町要覧及び令和5年度版森林・林業統計書による）

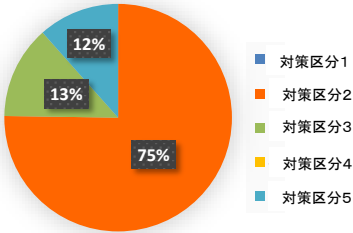
市町名	紀宝町	三重県
人口（人）	9,771	1,716,617
年少人口割合（％）＊1	10.9%	11.4%
森林面積(ha)	6,071.30	371,680.22
民有林面積(ha)＊2	6,026.59	348,212.01
森林率(%)	76.0%	64%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	8	10.7

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合 ★①-5、②-5



2. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	2	生活環境林整備事業	5,726,500	5,696,038		5,696,038				
2	3	森と緑の環境教育事業	1,000,000	1,000,000			1,000,000			
3	5	木質整備事業	874,962	874,962					874,962	
計			7,601,462	7,571,000	0	5,696,038	1,000,000	0	874,962	0

3. 令和6年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	0.92ha	1,009,800	1,000,000	災害緩衝林実施箇所周辺の調整伐、調査
災害からライフラインを守る事前伐採事業				
県民参加の植樹祭事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	みえ森と緑の県民税市町交付金においては、森林環境譲与税を財源とした森林施策とすみ分けをおこないながら、町の森林主要施策としての重要財源と位置づけて活用していく。
事業実施により期待される効果	当町が公益性の判断のもと実施する事業においては、特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に影響を及ぼすものが多く、町民のみならず周辺の県民が恩恵を受けている。
情報発信への取組	各種集客イベントの際、県民税のPRをチラシの配布により行っている。また、のぼり旗の掲示も行った。その他、町ホームページ、役場庁舎内においてのパンフレットの配布などを実施。

令和6年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税（千円）
1	① 意向調査の準備作業	475	475
2	② 意向調査	660	660
3	⑦ その他（森林整備）	902	902
4	③ 私有林整備	26,015	26,015
5	⑩ 専門員の雇用	700	700
6	⑯ その他（木材・普及啓発関係）	680	680
7	⑰ 基金積立（森林整備等）	861	861
8			
9			
10			
	合計	30,293	30,293

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	生活環境林整備事業				
事 業 費	5,726,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,696,038		30,462

1. 事業の目的

公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地・竹林等の整備や危険木等の伐採または枝下ろしすることにより、災害時等の倒木を未然に防ぎ、生活環境の向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地・竹林等の整備や危険木等の伐採及び枝下ろしを行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

紀宝町

【実施箇所及び箇所数】

町内6箇所（大里、鵜殿他）公共施設等

【事業量】

鵜殿地区長谷町有地支障木伐採（高所作業車使用）0.3ha、鵜殿地区梅林公園支障木伐採10本、
鵜殿地区自然公園内下草刈0.9ha、同公園内間伐0.13ha、
大里地区（京城跡）緑地整備0.6ha、鵜殿地区ふるさと歴史公園下草刈0.9ha

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

該当箇所の整備により、公共施設や生活道周辺等の環境が良好になる。災害時等の倒木の危険性が減る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

工事の際に、みえ森と緑の県民税事業の「のぼり」を設置し、PRを行うことで、住民に事業周知を図った。

【新たな対策・視点及び改善点】

住民からの要望も多く、事業効果が高いことから、今後も継続して事業に取り組んでいく。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	生活環境林整備事業				
事 業 費	5,726,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			5,696,038		30,462

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

紀宝町内において、伐採、下草刈等森林整備の実績がある森林組合及び町建設業組合に加盟している業者を選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	2地区（鵜殿、大里）の住民
期待する波及効果	該当箇所の整備により、公共施設や生活道周辺等の環境が良好になる。災害時等の倒木の危険性が減る。

【公的関与の必要性】

町有地の整備であるが、倒木等の危険性があり、住民生活に支障をきたす恐れのあるため、町で整備を実施した。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

危険木の伐採・緑地整備であり、皆伐等を考えていない為、転用制限等を考えていない。

今後も森林所有者（町・個人）により適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	事業実施箇所
回覧板・掲示板	実施前	事業対象地区
パネル展示	実施後	役場庁舎内
アンケート実施	実施後	役場庁舎内

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

生活道路の通行環境が良くなり、災害時等の危険が軽減され、竹林整備や緑地整備の実施により景観も良くなった。

実施要領第10号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町
------	-----------------	-----	-----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
支障木伐採	鵜殿地区長谷町有地支障木伐採（高所作業車使用）	ha	0.30			通学路沿い 斜面
以下内訳						
作業員労務費		日	46	21,300	979,800	作業員人件費及び燃料費等
機械使用料	バックホー	式	1		192,000	ハサミ使用
機械使用料	クレーン	式	1		260,000	
機械使用料	ダンプトラック	日	14	12,000	168,000	4 t トラック
処分費		t	50	25,000	1,250,000	
交通誘導員		日	14	17,000	238,000	
	小計				3,087,800	
	回送費				25,000	
	諸経費				500,000	
	工事価格				3,612,000	千円止め
	消費税				361,200	
		合計			3,973,200	

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
支障木伐採	鵜殿地区梅林公園支障木伐採	本	10		64,800	公園内遊歩道
		合計			64,800	

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
緑地整備	鵜殿地区自然公園内下草刈	ha	1.00			
以下内訳						
下刈労務費		ha	0.30	249,000	74,700	作業員人件費及び燃料費等
共生林歩道草刈		ha	0.70	383,000	268,100	作業員人件費及び燃料費等
共通仮設費		式	1		28,795	
間接費		式	1		144,405	
	小計				516,000	
	消費税				51,600	
		合計			567,600	

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
緑地整備	鵜殿地区自然公園内間伐	ha	0.13			
以下内訳						
直接工事費		式	1		195,232	作業員人件費及び燃料費等
共通仮設費		式	1		16,399	
	諸経費				82,369	
	小計				294,000	
	消費税				29,400	
		合計			323,400	

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
緑地整備	大里地区（京城跡）緑地整備	ha	0.60			間伐
以下内訳						
直接工事費		式	1		342,500	作業員人件費及び燃料費等
共通仮設費		式	1		28,770	
	諸経費				128,730	
	小計				500,000	
	消費税				50,000	
		合計			550,000	

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
緑地整備	鵜殿地区ふるさと歴史公園下草刈	ha	0.60			遊歩道、法面下草刈
以下内訳						
直接工事費		式	1		149,400	作業員人件費及び燃料費等
共通仮設費		式	1		12,549	
間接費					63,051	
	小計				225,000	
	消費税				22,500	
		合計			247,500	

総計

5,726,500

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
事業名	生活環境林整備事業				

7の(1). 写真



写真1

鵜殿地区長谷町有地支障木伐採（実施前）



写真2

鵜殿地区長谷町有地支障木伐採（実施中）



写真3

鵜殿地区長谷町有地支障木伐採（実施後）

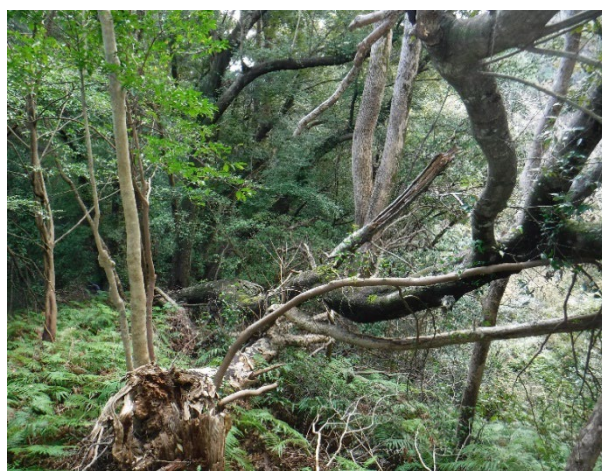


写真4

鵜殿地区梅林公園支障木伐採（実施前）



写真5

鵜殿地区梅林公園支障木伐採（実施中）



写真6

鵜殿地区梅林公園支障木伐採（実施後）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

鵜殿地区自然公園下草刈（実施前）



写真2

鵜殿地区自然公園下草刈（実施中）



写真3

鵜殿地区自然公園下草刈（実施後）



写真4

鵜殿地区自然公園内間伐（実施前）



写真5

鵜殿地区自然公園内間伐（実施中）



写真6

鵜殿地区自然公園内間伐（実施後）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1
大里地区（京城跡）緑地整備（実施前）



写真2
大里地区（京城跡）緑地整備（実施中）



写真3
大里地区（京城跡）緑地整備（実施後）

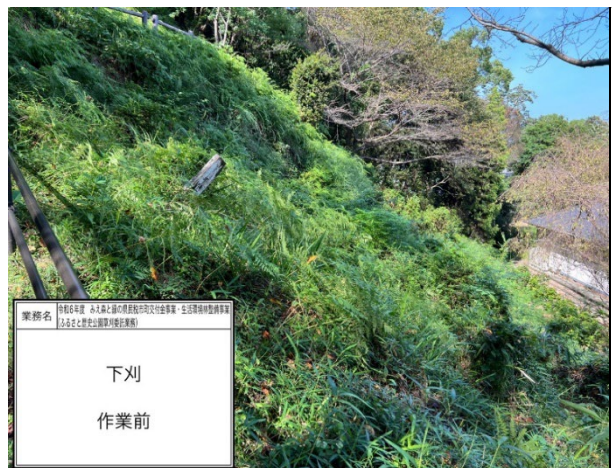


写真4
鵜殿地区ふるさと歴史公園下草刈（実施前）



写真5
鵜殿地区ふるさと歴史公園下草刈（実施中）



写真6
鵜殿地区ふるさと歴史公園下草刈（実施後）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	生活環境林整備事業
-----	-----------

7の(1). 写真



写真1

みえ森と緑の県民税PR活動（パネル展示）



写真2

みえ森と緑の県民税PR活動（パネル展示）

写真3

写真4

写真3

写真4

写真5

写真6

写真5

写真6

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	森と緑の環境教育事業				
事 業 費	1,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		

1. 事業の目的

子どもから大人まで多くの町民の方々に、森や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、身近にある紀宝町の自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

森や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、紀宝町の自然の魅力を再発見し、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことができるよう、獣害に強い豊かな里山づくり講座などの環境学習講座やワークショップなどを行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

紀宝町教育委員会

【実施個所及び箇所数】

開催場所：紀宝町立図書館、阪松原生活改善センター

【事業量】

講演会1回、ワークショップ3回

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森や緑について学び、身近にある紀宝町の自然の魅力を再発見することにより、子どもから大人まで多くの町民の方々に、森や緑を守り育てることの大切さを理解していただけることが期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

各イベントだけでなく森林等への関心を持っていただくよう県民税や森林に対する想いを聞き取るアンケートを実施、また参加者全員に県民税のパンフレットと啓発グッズを配布することにより周知に努めた。

【新たな対策・視点及び改善点】

多くの方から継続の要望があり、各イベント毎のアンケート等を今後の講座内容の選定に反映させていく。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森と緑の環境教育事業				
事 業 費	1,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

事業目的に適した講師を選定。過去実績があるなど、様々なノウハウを持っている事業者を活用した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	各講演会等参加者 延べ136名
期待する波及効果	森林の持つ多面的機能や地元産材について理解を深める。

【公的関与の必要性】

町民に森林の大切さを伝える貴重な機会であり、町（行政）が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	イベント会場内に設置
啓発物品配布	実施中	イベント参加者全員に配布
アンケート実施	実施中	イベント参加者全員にアンケート用紙を配布
チラシ等配布	実施前	イベント案内チラシに県民税を使用した事業と明記し、県民税についての説明文も記載、紀宝町内全戸に配布
パネル展示	実施中	会場内にパネル展示を設置

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

参加者からの評判も良く、今後も継続して同じような取り組みをしてほしいとの声が多く寄せられている。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町
事業名	森と緑の環境教育事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
講師委託料（講演会・ワークショップ等）		式	1			
以下内訳	獣害に強い豊かな里山づくり講座	回	1		200,000	座学編・実践編
	草笛ワークショップ	回	1		100,000	ワークショップ
	里山ワークショップ	回	1		500,000	スライドトーク、フォトフレーム作成
	「木」と「草」が支える暮らしをテーマとした映画上映会、ワークショップ	回	1		200,000	映画上映会、ワークショップ
		合計			1,000,000	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1
獣害に強い豊かな里山づくり講座PR活動チラシ
町内全戸配布

写真2
獣害に強い豊かな里山づくり講座（座学編）
（R6. 9. 11） 参加人数：27名

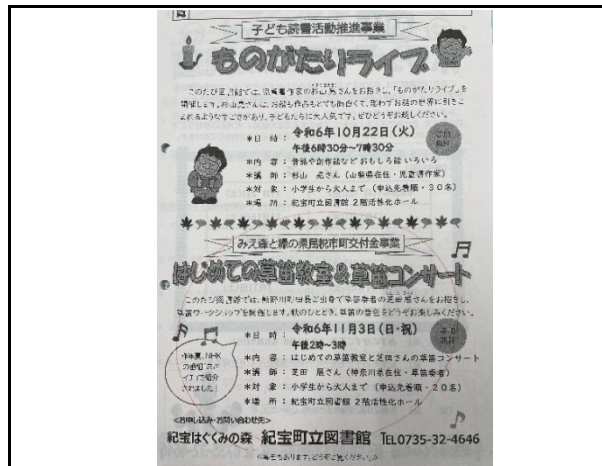


写真3
獣害に強い豊かな里山づくり講座(実践編)
（R6. 9. 12） 参加人数：26名

写真4
草笛ワークショップPR活動（チラシ）
町内全戸配布

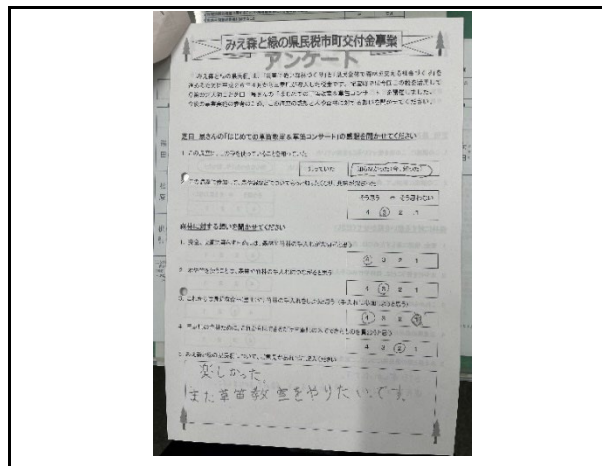


写真5
草笛ワークショップ（R6. 11. 3）
参加人数：24名

写真6
草笛ワークショップ（アンケート）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

7の(1). 写真

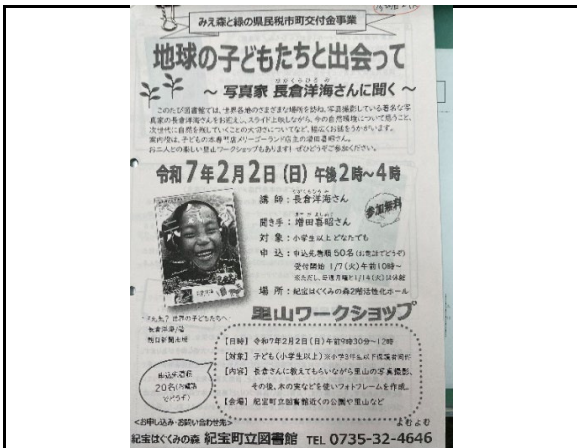


写真1
里山ワークショップPR活動チラシ（R7. 2. 2） 町内全戸配布

写真2
里山ワークショップ（R6. 9. 11）
参加人数：29名

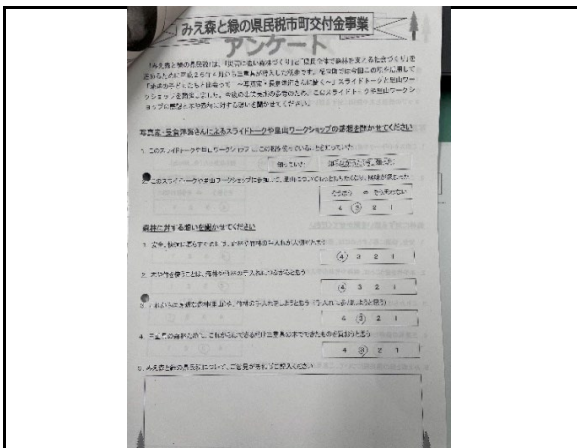


写真3
里山ワークショップ（アンケート）

写真4
「木」と「草」が支える暮らしをテーマとした映画上映会、ワークショップPR活動（チラシ）
町内全戸配布

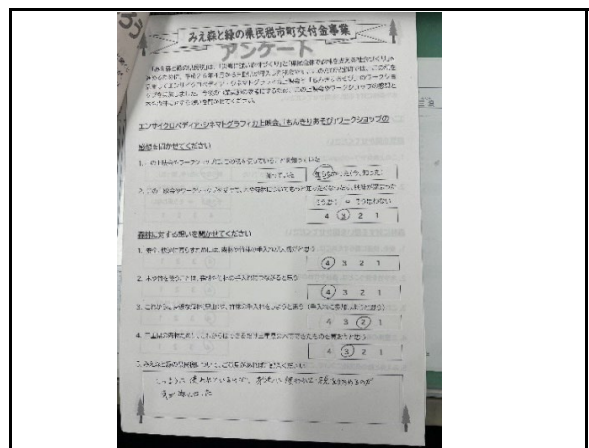


写真5
「木」と「草」が支える暮らしをテーマとした映画上映会、ワークショップ（R7. 3. 30）
参加人数：30名

写真6
「木」と「草」が支える暮らしをテーマとした映画上映会、ワークショップ（アンケート）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の環境教育事業
-----	------------

7の(1). 写真



写真1
みえ森と緑の県民税PR活動（パネル展示）
(R7. 3. 30)



写真2
みえ森と緑の県民税PR活動（パネル展示）
(R7. 3. 30)



写真3



写真4



写真3



写真4



写真5



写真6



写真5



写真6

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
3	木質整備事業				
事 業 費	874,962 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			874,962		

1. 事業の目的

地元住民の憩いの場でもある、飛雪の滝キャンプ場に設置してある木質水車の修繕に「三重の木」を使用することで、県産材の消費と木に親しむ環境づくりを行う。

2. 事業実績概要

【事業内容】

キャンプ場に設置してある木質水車の修繕工事を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

紀宝町

【実施個所及び箇所数】

紀宝町浅里地内 飛雪の滝キャンプ場

【事業量】

水車：一基

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

木質水車の修繕により、キャンプ場利用者の利便性の向上と、木に親しむ環境づくりを行う。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

キャンプ場の来場者に木質水車の設置をPRすることで、木に親しむ環境づくりを心掛けた。

【新たな対策・視点及び改善点】

水車を修繕したことで地元住民から感謝されている。

キャンプ場利用者にもPRを行い、今後も継続して水車の管理を行っていく。

令和6年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
3	木質整備事業				
事 業 費	874,962 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			874,962		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
工事請負	建設業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

水車を修繕できる地元業者を選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	浅里地区住民、飛雪の滝キャンプ場利用者
期待する波及効果	木に親しむ環境づくりを構築する

【公的関与の必要性】

町内外の住民に森林の大切さを伝える貴重な機会であり、町（行政）が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

実施後の管理については、キャンプ場管理者が実施する。

また転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	事業実施個所
回覧板・掲示板	実施前	事業対象地区
施工看板に掲示	実施中	事業実施個所

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

地元住民からの要望により、木質水車が修繕されたことで大変喜ばれている。また、飛雪の滝キャンプ場利用者においても、場内に水車が設置されていることが珍しいため、水車の使用目的や地元産材に関して関心を持ってもらい、大変好評である。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町
------	--------------------	-----	-----

事業名	木質整備事業
-----	--------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
修繕費	水車修繕	式	1			
以下内訳						
原材料費	杉赤目込無地、ステン 釘、ビス、ボルト	式	1		336,500	
工事費	水車加工組立工事費	式	1		270,000	
工事費	水車取付工事費	式	1		130,000	
	諸経費				58,920	
	小計				795,420	
	消費税				79,542	
		合計			874,962	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	木質整備事業
-----	--------

7の（1）. 写真



写真1

水車修繕（施工前）



写真2

水車修繕（施工中）



写真3

水車修繕（施工後）

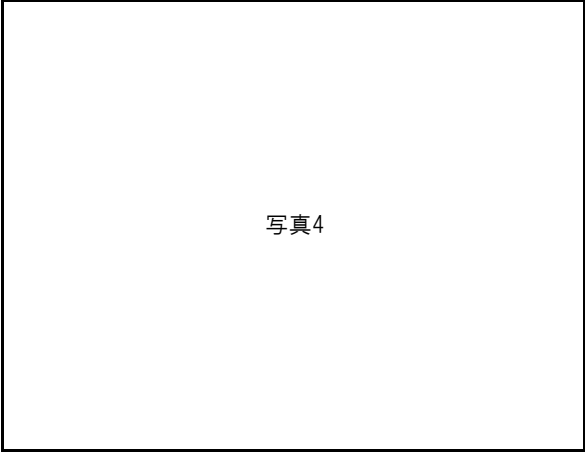


写真4

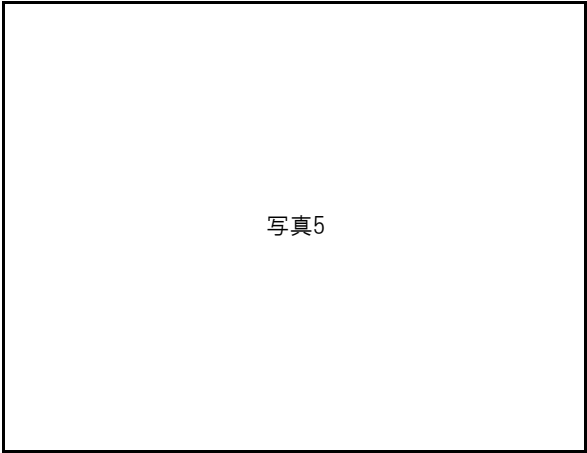


写真5



写真6